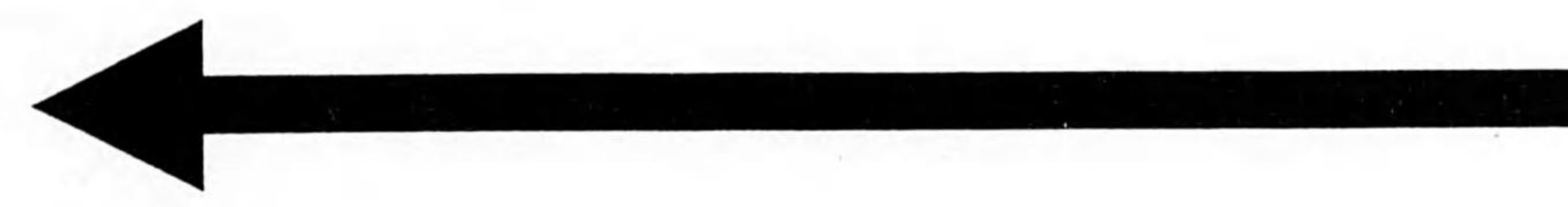


14.5
32



始



14
32

財團
法人
啓明會
第八回
大正十五年
事業報告書

財團法人啓明會第八回大正十五年事業報告書目次

一、事業……………一頁

二、會計……………一三二頁

三、會議……………一三三頁

附錄

本會設立年月日、寄附行為及職員名簿



全寄贈本



一、事業

本會ハ大正七年八月ノ創立ニ係リ、研究、調査、著作、發明及ヒ發見ヲ助成獎勵スル
 コト、必要ナル講演、出版ヲ爲スコト等(別記寄附行爲第
三條ニ詳記ス)ヲ目的トス。而シテ創立以來前
 年度(十四年正)末迄ニ研究、調査、著作、發明、發見等ニ對スル經費補助請求ノ申込ヲ受ケ
 タル件數ハ合計二九九件、其内審査ノ結果採用ト決定セルモノ五十七件(別記(一)一乃
三六)之ニ對スル補助決定金總額三十六萬九千六百七十二圓ナリ。尙前年度末
 迄ニ採用事業中十四件ハ完成シ(別記(一)
一乃至二四)累計二十一回ノ講演會及ヒ展覽會ヲ開
 催シ、依囑事業一件ニ着手シタリ。



而シテ本年度(十五年正)中ニ於ケル研究、調査、著作、發明、發見等ニ對スル補助請求申込數ハ
 總計二十三件ニシテ、外ニ保留又ハ審査未了ノ爲メ前年度ヨリ繰越セルモノ二十二件
 ヲ加ヘテ、合計四十五件、内審査ノ結果採用ト決定セルモノ十四件(別記(二)三
七乃至五〇)(外ニ補助追加一
件別記(二)一三)
 次ニ不採用ト決定セルモノ十九件、保留及調査未了ノ爲メ次年度へ繰越セルモノ七件
(外ニ撤回七
ルモノ五件)右本年度中ニ決定セルモノノ補助金額四萬八千四百二十圓ナリ。依テ創立

以來本年度末迄累計ノ補助請求申込數三百二十二件(内主トシテ理化學ニ關スルモノ百六十一件、社會科學ニ關スルモノ百五十七件、其他ノモノ四件)其内採用ト決定セルモノ七十一件(繼續、追加ハ加算セズ)(主トシテ社會化學ニ關スルモノ三十九件)其補助決定額(繼續、追加ヲモ加算ス)四十一萬八千九十二圓其内支給濟額三十四萬二千七百八十八圓四十七錢ナリ。而シテ右採用事業中前年度末迄ニ完成シタルモノ十四件ナリシカ、本年中ニ更ニ七件ヲへ、完成補助事業ノ累計ハ三十一件トナリ、他ハ總テ豫定ノ通り進捗中ナリ。尙依囑事業一件モ着々進捗シ、既ニ三分ノ二ハ完成シタリ。又講演會二回、邦樂會一回ヲ開キ其累計二十四回トナレリ。而シテ補助事業(完成、進)(成績一覽表ヲ附記ス)依囑事業及ヒ講演會展覽會並ニ紀要出版ノ概況等左ノ如シ

(二) 完成セル補助事業

一、中央亞細亞發掘ノ古畫ノ摹本作製

金一萬圓ノ補助

東京市外大崎町字上大崎西谷二二六

文學博士 瀧 精 一

本件ハ別記矢吹氏撮影中ノ支那古寫本ト共ニオーレル、スタイン氏カ中央亞細亞燉煌千佛洞ヨリ發掘シ現ニ英國博物館ニ保管セラレ、頗ル有益ナル研究資料タル、二百餘

點ノ古畫中最モ優秀ナルモノ二十點ヲ模寫セル事業ナリ。即チ本會ハ瀧氏ノ申出ニ應シ右模寫費トシテ金一萬圓ヲ支出シ、同氏ハ畫家永田春水、井上白楊兩氏ヲ派遣シテ之ヲ模寫セシメ大正十年本會ニ提出セラル。何レモ剝落模寫ノ方法ヲ以テセル模本ニシテ、技法精妙真ニ原本ノ髣髴ヲ得タリ。本會ハ同年四月之ヲ東京帝大内ニ於テ一般ノ展觀ニ供シ之ニ就キ瀧氏ノ講演ヲ開キ、尙其ノ全部左記二十點ヲ美術宗教考古學ノ研究資料トシテ同大學ニ寄附シタリ。然ルニ大正十二年九月ノ震火災ノ爲メ模本全部焼失セシハ遺憾ナリ。但シ幸ニ其寫ハ東京美術學校ニ現存ス。

記

地藏菩薩圖一枚、觀世音菩薩圖一枚、力士仰倒圖一枚、菩薩圖一枚、毘沙門天圖一枚、村女取乳糜圖一枚、釋迦降誕圖一枚、追述太子健陟屈膝車匿歸城圖一枚、引路菩薩圖二枚、熾盛光佛竝ニ五星神圖一枚、十王圖一枚、千手千眼觀世音菩薩圖一枚、釋迦樹下說法圖一枚、文珠普賢四觀音圖一枚、釋迦曼荼羅圖一枚、二觀音圖一枚

二、本朝文粹註釋ノ出版

佐賀縣唐津町大字東四五

金五千圓ノ補助

本件ハ柿村氏カ七年ノ星霜ヲ經テ研究セラレシ本朝文粹註釋ヲ出版セルモノニシテ、大正十年四月本會補助ノ下ニ其ノ出版ニ着手シ、十一年三月完成セルモノナリ。今日學者ノ日本漢文ヲ研究スル者ハ極メテ稀ニシテ、古賢先哲カ心血ヲ灑キシ詩文モ殆ト高閣ニ束ネテ顧ル者ナシ。柿村氏之ヲ遺憾トシ先ツ平安朝時代漢文ノ研究ニ着手シ即チ本朝文粹ヲ註釋セラル。本朝文粹ハ平安朝名流ノ漢文ヲ集メタル本邦固有ノ漢文書ニシテ、漢文研究者ノ精讀ス可キモノタルハ勿論國文學上ヨリモ又歴史文學ノ研究資料トシテモ必ス一讀ス可キモノナルニ係ラス、未タ其註釋書ノ公ニセラレシモノナカリシハ學界ノ恨事ナリシニ、同氏ニ依テ本註釋成リ之ヲ出版スルニ至レルハ大慶ト云フヘク、大正十二年五月氏ハ本事業ニ對シ恩賜賞ヲ受ケラレタリ。本書作製ニハ先ツ誤寫ヲ校訂シ、次ニ大意ヲ解釋シ、特ニ故事語句ノ出典ヲ審ニシテ之ヲ註ニ掲ケ、大意ノ解釋ハ釋トシテ菴頭ニ收メ以テ一般讀者ニ便セリ。同氏ハ本註釋書ノ内容ノ整理等ニ就キ文學博士服部宇之吉、同芳賀矢一兩氏ニ協議セラレタリ。而シテ本書ハ上下二冊ヨリ成リ(約二千四百頁)、先ツ一千部ヲ出版シ、内三十部ハ本會ヨリ各方面へ頒

布シ、殘部ハ印刷兼發行所タル内外出版會社ニ於テ廣ク一般ニ販賣シツツアリ。

三、支那佛教史蹟踏査

東京市小石川區指ヶ谷町一

金八千圓ノ補助

(踏査費六千圓、外ニ蒐集品整理費二千圓)

文學博士 常盤大定

本件ハ常盤氏カ支那ニ於ケル佛教竝ニ佛教ニ關係アル儒、道兩教ノ史蹟ヲ踏査シ蒐集品ヲ整理セラレシヲ援助シタルモノナリ。同氏ハ東大文學部ニ佛教史ヲ擔任セラレ曩ニ大正九年末支那各省ヲ踏査セラレシカ、支那ノ廣大ナル右踏査地點ハ僅ニ其一部ニ過キサリシヲ以テ、更ニ半年ヲ期シ再ヒ踏査ヲ遂行セント欲シ、本會援助ノ下ニ十年九月渡支セラレタルナリ。思フニ支那文明史上ノ精華ハ隋、唐ノ文明ニシテ佛教ハ其中核ナルヲ以テ、佛教ノ史實ヲ蒐集シ其藝術ヲ探查スル事ハ支那研究上頗ル肝要トス。本踏査ハ隋、唐佛教ノ史實及藝術ヲ主眼トセルモ尙其前後ニ涉リ又佛教ニ關係アル儒、道兩教ニモ及ヒ、又其區域ハ大體山東、直隸、江蘇、河南等ノ諸省ニ亘リタリ。而シテ同氏ハ十一年二月多數ノ拓本寫真等ヲ蒐集歸朝セラレ、詳細ナル報告書ト共ニ之ヲ本會へ提出セラレタルヲ以テ、四月東京帝國大學ニ於テ之カ報告展覽講演會ヲ開催シテ

廣ク一般ニ紹介シ、蒐集品二百五十餘點ニハ更ニ同年度ニ於テ整理費ヲ補助シテ表装等ヲ施シ、假ニ同大學漢文學教室ニ寄託セシカ、大正十二年九月震火災ノ爲メ燒失セルハ頗ル遺憾ナリ。但シ踏查報告ハ概要ヲ本會講演集ニ、詳細ヲ同氏著「支那佛教史蹟」ニ發表セラレ、右燒失品ノ一部ハ寫真トシテ同著ニ掲載セラレアリ。

四、英國博物館所藏支那古寫本ノ研究

東京市外瀧野川町三六五

金一萬一千一百圓ノ補助（三回ニ決定）

文學博士 矢 吹 慶 輝

本事業ハ彼ノ探險家「スタイン」氏ノ中央亞細亞燉煌發掘品ニシテ「ブリチツシ、ミュジ」アム「保管」ノモノノ中ヨリ、東洋ノ宗教、歴史等ニ關スル重要文書ヲ撮影シテ調査研究セラレタルモノナリ。此等ノ古寫本ハ印度文明殊ニ佛教ノ貴重材料トシテ世界學界ノ注目スル所ニシテ、最初矢吹氏ハ大略四千葉ノ「ロートグラフ」ニ五百餘點ノ古寫本ヲ撮影シテ、之ヲ研究センコトヲ希望セラレ、大正八年六月本會ハ其經費トシテ金三千五百圓ヲ補助セリ。依テ早速撮影ヲ依頼セラレシカ、歐洲戰後同博物館ノ整理手間取り、殊ニ同寫本ノ番號等移動シ目錄ノ作製抄ラサル等ノ爲メ撮影豫定ノ通り進捗セス、遂ニ

氏ハ特ニ渡英シテ親シク關係當局ヲ援助盡力スルニ非ラサレハ到底其目的ヲ達成シ難キヲ確メラレ、本會ハ更ニ四千八百圓ノ渡英費ヲ補助シタリ。同氏ハ十一年十二月渡英シ、其後非常ナル努力苦心ノ結果、豫定ノ通り撮影ヲ了ヘ、十二年九月歸朝セラル。尙其ノ渡英中更ニ一千七百餘葉ノ貴重資料ヲ發見シ、氏ノ責任ヲ以テ撮影註文セラレシモノアリ、本會ハ同一資料ヲ一纏メトシ置クヲ有益ト認メ、之ヲ買受ケ、合計六千葉（七百餘點）ノ表装其他ノ整理費ヲモ支出シ、氏ノ盡力ニ依リ全部ノ整理結了セリ。而シテ同氏ハ此等ノ文書ニ付、既成ノ研究成績ニ對シテ恩賜賞及學位ヲ受ケラレ、十四年四月本會主催ヲ以テ、東洋文庫ニ於テ右寫真ヲ展覽シ、同氏ハ之ニ就キ講演セラレタリ。

五、日本家庭ニ於ケル電力ノ利用

故工學博士 鳥 潟 右 一

三ヶ年間ニ金四千圓ノ補助

本事業ハ電力ヲ日本家庭ニ應用スルニハ如何ナル方式竝ニ器具裝置ヲ採用スヘキヤ、又瓦斯薪炭ニ比シ經濟的ニ利用シ得ルヤ否ヤヲ研究シタルモノニシテ、大正十年四月以降本會ニ於テ之ヲ援助シタリ。而シテ本研究ノ主眼トセシ所ハ（一）如何ニシテ使

用電力ノ極大値ヲ極小ナラシメ得ルヤ、(二)夜間水力ノ徒ラニ流レテ失ハルル電力ヲ家庭ニ於テ利用スル方法ナキヤ、(三)冬期煖房ニ使用スル電力ヲ夏季有効ニ家庭ニ使用スルノ途ナキヤ等ノ諸問題ニシテ、同氏ハ前二者ニ對シテハ充分ニ保温セラレシ容器内ニ藏セル水ヲ一氣壓以上ノ高氣壓攝氏一〇〇度以上ノ高溫度ニ熱シテ貯藏スル事ニ依リテ其目的ヲ達スヘク、後者ニ對シテハ冬季煖房ニ使用セルヲ夏季冷蔵浴場ニ使用シテ其目的ヲ達セン事ニ努力シ然モ日本中流家庭ノ負擔力ヲモ考慮セラレ、又電氣鍋等ノ考案モ成リ、其成績ハ「蓄電庖厨裝置ト電氣鍋竝ニ電氣火鉢」ト題シテ之ヲ發表シ、之ニテ學理上ノ研究ハ既ニ一段落ヲ告ケラレタリ。而シテ更ニ其工業品トシテ實用化スルコトノ研究ヲ繼續スルノ豫定ナリシニ、大正十二年六月俄ニ病歿セラレシハ洵ニ遺憾トスル所ナリ。

六、瓜哇史ノ翻譯

東京市麻布區市兵衛町二ノ六六

松岡 靜雄

一年三ヶ月間ニ金二千圓ノ補助

本件ハ最近蘭領東印度政府國民教科書委員會ヨリ發刊セラレタル蘭人「フロイン」

「ス女史著瓜哇史」(蘭文)ヲ邦語ニ譯述考證セラレタルモノナリ。元來瓜哇ハ南洋諸島中最古ノ文化ヲ存シ、二世紀ノ半頃既ニ「黄金ノ國」米ノ國トシテ印度埃及ニ知ラレ、而シテ又我國トハ種々密接ナル關係アリ、即チ古代瓜哇ハ考古學上等我古代史ト關連アルヘク同シク佛教國トシテ宗教上ノ關係モ存シ、其蘭領トナリシ後ニ於テハ彼我頻繁ナル交通アリ、現時ニ於テハ貿易上ノ關係亦淺カラス。故ヲ以テ邦人ノ瓜哇ニ關スル知識ヲ必要トスルハ勿論ニシテ、其ノ歴史研究ノ如キモ極メテ肝要ナリトス。然ルニ從來瓜哇ニ關スル簡明適切ナル歴史書乏シク、之カ邦譯セルモノニ至ツテハ皆無ニシテ研究者ノ遺憾トセシ所ナリシニ、「フロイン」メーヌ「女史」ノ本著ハ行文簡明内容充實頗ル適當ナル瓜哇歴史ニシテ、挿入セル佛畫ノ如キ極メテ見事ナルモノ多シ。而シテ松岡氏ハ多年此方面ノ研究ニ從事セラレ、本書ノ譯述考證ニハ最モ適任ト云フ可ク、依テ本會ハ大正十一年十二月來、本件ヲ援助シ同氏ノ努力ニ依リ既ニ事業完成シ「瓜哇史」ト題シテ出版セラレタリ(菊判四百三十二頁)。尙内二十部ハ之ヲ本會へ提出セラレ本會ハ同書ノ利用多キ諸方面へ配布シタリ。

七、古語拾遺ノ研究、英譯及ヒ出版

東京市小石川區丸山町一

金二千圓ノ補助

文學博士 加藤 玄 智

東京市本郷區田町一四

文學士 星野 日子 四郎

本事業ハ加藤、星野兩氏ノ協同事業ニシテ、本邦古代ノ文獻中日本書紀、古事記ニ尋イテ貴重ノ資料タル古語拾遺ヲ研究シ、其本文竝ニ同研究成績ヲ英譯シ、而シテ右全部ノ出版ヲ爲シ、以テ内外學界ニ貢獻シ、併テ日本ヲ海外ニ紹介セラレタルモノナリ。先ツ初ニ本書ノ内容ヲ批評的ニ攻究シ、本書成立ノ年時ヲ考ヘ、其目的ヲ明カニシ、之ヲ其時代相ニ照シテ、本書ノ歴史的價値ヲ論究シ、又各章句ニ出入シテ、批評的研究ヲ行ヒ、其結果ニ成レル詳細ナル脚註ヲ施シ、卷末ニ於テハ古今ニ亘ル古語拾遺ノ異本及ヒ註釋書ノ「ビブリオグラフィ」ヲ附セラレタリ。本會ハ大正十二年七月來之ヲ援助シ、兩氏ノ苦心ニ依リ、十三年七月「The Kogoshui or Gleaning from Ancient Stories」ト題シ出版セラレタリ（菊版百九頁。其後二版發行）。内百部ハ本會ニ提供セラレ、本會ハ利用多キ諸方面ヘ配布シタリ。

八、校本萬葉集ノ整理及刊行

東京市本郷區西片町一〇

三ヶ年間ニ金一萬四千圓ノ補助

文學博士 佐々木 信 綱

〔事業〕 萬葉集ハ我國固有文明ノ產物トシテ最貴重ナル古典ナルコトハ言ヲ俟タス而モ其ノ研究ノ基礎タルヘキ校訂ノ業ニ至リテハ、鎌倉時代ニ仙覺律師カ諸本ヲ集メテ定本ヲ作りシ以來特ニ企テラレシコトナシ。佐佐木氏之ヲ遺憾トセラレシカ、明治四十五年氏ノ希望文部省文藝委員會ニ容ラレ、爾來氏ハ文學士橋本進吉、同千田憲、武田祐吉氏等ト共ニ萬葉集校訂ノ事ニ從ヒ、同會廢止後ハ東大文學部國語研究室ニ於テ古河男ノ寄附ニ依ル國語研究獎學資金ニ依リテ之ヲ繼續シ、現存ノ古寫本全部ヲ各地ニ搜索シ、宮内省有栖川宮家ヲ始メ諸家ニ請ヒテ、一々原本ニ就キテ嚴密ナル校合ヲ施行年ヲ閱スルコト滿七年、漸ク其校合ヲ終ルコトヲ得タリ。依テ其原稿ヲ整理シテ刊行ヲ爲スヲ必要トシ、大正八年十一月本會ノ補助ヲ求メラレ、本會ハ右整理刊行ノ經費ヲ支給スルコトトセリ。其後本事業ハ着々進捗シ、文學士久松潜一氏ニ囑ヒシ仙覺以後ノ研究ノ補入モ成リ、能書家ヲシテ之ヲ淨書セシメ、寫真金屬版ニ附シ、大部分ノ印刷及製本完了セシニ、大正十二年九月ノ震火災ノ爲メ、原版製本共灰燼ニ歸シタルハ千秋

ノ恨事ナリ。然ルニ幸ニモ全部ニ付完全ナル校正摺ノ焼失ヲ免レシモノアリ、直ニ再印刷ニ着手シ、既ニ第一帙首卷二冊附卷一冊諸本輯影二冊、第二帙(自卷一至卷四、四冊)第三帙(自卷五至卷九、五冊)第四帙(自卷一〇至卷一四、五冊)、第五帙(自卷一五至卷二〇、六冊)全部ヲ出版セラレ、以テ其完成ヲ告ケ、本會ニ提供セラレタルモノハ各方面ニ寄贈シタリ。

九、更科日記錯簡考ノ出版及同註釋ノ研究

東京市小石川區大塚仲町二六

金九百圓ノ補助

玉井幸助

〔事業〕 更科日記ハ平安朝文學中出色ノ作品タルニ拘ラス、數百年間錯簡ノ儘傳ハリ、前後連絡ヲ缺キ、學者其解釋ニ行詰リ居タリ。玉井氏ハ多年同日記ヲ研究シ、殊ニ其ノ錯簡部分ノ解釋ニ苦心ヲ重ネ、錯簡ノ改訂ヲモ試ミタリ。而モ之ヲ立證スヘキ古書ノ探求ニ餘念ナカリシニ、偶々佐々木信綱氏ノ指導ニ依リ、帝室ノ御物タル藤原定家筆更級日記ヲ拜觀スルコトヲ得、コレカ錯簡ノ根源ナリシコトヲ發見シテ錯簡ノ依テ生セシ所以ヲ究明シ、自家ノ研究ト符合スルコトヲ確メタリ。依テ氏ハ右御物本ニ由リ錯簡ノ由來ヲ證明解説シ、同日記ヲ正シキ舊形ニ復シ之ヲ出版スルト共ニ、其註釋書ヲモ完成セント欲シ、大正十三年十一月來本會ハ其經費ヲ援助スルコトトセリ。而シテ氏ハ十四年五月更級日記錯簡考ヲ出版シ、本會ニ提供セラレシモノハ各方面ニ寄贈シタリ、尙同年十二月更級日記新註ヲ出版セラレタリ。

一〇、日支漢辭典ノ編纂出版

東京市外千駄ヶ谷町八五六

三ヶ年間ニ金六千九百七十圓ノ補助

服部探

(編纂費二千九百七十圓、外ニ出版費四千圓)

〔事業〕 本事業ハ辭典ノ編纂トシテハ大正十年中ニ完成シ原稿全部ノ提出アリシモノナルカ營利業者ノ出版ヲ引キ受クル者無キ爲メ更ニ十三年度以降ニ於テ出版費ヲ援助セルモノナリ。元來日支關係ノ重大ニシテ、且ツ支那留學生ノ渡來多キニモ係ラス、彼等カ本邦文物ヲ研究スルニ當リ適當ナル辭典ナシ。例ヘハ漢字ニテ書キタル現代日本語中取扱、馬鹿、割合、割引、爲替、書留、掛値、掛賣、面倒、世話、怪我、辛抱等吾人ノ日常語ノ多クハ「言海」ことばの泉等ノ國語辭典中ニハ之ヲ解ケトモ、其ノ語ノ讀ミ方ヲ知

ラサル支那人ニハ利用ノ方法ナク、又此等ノ現代語ハ、典故正シキ熟語ニ非サル故ニ辭林等ノ漢語辭典ニ之ヲ掲ケサルヲ以テ、結局此等ノ語ヲ知ルカ爲メニ支那人ノ利用シ得ル辭典ナク、日本語ヲ研究セントスル支那留學生等ノ最モ苦ム所ナリ。服部氏之ヲ遺憾トシ大正八年四月以來本會援助ノ下ニ、此等ノ日本語ヲ劃引ニ依リ、且ツ支那語ヲ以テ解説セル辭典ノ編纂ニ着手シ、爾來氏ハ非常ノ苦心ヲ以テ其編纂ヲ結了セラレ、之ヲ「日華大辭典」ト題シ印刷ニ附シ、大正十四年八月完成、内參拾部ヲ本會ニ提供セラレ本會ハ利用多キ各方面ヘ寄贈シタリ。

一、鳥頭屬植物中ノ「アルカロイド」ノ研究

東北帝國大學理學部

二ケ年間ニ金二千三百二十二圓ノ補助(二回ニ決定)

理學博士 眞 島 利 行

〔事業〕 鳥頭屬植物ハ「猛毒性」アルカロイドヲ含有スルモノ多ク、就中英獨諸國ノ *Adonis vernalis* 中ニハ「アコニチン」ト稱スル「アルカロイド」ヲ含ム事ハ既ニ知ラルル所ナルカ、其ノ化學的構造ニ至リテハ研究至難ニシテ些ノ進捗ヲ見ス。本邦ニテ本屬植物ハ各地ノ山地ニ野生シ藥用トシテ使用セラル、眞島氏ハ數年前ヨリ廣ク邦産ノ原料ヲ蒐

集シテ此「アルカロイド」ノ研究ニ從事セシレシカ、大正十年四月來本會援助ノ下ニ之ヲ繼續スルコトトナレリ。而シテ其後同氏研究ノ事項ハ(一)植物種類及其產地ト所含「アルカロイド」ノ本質トノ關係、(二)同一產地ノ同種植物ニ就テ採取時期ト所含「アルカロイド」トノ關係、(三)前二項ノ研究ニ於テ漸次蓄積セル材料ヲ以テ本研究ノ究極目的タル「アコニチン」類「アルカロイド」ノ化學的構造ヲ決定スル事ニシテ、已ニ秋田、白河、日光、東京附近、伊吹山、白山(加賀)、金剛山(河内)、霧島山、陸奥、北海道、樺太等ノ産品ヲ蒐集シ、白河、日光ニモ栽培ヲ試ミ、「アルカロイド」ノ精製「ヤバコニチン」ノ構造研究ヲ爲シ、其大要ハ既ニ獨逸ノ専門雜誌ニ發表シ、更ニ本會ノ補助ニヨリ其ノ詳細ヲ邦産鳥頭屬植物中ノ「アルカロイド」ニ就テ「ト題シ出版セラレ、本會ヘ提出セラレタルモノハ諸方面ニ寄贈シタリ。

一二、西日辭典ノ出版

メキシコ國チャパス州ソコス郡エスクエトラ町

金八千七百七十六圓ノ補助

日暹協働會社 清 野 三 郎

〔事業〕 西班牙語ハ西班牙本國ハ勿論、墨國ヲ始メ中米、南米ノ諸國及「フィリッピン」等ニ通用シ商業語トシテハ英語ニ次キテ廣ク使用セラレ、或ハ貿易上或ハ殖民上今後大

ニ同方面ニ發展セントスル本邦人ニハ最モ必要ナル言語ナリ。然ルニ我國ニハ未タ西日辭典ノ見ル可キモノナク、西班牙語研究者ノ頗ル不便トセシ所ナリ。日墨協働會社之ヲ遺憾トシ即チ本辭典ヲ編纂セリ。同書編纂ハ曩ニ外國語學校ヲ卒業シテ京都同志社ノ講師トナリ、後日墨協働會社員タリシ村井二郎氏之ヲ擔任シ、西班牙語學ノ權威タル外國語學校教授金澤一郎氏之ヲ校閲シ、尙其譯語ハ漢字混リ語ヲ以テスルト共ニ日本式ローマ字ヲ以テシ、其部分ハ同式ローマ字ノ先覺者東大教授理學博士田丸卓郎氏自ラ之ヲ校正シ、語數約三萬紙數約千百五十頁ニ達ス。而シテ本辭典ノ出版ノ如キハ營利事業ノ引キ受クル者無キヲ以テ、大正八年十一月本會ニ於テ其ノ出版費ヲ支出スルコトトセリ。其ノ後金澤、田丸兩氏ハ一層嚴密ナル校閲ヲ加ヘラレ、九年六月來博文館印刷部ニ於テ印刷ニ着手シ、既ニ大部分ノ印刷成リシニ大正十二年九月ノ震災ノ爲メ印刷工場倒潰シ、既成ノ業績散亂シテ一頓挫ヲ來タセシモ、本會ハ更ニ補助ヲ追加シテ再印刷ニ着手シ、十四年十月第一版二千部出版完成セリ、本會ヘ提出セラレタル一千二百五十部中百數十部ハ諸方面ニ寄贈シ、殘部ハ實費ヲ以テ讓渡シ、尙會社保有ノ約一千部モ既ニ賣却濟トナリ、何レモ頗ル好評ヲ以テ迎ヘラレ、今ヤ第二版ノ印刷ニ着手

セリ。

一三、[グエイマルン]博士研究成績ノ發刊

大阪工業試驗所

金三千圓ノ補助

ピョトル、ベトロヴィッチ、グエイマルン

〔專業〕 本件ハ[グエイマルン]氏ノ研究成績ヲ出版セシモノナリ。氏ハ露國人ニシテ「コロイド」化學ノ世界的權威ナリ。水又ハ空氣ノ如ク全部一樣ノ性質ヲ有スルモノヲ均一系ト云ヒ、花崗石ノ如ク色彩性質ノ異リタル部分ヨリ成ルモノヲ不均一系ト稱シ、其中間ニアルモノ例ヘハ牛乳膠等ノ如キヲ細散系ト云ヒ、細散系ノ物體ヲ研究スル化學ヲ「コロイド」化學ト名ツク。本邦諸大學ニ於テ之ヲ講義スルノ學者アレトモ未タ其專門家ト稱ス可キ人ナシト云フ、同氏齡未タ五十ニ達セサル、新進有爲ノ學者ニシテ、學術研究ニ對シテ頗ル忠實、多數ノ著述アリ、同國諸大學ニ關係セリ。氏ハ戰後本邦ニ流浪シ來ラレ東京帝大ハ氏ノ學力ヲ惜ミ氏ヲ聘シテ同大學理學部ニ於テ二ヶ月ニ涉リ、氏ノ專攻「コロイド」化學ニ付臨時講義ヲ開催シ其筆記ハ七百餘頁ノ講義録トナル、同大學教授片山博士等ハ之ヲ出版スルコトノ獨リ本邦學會ノミナラス、又世界化學界ノ爲

メ頗ル有益ナルヲ認メ、之カ出版援助ヲ本會ニ求メラレ、依テ本會ハ同書ノ世界的ノ良書ニシテ、又斯ル有爲ノ篤學者ヲ援助スルコトノ世界學界ニ裨益スルコト多カル可キヲ信シ、大正十二年之カ出版費ヲ補助シ、獨逸ニテ印刷ニ附シ十四年末ニ出版完成シタリ、本會ヘ提供セラレタル百部ハ利用多キ各方面ヘ寄贈シタリ。

一四、假名調査

東京市外高田町雜司ヶ谷九三六

六ヶ年間ニ金一萬二千二百圓ノ補助(三回ニ決定)

文學博士 大 矢 透

〔事業〕 假名調査事業ハ國學論上ヨリ見ルモ國語問題ノ上ヨリ見ルモ頗ル重要ナル事項ニシテ、曩ニ文部省内ニ設ケラレシ、國語調査委員會ニ於テモ此事業ニ従事スル所アリ、大矢氏モ亦同會委員トシテ大ニ假名ノ起原及成行等ニ付從來未詳不明ナリシ點ヲ闡明スル所アリタリ。同會廢止ノ後ニ於テモ同氏ハ此ノ研究ヲ續ケ、大正八年七月以降三ヶ年ヲ期シ本會ニ於テ之ヲ援助シ、十一年七月期間滿了シタレトモ、同氏ノ力ニ俟ツヘキ調査未了ノ事項尠カラサルヲ以テ、本會ハ引續キ更ニ三年間氏ノ調査ヲ援助シタリ。本會援助以來氏ハ假名ノ字體、假名遣及字音ノ沿革ニ付研究ヲ續ケ、八年秋以

來居ヲ奈良ニ移シ正倉院聖語藏ノ藏書等ニ付調査シ、十二年秋歸京調査ノ完結ニ努メ、既ニ假名遣及假名字體沿革資料トシテ「有林福田方」十輪經元慶點「成實論天長點」及「願經四分律古點」ヲ出版シ、唐寫四分律古點外四卷ヲ脱稿シ、結論トシテ「假名研究」一卷及附屬文書ヲ提出シ、本調査ヲ結了セラレタリ。依テ調査ノ概要、假名ノ研究ヲ本會紀要ニ發表セリ。其他尙前記韻鏡考モ本會援助ノ下ニ五百部ヲ出版セラレ、内二百部ヲ本會ヘ提出シ、本會ハ學校圖書館等ヘ寄贈シタリ。

一五、「アイヌ」辭典ノ増補改版

北海道札幌市北三條西七ノ二

金七千五百圓ノ補助

神學博士 ジョーン、バチラー

〔事業〕 本件ハ「バチラー」氏著「アイヌ」辭典ヲ増補改版セシモノナリ。「バチラー」氏カ「アイヌ」語學者トシテノ權威ナルコトハ内外定評アル所ニシテ、其著「アイヌ」辭典ノ價值ニ付テモ亦然リ。氏ハ明治十年來朝以來今ヤ七十歳ノ高齢ニ達スル迄四十八年ノ長年月ノ間終始一貫「アイヌ」人中ニ起居シ、傳道ノ傍ラ「アイヌ」語ノ研究ヲ繼續シ、三十四年「アイヌ」英和辭典(附「アイヌ」文典)ヲ出版シ、爾來引續キ其ノ研究ヲ遂ケ、大ニ補足修正ヲ加ヘ

新規ニ英、アイヌ辭典ヲ添付シ以テ之ヲ改版セント欲シ、出版店ニ交渉セラレタレトモ此種特殊ノ著述ヲ引受クル者無ク、醫學博士藤浪剛一氏等、バチラー氏ノ人格ヲ敬慕セル人々頗ル之ヲ遺憾トシ、之カ出版ヲ本會ニ求メラル。[アイヌ語ハ古來我國語ニ直接間接甚タ密接ナル關係ヲ有シ、我國語ノ研究及文學、歷史、言語學等ノ上ヨリ同語ノ研究ハ頗ル必要ノ事ニシテ、又、アイヌノ傳説歌謠等ノ研究ヲ爲シ、アイヌ文學ヲ樹立スルカ如キモ甚タ興味アル事ナルカ、此等ノ目的ノ爲メニ完全ナル「アイヌ辭典」ヲ有スル事ハ極メテ緊要ト云ハサルヘカラス。依テ本會ハ其經費ヲ援助シ、稿成リ印刷三分ノ一位進行セシ時偶々十二年九月ノ震火災ニ遇ヒ全燒シタリ。但シ原稿ハ無事ナルヲ得、本會ハ補助ヲ追加シ同氏ハ再ヒ印刷ニ着手シ、全部一千部ノ出版既ニ成リ、内本會ニ提出セラレシ三十部ハ諸方面ヘ配布シタリ。

一六、日本住宅ニ關スル衛生學的研究

三ヶ年間ニ金九千圓ノ補助

東京市芝區兼房町一三

醫學博士 田村昌

〔事業〕 住宅ニ關スル衛生學的研究ハ國民保健上又患者治療上洵ニ重要ノ事ナルカ、

我國ニハ未タ此種ノ研究頗ル僅少ニシテ多クハ歐米研究ノ糟粕ヲ嘗ムルノ傾アリ。田村氏ハ先年來故伊丹博士ト共ニ本研究ニ從事シ、日本住宅室内空氣ノ理化學的性狀ト健康生活トノ關係及疾患治療竝ニ其經過ニ及ホス影響ヲ知ルコトニ努メ、先ツ簡單ニ而モ完全ニ日本室内空氣ノ炭酸瓦斯檢查方法ヲ考案シ、又換氣測定ニ付テモ日本室ニ適切ナル方法ヲ工夫シ、之ニ依ツテ既ニ日本住宅ノ暖房ト温、炭酸瓦斯、換氣等ノ研究ヲ爲シ、伊丹氏ノ死去後ハ伊丹氏ノ研究所ニ立籠リ、熱心ニ本研究ヲ繼續セラレ、大正十一年一月以來本會援助ノ下ニ之ヲ行ハル事トナレリ。而シテ同氏ハ爾來各種ノ新檢查方法ヲ考案シ、之ニ依ツテ炭ノ有害瓦斯、室内ノ塵埃、及微菌等ニ付キ詳細ナル研究ヲ遂ケラルルノ計畫ヲ立テ、既ニ火鉢、炬燵、瓦斯ストーブト室内空氣ノ化學的性狀變化ニ就キテ研究シ、木炭竝ニ瓦斯ノ燃燒時ニ發生スル有害瓦斯ノ種類及分量ノ測定法ヲ完成シ、且木炭ノ種類ト有害瓦斯ノ量トノ關係、及ヒカカル有害瓦斯ノ簡易除去方法等ヲ研究シ、(一)日本室ノ換氣ニ就テ、第三報告(二)空氣中ノ有害瓦斯ニ就テ、第一、二、三、報告竝ニ亞酸化炭素ノ新定量法(三)病室ト暖房ト其空氣(四)空氣中ノ有形物質第一、二報告(五)空氣ノ衛生學的研究等ノ論文ヲ發表シ、引續キ喫煙時室内空氣中ニ含有サル

ル「ニコチン」量等ニ就テ研究セラレタリ。

一七、支那財政ノ研究

東京市外平塚町戸越九五

二ケ年ニ金五千三百圓ノ補助

法學士 木村 増太郎

「事業」本事業ハ支那ノ財政組織竝ニ諸制度ヲ調査研究スルト同時ニ他方其ノ經濟上ノ組織ヲ研メ、國策上ヨリ之ヲ批判シ、以テ支那財政ノ革新策ヲ研ムルヲ以テ目的トセリ。元來支那ノ財政組織ハ頗ル錯雜紛糾ヲ極メ、歲出入ノ如キモ其真相ヲ知ルコト難ク、從テ支那財政ニ關シテ未タ完全ナル研究ノ公ニセラレタルモノ無ク、爲メニ支那政治ノ基本確立セス、當ニ同國ノ憂ノミニアラサルナリ。木村氏之ヲ遺憾トシ、夙ニ此種ノ研究ニ着手セラレシカ、更ニ一層深遠ナル根本的研究ヲ爲サンカ爲メ、資料蒐集及實地踏査費ノ解助ヲ求メラレ、大正十二年四月來本會ハ之ヲ援助スルコトトセリ。爾來渡支セシコト三回熱心ニ研究ヲ進メラレ、十四年其研究成績ノ一部トシテ「支那財政ノ真相ト其革新ニ就テ」、「支那ノ關稅改正問題」ノ二報告ヲ提出セラレ、本會ハ之ヲ「紀要」ニ掲載シテ諸方面ニ配布シタリ。而シテ氏ハ最近其研究ヲ大成シ「支那財政論」二卷ヲ

印刷中ナリ。

一八、爬蟲類等ノ聽覺ノ研究

京城府黄金町五丁目一九九

二ケ年間ニ金一千圓ノ補助

文學士 黒田 亮

「事業」本事業ハ爬蟲類ノ聽覺ニ付キ實驗的研究ヲ行ヒ、進ンテ兩棲類、魚類ニ及ホシ、以テ下等脊椎動物ヲ通シテ聽覺ノ系統的研究ヲ企圖セシモノナリ。由來感官ノ生理ニ關シテハ從來研究ノ見ル可キモノ無ク、而シテ比較心理上重要ノ位置ヲ占ムルハ下等脊椎動物ノ聽覺機能ナリトス。魚類ノ聽覺ノ如キ多數學者ノ研究アレトモ、尙其存否ニ付キ斷定的結論ヲ見ス。黒田氏茲ニ顧ル所アリ、先ツ本邦産「イシガメ」及「ヒカナヘビ」ニ就テ實驗ヲ行ヒ、之ヲ米國比較心理學雜誌ニ發表シテ、學界ニ注目セラル。氏ハ更ニ本研究ヲ擴張完成センカ爲メ本會ニ補助ヲ求メラレ、大正十二年七月來之ヲ援助スルコトトセリ。其後氏ハ本邦産「ヘビ」ノ各種類「スツボン」「イシガメ」「トカゲ」「イモリ」等ニ就キ生理的實驗ヲ行ヒ、尙之ト聽器ノ病理解剖上ノ知見トヲ對照スル爲メ、病理解剖的實驗ヲ進メタリ。而シテ從來ノ研究大要ハ心理學會ニ於テ報告シ、又「Experimental Re-

searches upon the Sense of hearing in lower Vertebrates, including Reptiles, Amphibians, and Fishes."ト
題シテ發表セラレタリ。

一九、常磐炭田ニ於ケル炭層ノ研究

東京市外大保保百人町三二〇

二ケ年間ニ金四千圓ノ補助

理學博士 德 永 重 康

〔事業〕 石炭ノ研究ハ燃料研究中最モ重要ナルモノナリ。而シテ之カ研究ハ諸方面ヨリスルヲ要シ、徳永氏ハ其專攻ニ係ル地質學ヲ基礎トシテ、石炭層ト共ニ發見セララル植物化石ヲ研究シ、又石炭ヲ薄片トシテ顯微鏡下ニ檢シ、時ニ必要ナル化學試驗ヲ爲シ、即チ石炭原料タル古代植物ノ研究及ヒ石炭ノ物理的研究ヲ行ハレシモノナリ。前者ハ炭層ト化石層トノ關係ヲ明ニシ、以テ斷層ノ所在落差ヲ知ルヲ得ヘク、後者ハ石炭ノ構造ヲ攻査シ、性質及ヒ組織ヲ明ニシ、以テ石炭ノ利用ニ資スヘク、何レモ學術應用兩方面ニ關係スルモノナリ。氏ハ東京ニ近ク、且ツ最大ノ供給地タル常磐地方ヲ研究場所トシ、大正五年來調査ニ從ヒ、既ニ成績ノ一部ヲ發表セラレタリ。而シテ更ニ之ヲ繼續擴張シ研究ヲ完成セント欲シ、經費ノ補助ヲ求メラレ、本會ハ氏ノ適任ナルヲ認め、大

正十二年二月之ヲ補助スルコトトセリ。爾來氏ハ折角研究ヲ進メラレ、既ニ「常磐炭田地内ノ温泉」、「地質學上ヨリ見タル常磐炭田ノ將來」等ヲ發表セラレ、最近全部ノ成績ヲ纏メテ報告書ヲ印刷中ナリ。

二〇、「大唐西域記」ニ記セル東南印度諸國ノ研究ノ出版

東京市本郷湯島新花町九三

金一千五百圓ノ補助

文學士 高 桑 駒 吉

〔事業〕 唐ノ僧玄奘カ前後十七年間、印度各地ヲ歴遊記録セル大唐西域記ハ、印度史研究上貴重ナル資料ニシテ、解説セル者少カラス。然レトモ其中東南地方ニ關スル記事ハ疎ニシテ盡サス。解説困難ニシテ誤謬多シ。高桑氏之ヲ遺憾トシ、專ラ此方面ニ主カヲ注キ先人ノ研究ニ數歩ヲ進メラレタリ。是レ蓋シ同氏ハ印度史、印度古語ニ通曉セルト共ニ、外人ノ不得手トスル漢學並ニ佛敎方面ニモ造詣深キノ結果ニシテ、從來不安定ナリシ東南印度史ノ地盤ニ若干固定點ヲ與ヘ、同地歴史研究上一功績ヲ擧ケラレタルモノト云フ可シ。然ルニ本書ハ特殊ノ研究ニシテ、書肆ノ出版ヲ引受クルモノ無ク、本會ノ援助ヲ求メラレタルニ依リ、即チ其經費ヲ補助シ、全部一千部ノ印刷成リ、内四

十部ヲ本會へ提出セラレ、本會ハ諸方面へ配布シタリ。

二一、〔經濟上ヨリ觀タル蘭領東印度完成並ニ出版

神奈川縣鎌倉町

金一千四百圓ノ補助

增井貞吉

〔事業〕 增井氏ハ明治四十四年以來瓜哇ヲ始メ南洋各地ヲ歴遊スルコト十數年、其間蘭領東印度ノ資源、産業、制度、習慣、貿易關係、投資事情等諸般ノ事項ニ付キ、頗ル詳細ナル調査ヲ遂ケ、之ヲ記述シテ、四百餘頁ニ上ル。而シテ氏ハ此ニ一層嚴密ナル増補改訂ヲ施シテ其完璧ヲ期シ、之ノ出版センコトヲ希望セラル。蘭領東印度ハ比較的本邦ニ近ク、且ツ邦人海外發展ノ有望地ニシテ、其實情ヲ周ク一般ニ紹介スルコトハ頗ル肝要ノコトニシテ、夙ニ本會ノ切望セル所ナリ。偶々實際家ニシテ研究家タル同氏ニ依ツテ本事業ノ企圖セラレタルハ、本會ノ欣幸トスル所、即チ大正十四年十二月標記ノ通り同書編纂ノ完成並ニ其出版ニ要スル經費ノ援助ヲナスコトトシ、編纂既ニ完成シ、全部一千部ノ印刷成リ、内二百部ヲ本會へ提出セラレタリ。本會ハ其内四部ヲ献上シ、殘ヲ諸方面へ配布シタリ。

(二) 進行中ノ補助事業

一、古社寺所藏圖書ノ調査

五ヶ年間ニ金五千圓ノ補助

東京市小石川區關口臺町五

文學博士 高楠順次郎



〔略歴〕 高楠氏ハ慶應二年五月備後國御調郡

八幡村澤井觀三氏ノ長男ニ生レ、後神戸市高楠

孫三郎氏ノ養嗣子ト爲ラル。明治二十年西本願寺教校ヲ卒業シ、後牛津大學ニ學ヒ「マスター」、オプ、アーツ」ヲ受ケ又「キール」伯林萊府各大學ヲ卒業シテ「ドクトル」、フイロソフイエ」ヲ受ケ、佛國ニモ留學セラレ三十年歸朝東大講師トナリ、後文科大學教授ニ進ミ、言語學ヲ擔任シ、尋テ梵文學擔任トナル。一時東京外國語學校長兼任、三十三年文學博士ヲ受ケ、後帝國學士院會員ニ列セラル。尙三十七八年在英中牛津大學ヨリ「ドクトル」、オプ、リテラチユーア」ヲ受ケラル。

〔事業〕 本調査ハ高楠博士數年來ノ事業ニシテ大正八年三月來本會ニ於テ援助スルコトトセリ。而シテ同博士ヲ主任トシ外ニ橋本、大屋、長谷部、戸部、鳥越、中野、逸見、蓮澤、塚原、藤田、大山、木下、口入田、國友、水原、田村、近藤、山田等ノ諸氏ニ依リ、大正十二年春迄ニ左ノ通り調査完了シ目下成績整理中ナリ。(一)東寺寶菩提院三密藏、此文庫ハ平安朝ヨリ徳川時代ニ至ル各期ノ佛教殊ニ密教ニ關スル書籍及古文書ヲ包含シ、平安朝末期ニ於ケル密教小野廣澤十二流ノ傳本特殊ノ地位ヲ占ム、珍書トシテハ聖教傳本ニ於テ凡三百種、恙曇傳本ニ於テ凡五十種アリ、醍醐寺ノ成賢、勸修寺ノ興然兩學匠ノ自筆其數最モ多ク、斯ル精確ナル證本ニ依テ古傳ヲ研究シ得ルハ他ニ例ナカルヘシ。(二)栗田青蓮院吉水藏、此文庫ハ平安中期以來各時代ニ於ケル各派ノ書籍ヲ包含シ、殊ニ臺密ノ本系タル谷流ノ傳本ニ於テハ豊富精選ヲ極メ、古相承凡四十函ハ悉ク此ノ部類ニ屬シ、皆珍書ニシテ超際仙人宿曜圖、唐梵兩語雙對集ノ如キハ他ニ比類ナカルヘシ。(三)梅尾高山寺法鼓臺、此文庫ハ鎌倉初期ヲ中心トシテ其ノ前後ノ筆寫ニ係ル華嚴宗ノ書籍最豐富ヲ極ム、サレト一般佛教及密教ニ於テモ亦有數ノ文庫タルヲ失ハス、徳川末期ヨリ散逸甚シカリシト雖モ尙其ノ要部ヲ保存シ、明惠上人自筆、夢ノ記、宋藏目錄、玄證上人自筆

〔梵大火羅供養圖〕ノ如キ殊ニ着眼スヘキ所トス、他ニ玄證上人ノ持本、又ハ寫本ノ記アル文書凡ソ四十種アリ有力ナル美術史料ナリ。(四)東寺金剛藏、全藏ヲ登錄スルヲ得タリ。調査中新發見トシテ平安朝ヨリ南北朝ニ至ル梵本筆寫二函平安朝末ヨリ鎌倉ニ至ル佛教素描畫家ノ作品一函等アリ。(五)大通寺廻心藏、同寺ハ源賴朝夫人政子、實朝夫人阿佛尼ノ本願建立ニシテ殊ニ江州石山寺ト連絡アル寺院ナルヲ以テ、藏書中殊ニ注意スヘキモノ多シ。(六)御室仁和寺塔中倉、藏書百三十一函全部ノ調査ヲ結了セリ。別ニ御經藏藏書三十五函ノ調査ヲ終ル。(七)江州三井寺ニ於テ智證大師將來梵本ヲ謄寫シ播州高砂十輪寺ニ於テ貝葉梵本ノ取調ヲ爲セリ、何レモ皆甚タ有益ナル研究資料ナリトス。(八)大通寺寶藏、全藏百六十餘函ノ調査結了。(九)江州石山寺經藏全部、但一切經ヲ除ク塔頭藏全部百三十函ノ調査ヲ了ル。同寺ハ藏書最モ精良ヲ極メ菅亟相ノ孫ニ當レル中興ノ祖師淳祐内供奉ノ筆寫ニ係ルモノ最モ多ク、何レモ珍書トス。

二、アイヌ調査事業

四ヶ年間ニ金四千七百七十六圓ノ補助

〔略傳〕 河野氏ハ文久二年十一月長野縣東筑

北海道札幌市北四條西七ノ三

河野常吉



三〇

摩郡島内村ニ生ル。明治十二年同縣師範學校ヲ卒業シ十四年慶應義塾ニ入り、十六年以降法律經濟歷史地理物理等ヲ獨修ス。秋田縣小眞木鑛山分析主任、長野縣物產陳列場長兼測候所長、中央氣象臺雇、大日本教育新聞客員等ヲ經テ二十七年北海道廳囑託ト爲リ、現ニ北海道史編纂主任タリ、著書數十部アリ。

河野氏ト共ニ本事業ヲ擔任セル、吉田巖氏ハ明治十五年七月福島縣相馬郡中村町ニ生ル。三十六年相馬中學卒業、三十九年北海道ニ移住、アイヌノ研究ヲ志シ、十勝、膽振等ノアイヌノ學校ニ奉職シ、時々アイヌニ關スル論文ヲ發表シ、現ニ專ヲ本事業ニ從事セラル。

〔事業〕 河野、吉田兩氏ハ從來久シクアイヌノ調査ニ從事セラレシカ、更ニ之ヲ繼續完成センカ爲メ、大正八年三月以降本會ニ於テ援助スル事トセリ。本事業ハアイヌノ歴

史及風俗ヲ調査編纂セントスルモノニシテ、歷史部ハ古代ノ狀況、康正以降數十年間ノ叛亂、松前氏時代ノ施設及叛亂、千島アイヌ及其露人トノ關係、樺太アイヌ及山靺交易竝ニ幕府直轄時代、開拓使時代、三縣時代、北海道廳時代ノ施設及狀況ヲ叙述シ、風俗部ハ社會、宗教、衣食住、器具、體式、產業、教育、衛生、娛樂等ヲ叙述スルコトトセリ。擔任者ハ從來調査セシ所ヲ整理スルト共ニ、更ニ數多ノ書籍ヲ探リ、又アイヌニ就キテ踏査シ、且篤志者ニ委囑シテ資料ヲ蒐集シ、尙從來ノ書籍ニハ記事ノ精細ナルモノ極メテ少ク、且誤謬多ク又アイヌノ口禱風俗ハ地方ニヨリテ差違アリ、且變化セルヲ以テ、努メテ廣ク蒐集シテ精確ヲ期サレタリ。即チ兩氏ハ室蘭、十勝、釧路、厚岸、日高、膽振等ニテ實地ノ踏査ヲ爲シ、堅穴、貝塚及ヒ遺物等ノ調査ヲ遂ケ、新ナル資料ヲ得、而シテ今ヤ歷史、風俗兩部共一通リヲ脱稿セラレタリ。但シ尙アイヌノ遺跡調査ヲ附加センコトヲ欲シ、下此目方面ノ調査中ナリ。

三、生體染色及細胞ノ機能的鑑別ノ研究

六ヶ年ニ金二萬九千圓ノ補助(一回ニ決定)

〔略傳〕 清野氏ハ原籍靜岡縣ニシテ明治十八

三一

京都帝國大學醫學部

醫學博士 清野 謙 次



年八月岡山市ニ生ル。大阪府立尋常師範學校
附屬小學校ヲ經、同府立第一中學校、第六高等學
校ヲ卒業シ京大醫科ニ入り、四十二年同大學卒
業、恩賜銀側時計ヲ拜受セラル。同年同大學病
理學教室副手ト爲リ、四十四年助手ニ進ミ四十
五年文部省ヨリ獨逸留學ヲ命セラレ大正三年
歸朝、同大學講師トナリ、四年醫學博士ノ學位ヲ
受ケ、六年助教ニ任セラレ、後教授ニ進ム。

「事業」 「生體染色ノ研究」ハ清野氏カ明治四十三年來ノ研究ニシテ、本會ハ大正八年來
援助スルコトトセリ。引續キ氏ハ頗ル熱心ニ研究ヲ續ケ十年醫學界ノ近況ヲモ視察
セラレ、歸朝後氏ノ申出ニ依リ研究題目ヲ擴張シ標記ノ如ク之ヲ改メタリ、依テ氏ノ事
業ハ「生活細胞ニ對スル色素物質ノ作用、色素及其他ノ物質ヲ以テスル細胞ノ機能的鑑
別等ヲ研究」スルモノトナレリ。而シテ爾來氏ハ京大醫學部ニ於ケル他ノ研究者ト協

カシ銳意研究ノ進捗ヲ計リ、其ノ成績ハ著書雜誌等ニ掲載シ、更ニ合本トナシ大正十年
末迄ノ分ハ「生體染色ノ研究第一卷(研究報告十五編)同第二卷(同氏著生體染色研究ノ現
況及其檢査術式)同第三卷(研究報告第十四編)トシテ發表シ、頗ル學界ニ注目セラレ十一
年五月帝國學士院賞ヲ受ケラル。是本會事業中學士院賞ヲ受ケタル最初ノモノニシテ
本會ノ頗ル欣幸トスル所ナリ。其後更ニ共同研究者ト共ニ着々研究ヲ進メラレ、有益
ナル多數ノ報告ヲ専門雜誌等ニ發表シ「生體染色及細胞ノ機能的鑑別ノ研究」第四卷(研
究報告三十七編)同第五卷(研究報告三十六編)同第六卷(研究報告三十八編)及同第七卷(十
八編)トシテ合本セラレタリ。以上ノ如ク既成ノ研究報告既ニ約百六十、一々之ヲ列舉
シ得サルノ盛況ヲ呈シ、尙益研究ヲ進メラレツツアリ。

四、俗間藥ノ研究

三ヶ年間ニ金九千六百三十圓ノ補助

東北帝國大學醫學部

醫學博士 八木 精 一

「略傳」 八木氏ハ明治十五年五月岩手縣西磐
井郡日形村ニ生ル。四十一年京大醫科ヲ卒業
シ同大學助手ト爲リ、四十三年助教ニ任セラ

レ、大正元年藥物學研究ノ爲メ英國ニ留學ヲ命セラレ、同年歸朝シテ、東北帝國大學醫科大學教授ニ任セラレ、藥物學講座ヲ擔任シ同年學位請求論文ヲ提出シテ醫學博士ヲ授與セラル。



「事業」古來俗間ニ於テ疾病治療ノ目的ニ使用セラルル物質極メテ多シ、其ノ果シテ治病的

作用ヲ有スルヤ否ヤハ一二臨床的觀察ヲ以テ決スヘカラス、又醫家ハ此等物質ヲ指シテ治療上何等效果無シトナス傾アレトモ之亦根據ヲ有セス、之カ科學的研究ヲ行ヒテ其價值ヲ決定セスハ、徒ニ俗間ノ濫用ヲ擅ニシ或ハ醫家ヲシテ有效物質ヲ等閑ニ附セシムル憾アリ。茲ニ於テ八木氏ハ廣ク俗間藥ヲ蒐集シ、其ノ治療的作用竝ニ有害作用ノ有無ヲ藥物學的ニ研究センコトヲ企テ、大正八年六月東北帝大醫學部ニ於テ共同研究者ト共ニ本研究ヲ開始シ、爾來本會ニ於テ之ヲ援助スルコトトセリ。同月先ツ驅蟲藥及利尿藥ノ研究ニ着手シ、翌九年五月略之ヲ完了シ、同年六月解熱藥ノ研究ニ着手シ

翌十年七月迄ニ其大部分ヲ遂行シ、又九年十一月心臟藥ノ研究ヲ開始シ十一年七月迄ニ略遂行シタリ。即チ此等ノ研究ハ何レモ大部終了シ、既成ノ成績ハ「一位ノ糖尿抑制作用ニ就テ」、「商陸根ノ藥物學的研究」、「強心藥ぢぎたりす葉ニ關スル研究」(和文第一報第二報及英文)、「昆布ノ強心利尿作用ニ就テ」(和文及英文)、「芭蕉根ノ解熱作用ニ就キテ」、「俗間利尿藥梓、濱茶及岩路ノ藥物學的作用ニ就テ」、「南天實中ノ一新アルカロイド、ナンテニンノ化學的竝ニ藥物學的研究」、「酸漿ノ解熱竝ニ強心作用ニ就テ」トシテ發表セラレタリ。

五、植物色素ノ生物化學的及分光

化學的研究

四ヶ年間ニ金一萬圓ノ補助(二回ニ決定)

東京市小石川區小日向臺町一ノ一

理學博士 柴田桂太

東京市外大久保町百人町三一七

「略傳」柴田桂太氏ハ藥學博士柴田勇桂氏ノ

長男ニシテ明治十年九月東京ニ生ル。三十二

年東大理科植物學科ヲ卒業シ、大學院ニ入り、三

十七年理學博士ヲ授ケラレ、四十三年歐洲へ留

學シ、四十五年歸朝シテ理科大學助教ニ任セ



(一)

ラル。大正七年學士院ニ於テ恩賜賞ヲ受ケ、同年教授ニ進ミ、九年學術研究會議會員ヲ仰付ケラル。尙屢々海外ニ出張セラル。

〔略傳〕柴田雄次氏ハ柴田桂太氏ノ令弟ニシテ明治十五年東京ニ生ル。明治四十年東大理科化學科ヲ卒業シ、特選給費學生ニ擧ケラレ、四十二年理科大學講師トナリ、同年歐洲へ留學シ大正二年歸朝シテ理科大學助教授ト爲リ、六年理學博士ヲ授ケラレ、八年東大理學部教授ニ任セラル。

〔事業〕本研究ハ柴田兩氏ノ共同研究ニシテ其目的トスル所ハ植物界ニ極メテ廣ク分布ス



(二)

ル「フラヴォン」族色素ヲ生物化學及分光化學ノ兩方面ヨリ研究シ、逐一其種別性狀ヲ明カニシ且ツ其分子構造ヲ定メ、以テ植物生理上ノ意義及ヒ農工業ニ於ケル應用ニ關スル基礎知識ヲ確立シ、傍ラ又花果紅葉等ノ色素類、樹皮木材等ニ存スル諸染色物質ト「フラヴォン」化合物トノ關係ヲ尋釋シテ、物質代謝作用、遺傳現象等ノ考完ニ裨益セントスルニアリ。本研究ハ柴田氏從來ノ研究ナルカ大正八年七月以降本會ニ於テ之ヲ援助スルコトトセリ。其後兩研究者ハ數名ノ助手ト共ニ研究ヲ續ケ、(一)既ニ七十餘種ノ隱花及顯花植物ヨリ抽出スルヲ得タル「フラヴォン」族化合物ニ就キ實驗的研究ヲ行ヒ、就中新化合物トシテ「こがねばな」〔黃芥〕ヨリ得タル「バイカリン」及其誘導體「やまはぎ」ヨリ得タル「レスベデチン」、「ゆきわりさう」ヨリ得タル「グリメチン」等ハ略其化學的研究ヲ了リ、(二)稻、煙草、大豆、其他數種ノ普通植物ニ含有スル「フラヴォン」化合物ヲ精査シ、(三)本研究者カ曩ニ「フラヴォン」族化合物ノ分光化學ニ關シ考定セル理論ノ完成ニ資スル爲メ、之ト密接關係アル「ハルコン」族化合物數種ヲ合成シテ其比較研究ヲ爲シ、(四)紫檀等所謂唐木ト稱スル有色木材ノ色素ニ關シテ研究シ、(五)花青素〔アントシアニン〕ノ色彩變化ノ原因ニ關スル實驗、(六)諸種植物ノ綠葉及花葉ヨリ抽出セル「フラヴォン」化合物ノ研究、(七)「はりぐは」等諸種

木材ニ含有スル「フラヴオン」體ノ研究等ヲ爲シ、今日迄ノ研究成績中(一)黃芩ノ新「フラヴオン」族化合物ニ關スル研究(和文及獨文)、(二)カルコン及其誘導體ノ吸収スペクトル(和文及獨文)、(三)フラヴオン「類色素」ノ吸収スペクトル研究、第一報獨文ヲ發行セラレタルニ、十二年六月研究期間滿了シタルニ由リ、更ニ二ケ年ヲ限リ追加補助ヲナシテ全部ノ完結ヲ期スルコトトナシ、其後「ベンゾフェノン」族化合物ノ分光化學的研究、「藻紅素」及藻青素ノ生物化學的研究、「新フラヴオン」配糖體アカシインノ研究、「フラヴオン」族化合物ノメチール誘導體ノ分光化學的研究、及「フラヴオン」族配糖體ノ分光化學的研究、「自然的ベンゾフェノン」誘導體ノ吸収スペクトル研究」ヲ發表セラレタリ。

六、日本産魚類圖說ノ發刊

六ケ年間ニ金一萬八百圓ノ補助

東京市本郷區動坂一六

理學士 田中茂穂

〔略傳〕田中氏ハ明治十一年八月高知縣土佐郡高知市南奉公人町ニ生レ、小學及中學ハ高知ニテ卒業シ、三十四年第一高等學校ヲ卒業シ、三十七年東京帝國大學理科大學動物學科ヲ卒業



シ、四十一年特選給費生ニ選定セラレ、四十三年六月東京帝國大學理科大學講師ヲ、大正二年十二月同大學農科大學講師ヲ囑託セラル。九年六月同大學助教任セラレテ理學部勤務ヲ命セラレ、尙同時ニ同大學農學部水産動物學ノ一部及同實驗ノ一部授業擔任ヲ命セラル。

〔事業〕本事業ハ我版圖内ニ産スル淡水及海水ノ主ナル魚類ヲ詳細ニ記述シテ、且ツ之レカ正確ナル圖畫ヲ掲クルコトヲ目的トシ、明治四十四年以來田中氏カ巨額ノ私財ヲ投シテ獨力ヲ以テ出版シ、既ニ第三十卷ニ達セル「日本産魚類圖說」ヲ續刊シテ、日本産魚類圖說ノ完成ヲ期スルモノニシテ、大正八年七月以來本會ニ於テ之ヲ援助スルコトトセリ。抑モ魚類圖說ノ事業ハ英、佛、獨、米、和、伊、露、瑞典等ノ諸國皆之ヲ有スルニモ係ラス、獨リ本邦ニ於テハ未タ此ノ事業ヲ試ムルモノ無ク、從來日本産魚類トシテ刊行セラレタルモノハ過半外國人ノ手ニ成リ、且ツ諸雜誌ニ散在セル爲メ、斯ノ如キ論文ノ蒐集

頗ル困難ナルト共ニ、本邦産魚類ノ全豹ヲ窺知スルコト容易ナラス、田中氏ノ本事業ハ即チ此缺點ヲ補フモノト謂フヘシ。田本氏ハ本會援助後折角材料ノ蒐集ニ努メ、原圖ノ製作説明ノ記述ヲ急キ、稿略成ラントスルモノ少カラサルモ、印刷上ノ事情等ニ依リ一時印刷ヲ中止セラレシ爲メ、今期末迄ニ出版セラントタルモノハ「日本産魚類圖說第三十一卷乃至第三十四卷ニ過キサレトモ、諸種ノ準備整ヒ居ルコト故、近々順次出版發表セテルヘキヲ信ス。尙本會援助後本圖說ハ歐米諸國及濠洲等ヨリ申込多ク、注目セララルニ至レリ。

七、東洋音學理論ノ科學的研究

三ヶ年間ニ金一萬圓ノ補助

(二回ニ決定)

東京市外落合村下落合五四六

理學士 田邊 尚 雄

〔略傳〕田邊氏ハ大阪府士族田邊貞吉氏ノ二男ニシテ、明治十六年八月四谷區西信濃町ニ生ル。一高ヲ經四十年東大理科理論物理學科ヲ卒業セラル。傍ラ東京音樂學校選科ニ於テ洋樂ヲ研究スル事數年、擢ラレテ同校管絃樂員ニ



加ヘラル。爾後音響學及音樂理論ヲ專攻シ、特ニ東洋音樂ノ科學的研究ニ從事スル事既ニ十數年目下東大大學院ニ入り、傍ラ宮内省式部職雅樂練習所囑託、國學院大學講師ヲ務メ、又文部省邦樂教育調查委員、同省社會教育調查委員、北京大學研究所國學門通信講師タリ。

〔事業〕本事業ハ本邦ヲ始メ支那、朝鮮、印度等東洋諸國ノ音樂理論ヲ科學的ニ研究シテ東洋音樂理論ノ研究ヲ復興セントスルモノニシテ、大正八年十二月以來本會ノ援助スル所ナリ。爾來同氏ハ主トシテ東洋音樂理論ノ骨子ナル樂律研究ニ力ヲ注キ、先ツ(一)古來東洋ニテ上梓ノ樂論書及ヒ歐米人ノ之ニ關スル參考圖書ヲ蒐集模寫シ、(二)東洋ノ古樂器ヲ集メテ之ヲ檢シ、自ラ其技ヲ習得シ、既ニ隋唐樂、高麗樂、印度林邑樂、古聲樂、吉備樂等ヲ習得比較シ、(三)東洋各國音樂ノ蓄音器レコード蒐集中ナリ。而シテ(一)九年十一月奈良正倉院ノ古樂器ニ付研究シ頗ル得ル所アリ、(二)十年三月京城ニ出張シ李王家

ノ雅樂ヲ研究シテ、東洋最古ノ藝術的音樂タル周代雅樂ノ真相ヲ明ニシ(本會講演會ニ於テ發表)(三)十一年三、四月臺灣ニ出張シテ蕃人音樂ヲ研究シ、日本古代民族ノ音樂ト「マレイ」系音樂トノ連絡關係ニ就キ闡明シ、歸途廈門ニ渡リ其地特有ノ古樂御前清曲ヲ調査シ(四)七、八月琉球ニ出張シ、内地ニハ既ニ滅亡セル足利末ヨリ元祿時代ニ至ル音樂ノ今猶沖繩ニ存スル事、又八重山群島ニハ貴重ナル世界的民謠ノ存在スル事ヲ發見シ(本會講演會ニ於テ發表)(五)十二年四、五月支那ニ旅行シ、京師圖書館ノ樂書、孔子廟ノ樂器、元代以後ノ戲曲音樂殊ニ崑曲、明代ノ雅樂、現代音樂ノ實況等ヲ調ヘ、且ツ樂書ヲ蒐集シ(六)同年七月佐渡ニ渡リ「やわらぎ」鬼太郎「春駒」大黒舞「夷舞」野呂間人形等ノ民謠ヲ(七)引續キ樺太ニ航シテギリヤーク、オロツコ、アイヌ等ノ音樂ヲ調査セラル。而シテ尙未了ノ研究存セシニ依リ十一年末期間滿了セルモ、本會ハ更ニ二ケ年ヲ限リ援助ヲ繼續スルコトトセリ。其後(八)十三年三、四月滿洲ニ旅行シ、同地音樂ノ狀況及支那三絃樂律ヲ調査セラル。(九)引續キ印度、ビルマ、シヤム地方ヘ音樂調査ニ向フ筈ナリシモ、都合ニ依リ延期シ、爾後從來蒐集ノ材料ニ基キ研究ヲ進メツツアリ。

八、日本民謠ノ蒐集及研究

四年六ヶ月間ニ金五千二百圓ノ補助

東京市外雜司ヶ谷金山三二〇大杉邸内

文學博士 兼 常 清 佐



〔略傳〕 兼常氏ハ明治十八年十一月山口縣阿武郡萩町ノ儒者ノ家ニ生ル。高等學校ノ頃ニハ數學或ハ自然科學ヲ志シ理科ニ入ラル。病ノ爲メ暫ク休學セラレシ後志ヲ變シテ京都大學文科ニ入學シ、主トシテ古代希臘哲學史ヲ學ビ、四十三年同科ヲ卒業セラレ、某教授ノ勸メニヨリ從來興味ヲ持チシ音樂ノ研究ニ專ラ從事セララルニ至リシハ十數年前ノ事ナリ。現ニ東京帝國大學文學部ニ於テ同研究ヲ繼續セラ

〔事業〕 本事業ハ文部省取調ノ民謠歌詞ヲ大體ノ據處トシテ更ニ之ヲ補足シ、兼常氏自ラ各地ニ出張シテ採譜ヲ爲シ、又特殊ノ研究ノ爲メ若干ノ民謠ハ之ヲ蓄音器ニ吹込

ミ、全國ノ民謡ヲ蒐集シテ科學的ニ研究シ、以テ音樂的教育ノ材料ニ供セントスルモノナリ。民謡カ日本國民一般ノ精神狀態ノ或ル方面ノ直接ナル表現トシテ學問上ニ有スル價值ハ、他ノ専門的ノ造形美術ト比較シテ甚タ劣レリトハ言ヒ難ク、又民謡ノ國民精神上ニ與フル刺戟ノ頗ル深酷ナルコトモ明ナル事ナレハ、其ノ保存研究竝ニ改善ハ極メテ緊要ナリト云フヘシ。本會ハ前記ノ通り田邊氏ノ東洋音樂理論ノ研究ヲモ援助シ、彼此相呼應シテ音樂研究ニ貢獻スル所アルヘキヲ信ス。本會カ兼常氏ヲ援助セラルハ大正九年四月ヨリニシテ、其後同氏ハ數回民謡蒐集ノ爲メ各地ニ出張シ、其蒐集材料ニ付熱心ニ音樂上ノ構造等ヲ研究セラレ、既ニ東海道畿内、北越、東北地方等ニ出張シテ民謡ノ蒐集ヲ爲シ、尙本研究ヲ完成スルカ爲メ十一年一月歐洲音樂界ノ視察ニ出發セラレ、十三年春歸朝セララル。然ルニ其間十二年九月ノ震災ノ爲メ研究資料ノ大部分燒失シタリ。依テ氏ハ更ニ資料ノ蒐集ヲ開始シ、銳意其ノ完結ニ努力セラレ、既ニ脱稿セルヲ以テ近々譜ト其ノ研究ノ成績トヲ出版セララル豫定ナリ。

九、圓形瓣ノ研究

三ヶ年間ニ金四千五百圓ノ補助

東京市外池袋四六二

工學博士

沖

巖



〔略傳〕

沖氏ハ明治十六年二月但馬國生野銀山官舎ニ生ル。第一高等學校ヲ經テ東京帝國大學工科機械工學科ニ入學シ、四十年同大學ヲ卒業シ、同年一年志願兵トシテ入營シ、後工兵少尉ニ任ス、四十二年三月明治專門學校ヨリ歐洲ニ留學シ、四十四年歸朝、同校教授トナリ、大正八年八月學位請求論文「唧筒ノ研究」ニ對シテ工學博士ノ學位ヲ授與セララル。九年十月明治專門學校ヲ退職シ、同年十一月早稻田大學教授ヲ囑託セララル。

〔事業〕 圓形瓣トハ「ポンプ」瓣ノ如ク圓板狀ナルモノ、又ハ内燃發動機ノ瓣ノ如ク「キノコ」狀ノモノアリ、又「ボイラー」ノ安全瓣ノ如キモノモアリ。圓形瓣ハ機械ノ部分品トシテ重要ナル働キヲ爲スモノナルニ係ラス、從來之カ根本的研究ヲ爲シタル者甚タ少ク、

「バッハ」「クライン」等ノ研究アルニ過キス。沖氏ハ從來本研究ニ付博士論文ヲ提出シ、又其後ニ於ケル研究ヲ「圓形瓣」ノ研究第一期報告トシテ發表セラレタリ。本會ニ於テ同氏ヲ援助スルコトニ決セルハ大正九年四月ナルカ、同氏ノ都合ニ依リ同年十二月始メテ第一回分ノ補助金ヲ支給セリ。而シテ本研究ノ主タル事項ハ圓形瓣ノ働キニ關スル一般法則ヲ見出サントスルニアリ。氏ハ大正九年十二月早稻田大學理工學部機械工學實驗室ノ一部ニ新ニ實驗設備ヲ設ケ、優秀ナル助手ヲ採用シテ折角本研究ヲ繼續シ、水ヲ以テスル基本的實驗ハ略一段落ヲ告ケタリ。依テ更ニ空氣ヲ以テスル實驗ニ着手セラレシカ都合ニ依リ之ヲ中止シ、水ヲ以テスル實驗ヲ一層徹底的ニ遂行完成スルコトトセラレタリ。本研究ノ結果ハ學術上ハ勿論、間接ニハ應用方面ニモ極メテ有利ナルヘク、目下主トシテ安全瓣ノ研究ニ從事セラレ、既成ノ成績ハ近々發表ノ豫定ナリ。

一〇、倭冠史ノ編纂

金一千八百八十圓ノ補助（二回ニ決定）

「略傳」後藤氏ハ慶應二年十二月靜岡縣小笠

東京市牛込區市ヶ谷加賀町二ノ三六二

後藤 秀 穂

郡相草村棚草ニ生ル。明治二十年早稻田大學政治經濟科ヲ卒業シ、爾來歸國シテ農業ニ從事シ、旁ラ銀行ノ業務ニ就カレタリ。其後倭冠史ノ研究ヲ企テラレ、三十八年ヨリ全ク世事ヲ絶チテ本研究ニ全力ヲ盡シ、其ノ事業ノ遂行ニ便ナラシムル爲メ居ヲ東京ニ移シ、一切ノ俗事ヲ離レテ專ラ其ノ研究ニ没頭セラレ、從テ他ニ何等ノ公私職業ナシ。



「事業」本事業ハ後藤氏カ數十年來蒐集セル倭冠史ニ關スル諸般ノ資料及ヒ之ニ基キテ研究セル成績結果ヲ整理編纂セント欲スルモノナリ。抑モ倭冠ノ事タルヤ我大和民族ノ海外發展史トシテモ、又貿易史上ヨリ見ルモ甚タ重要ナル事項ニシテ、又頗ル興味アル事柄ナリ。然ルニ其出沒セル範圍ノ廣汎ナルト、其繼續セル期間ノ長カリシトニ依リ之ニ關スル研究事實頗ル多ク、又其繼續常ナク、且ツ多クハ陰密ノ間ニ行ハレ

タル爲メ、此ノ調査研究極メテ困難ナリトス。從テ倭冠ニ關シテハ未タ完全ナル研究ノ發表セラレタルモノナク甚タ遺憾トセシ所ナリ。後藤氏ハ民間篤學者トシテ倭冠研究ノ一權威ナルコトハ既ニ一般ノ認ムル所ニシテ、蒐集セラレシ資料等モ頗ル多シ。本會カ同氏ノ事業ヲ援助スルコトニ決シタルハ大正九年四月ニシテ其後同氏ハ着々トシテ材料ノ整理ニ努メ、又資料ヲ確ムルカ爲メニ九州ニモ出張シ銳意編纂ノ進捗ヲ計ラレシカ、中途ニシテ大患ニ罹ラレ一時本事業ヲ中止セラレシト、既成ノ原稿中補足訂正ヲ要スル點ヲ發見セラレシ等ノ爲メ、編纂ノ完了ニ頗ル苦心セラレ、本會ハ追加補助ヲナシ、同氏ハ一層ノ勉勵ヲ以テ編纂ヲ急カレ、既ニ大半脱稿セラレ。本會ハ其ノ間モ無ク完結ニ至ランコトヲ切望スルモノナリ。

一一、實助遺傳學上ノ研究

五ヶ年ニ金一萬二千圓ノ補助(二回ニ決)

東京市外千駄ヶ谷町大字原宿八九

理學博士 池野成一郎

「略傳」池野氏ハ慶應二年五月江戸駿河臺ニ生ル。明治二十三年七月東京帝國大學理科大學植物學科ヲ卒業シ、二十四年九月同大學農科



大學助教授ニ任シ、三十九年十一月歐洲へ留學ヲ命セラレ、四十二年三月歸朝ノ上同大學教授ニ進ミ、四十三年十一月理學博士ノ學位ヲ受ケ、四十五年五月帝國學士院ヨリ「そでつ」精蟲ノ發見ニ對シ恩賜賞ヲ授ケラレ、大正九年十月學術研究會議會員ヲ仰付ケラル。

「事業」本事業ハ本邦農作物園藝植物等ニ就テ實驗遺傳學上ノ研究ヲ遂ケ、此等植物ノ品種改良ノ根本原理ヲ明ニシ、間接ニハ亦人種改良ニモ資セントスルモノナリ。同氏ハ我邦ニ於ケル本研究ノ先驅者ニシテ、大正九年七月來本會ノ援助スル所ナリ。氏カ從來繼續シ其後引續キ研究中ノ事項及完結セルモノノ大要左ノ如シ(一)「まづばばたん」ノ花色遺傳ノ研究ハ一部結了シ東大紀要ニ「Studies on the Genetics of Flower-Colours in *Portulaca grandiflora*」ト題シテ發表、又獨逸ノ遺傳學雜誌ニ發表、更ニ日本植物學輯報(同研究第二報ニ發表セラレ、二)「おほばこ」ノ復歸現象ヲ探求シ學術研究會議發行植物學輯報

ニ「Erblichkeitsversuche an einigen Sippen von *Plantago major*」ト題シテ發表、尙「さざえおほぼ」ニ就テ特異現象ヲ發見シ、其ハ所謂「殺ス因子」二個ノ生出ニ基クコトヲ實驗證明シ、日本植物學輯報及獨逸生物學雜誌ニ發表セラル、(三)「おほむぎ」穗ノ芒ニ關スル研究ハ結了シ其結果ヲ學術研究會議發行「植物學輯報」第二卷第三號ニ發表シ、又「おほむぎ」穗ノ條列偶然變更ノ研究ハ既ニ終ヲ告ケ其ノ成果ヲ獨逸國發行ノ遺傳學雜誌ニ發表シタリ、(四)「たうがらし」ノ子房室ハ二乃至三個ニ分割セルモノト三乃至十或ハ其以上ニ分割セルモノトアリ、氏ハ右兩品種ノ雜婚ニ因リ子房室數ノ遺傳的行爲ヲ調査中ナリ、(五)「やなぎ」屬ノ奇現象ニ就テハ研究大體結了シ *Annals of Botany* ニ「On Hybridization of some Species of *Salix*」ト題シテ發表セラル。而シテ氏ノ研究期間ハ十四年六月滿了セルモノナルガ、未了研究完結ノ爲メ、更ニ二ケ年ヲ限り延期スルコトトシタリ。

一一、日本藻類圖譜ノ出版

約四ケ年間ニ金六千八百圓ノ補助

(二回ニ決定)

〔略傳〕岡村氏ハ慶應三年四月江戸芝新幸町ニ生ル。明治十五年大學豫備門ニ入り、十八年

東京市小石川區高田豐川町四二

理學博士

岡村 金太郎



東大理科生物學科ニ進ミ、植物學ヲ專攻シ、二十二年卒業後直ニ大學院ニ入り海藻學研究ニ從ヒ、二十五年四高教授トナリ、二十八年學位ヲ受ケ、三十年水産講習所講師トナリ、三十九年教授ニ進ミ、大正三年農商務省技師ヲ兼任シ、七年水産講習所技師トナリ、農商務省技師如故、十三年水産講習所長ニ進ミ以テ今日ニ及フ、此間東京高等師範、北海道帝大附屬水産專門部及東京帝大農學部ノ講師ヲ囑託セラレ、現ニ東大農學部ノ講師ナリ、著書ニ海藻學汎論、水産一夕話、日本海藻圖說、日本藻類名彙、淺草海苔等ノ外日本藻類圖譜アリ。

〔事業〕岡村氏ハ明治三十三年以來敬業社ヨリ日本海藻圖說ヲ出版シ、同社解散ノ爲メ第一卷第六冊ニ至リテ中絶シタルヲ以テ、其跡ヲ承ケ四十年以來氏ノ獨力ヲ以テ日

本藻類圖譜トシテ出版ヲ續ケラレシカ、第四卷第四冊迄三十四冊出版以來物價暴騰ノ爲メ再ヒ中絶スルノ止ム無キニ至リ、依テ之ヲ繼續出版センカ爲メ大正九年七月以降本會ニ於テ其經費ヲ支出スルコトトセリ。本會ハ別記ノ通り田中氏ヲ援ケテ日本産魚類圖説ヲ發刊シツツアリ、岡村氏ノ此ノ藻類圖譜ハ藻類ニ付テ右魚類圖説ト相對比スヘキモノニシテ、其ノ價值ニ至リテハ内外學界ノ等シク承認スル所ナリ。上記日本海藻圖説ニ掲載セル分ヲ加フレハ同氏ハ本會援助前已ニ二百三、四十種ノ藻類ヲ圖説シ、其後モ亦每冊銅版五枚ヲ挿入シ、着色原版刷トシ、歐和兩文ヲ以テ説明ヲ加ヘ、約四ケ年間ニ十六冊ヲ出版シ八十餘種ノ藻類ヲ圖説スルノ計畫ナリ。十二年九月ノ震火災ノ爲メ幾分ノ被害アリシモ、直ニ其復舊ニ努メラレ、既ニ第四卷第五集乃至第十集及ヒ第五卷第一集乃至第七集ヲ出版セラレタリ。

一三、家畜ニ於ケル遺傳ノ細胞學的研究

六ケ年間ニ金六千圓ノ補助(本年追加一千圓共)

東京市外上目黒駒場七七六

〔略傳〕 増井氏ハ明治二十年九月静岡縣安倍郡長田村ニ生ル。郷里ノ中學ヲ卒業シ第二高

獸醫學博士 増井清



等學校ヲ經テ東大農科大學獸醫學科ニ入り、大正四年同科卒業直ニ大學院ニ入り、石川博士指導ノ下ニ遺傳學及ヒ細胞學ヲ研究シ、五年秋ヨリ家畜ニ於ケル遺傳ノ細胞學的研究ヲ始メ、傍ラ農學部實科ニ教鞭ヲ執ラレタリ。發表論文ニ「馬ニ於ケル精蟲ノ發生ニ就テ」及「牛ニ於ケル精蟲ノ發生ニ就テ」等アリ、十年五月學位ヲ受ケ、十一年農學部助教授ニ任セララル。

〔事業〕 動植物ノ種類改良上最モ必要ナルモノハ遺傳ノ研究ニシテ、又動物ノ遺傳研究ノ基礎タルモノハ生殖細胞ノ研究ナルコトハ一般ニ認メラルル所ナリ。然ルニ斯ノ如キ研究ハ今日迄主トシテ下等動物ニ就テノミ行ハレ、高等動物ニ就テ遂ケラレタルモノ極メテ尠ク、今日委細ニ之ヲ研究スルコトハ學術上又應用上頗ル有益ナリトス。増井氏ハ多年本研究ヲ繼續シ其ノ成績トシテ發表セラレシ論文ハ專門學者ノ推賞ス

ル所ナリ。本會ハ別記ノ如ク植物遺傳ニ付テハ池野氏ヲ援ケツツアリ。此ノ増井氏ノ動物遺傳ノ研究ハ即チ之ニ相呼應スルモノト云フヘシ。同氏研究ノ方針ハ細胞學的ニ遺傳質及ヒ遺傳現象ヲ研究スルモノニシテ、之カ爲メ牛馬等ノ大動物ニ付其ノ生殖細胞ノ觀察ヲ行ヒ、又羊以下ノ小動物ヲ飼養シテ實驗的且ツ交雜的ニ研究ヲ進メントス。氏ハ最初馬ノ精子ノ發生ニ就テ、次ニハ牛ノ精子ノ發生、第三ニハ鼠及ヒ兔ノ精子ノ發生ニ就テ精細ナル研究ヲ遂ケラレシカ、大正九年十二月本會ノ補助スルコトトナリテ後第一ニ計畫セラレタルハ鼠ノ卵ノ發生ヨリ受精ノ現象ヲ詳シク研究シテ染色體性定染色體「コンドリオゾーム」等ノ行動及性質ヲ明ニスル事及ヒ同時ニ鼠ニ於テ交配ヲ行ヒ遺傳ノ研究ヲ爲ス事ナリ。而シテ鼠ノ卵細胞ノ分化ニ就テノ研究ハ一部既ニ完成シ、發表論文成リ、又「マウスニ於ケル生殖腺除去ノ副腎ニ及ホス影響並ニ其組織細胞學的研究」[The Effect of Gonadectomy on the Structure of the Suprarenal Gland of Mice, with Reference to the Functional Relation between this Gland and the Sex Gland of the Female.] "Effect of Gonadectomy on the Weight of the Kidney, Thymus, and Spleen of Mice." 等ヲ發表セラル。尙本件ハ研究未了ノ點アリ、一ヶ年ヲ限リ延期シ補助ヲ追加シタリ。

一四、日本産鑛物ノ蝕像ニ關スル研究

三ヶ年間ニ金三千圓ノ補助

福井縣今立郡北新庄村中新庄

市川新松



〔略傳〕市川氏ハ明治元年五月福井縣足羽郡麻生津村打方新兵衛氏ノ二男ニ生レ、後市川彌治兵衛氏ノ養嗣子トナラル。獨學、小學教員檢定ニ合格、縣内小學校ニ奉職シ、後農業、鑛物等ノ中等教員文檢ニ合格シ、諸縣ノ師範學校ニ勤メ、在職十九年ニシテ四十年職ヲ辭シ、爾來專ラ標記研究ニ從事セラル。大正二年萬國地質學會議ニ水晶等ノ論文ヲ提出シ海外學會ニモ推賞セラレ、其後氏ノ論文ハ屢「アメリカ理學雜誌」ニ發表セラル。四年御大典紀念トシテ鑛物研究

室ヲ設立シ、十三年攝政殿下北陸行啓ノ際拜謁仰付ケラル。十四年財團法人若越輔成會ヨリ福井鑛物誌出版ノ企ニ對シ五百圓ヲ助成セラル。

〔事業〕 礦物蝕像學ハ藥品ニ因リ結晶分子ヲ離解セシメ、分子ノ配列ヲ研究スルモノニシテ、同氏ハ多年來本研究ヲ專攻シ、大正九年十二月來本會援助ノ下ニ之カ研究ノ完成及發表(英和兩文)ニ努メラル。最初アメリカ理學雜誌ニ發表ノ水晶蝕像論(原圖一一八個)ハ、モウレングラーフ氏及ヒ、ベンフィールド氏等ノ研究ヲ補足セシト共ニ、從來疑問トセシ水晶ノ「ビシナルフェース」ノ性質ヲ明ニシ、且ツ同晶體ニ於ケル電氣光學等ノ現象ト蝕像トノ間ニモ多クノ新關係ヲ見出シ、其他同誌ニ發表セル方鉛礦(原圖二〇個)方解石(原圖六四個)石榴石(原圖一二個)閃亞鉛礦(原圖一六個)等ノ天然蝕像論等モ、或ハ氏ノ新研究ニ屬シ、又ハ外人ノ不足ヲ補ヒシモノモ尠カラスト云フ。尙本研究ハ學術上ニハ勿論電氣光學、結晶礦物加工等應用方面ニモ貢獻スヘキヲ信ス。而シテ本會援助後ノ成績ハ(一)黃寶石ノ天然蝕像ニ依テ光軸角ヲ測定スル新法ヲ發見シ原圖二三七個ヲ作り、(二)「ダンブリット」ノ天然蝕像ト光學トノ關係ヲ論シ原圖一一五個ヲ作製シ、(三)天然蝕像ノ綠柱石ヲ研究シテ原圖五七個ヲ收メ、(四)既發表日本產水晶ノ天然蝕像論ニ新原圖二七四個ヲ補ヒ、(五)燐灰石ノ結晶面ニ於ケル天然蝕像ノ廻轉性ヲ論シ原圖三九個ヲ收メ、(六)灰重石ノ天然人工兩蝕像ヲ研究シテ原圖二七個ヲ作製シ、(七)黃銅礦ノ天然蝕像

ト結晶系統トノ關係ヲ研究シテ原圖五六個ヲ作り、(八)黃鐵礦ノ結晶面ニ於ケル天然ノ四ミト結晶系統トノ關係ヲ論シテ原圖一三六個ヲ收メ、(九)輝錫礦ノ天然蝕像ヲ研究シテ原圖六個ヲ作り、(一〇)既發表石榴石、方解石、閃亞鉛礦、方鉛礦等ノ天然蝕像論ニ寫真圖二九個ヲ増補シタリ。(一)ノ論文ハ「アメリカ理學雜誌」ニ發表シ(二)以下ノ論文モ同誌ニ發表ノ豫定ニテ一部ハ原稿渡濟ナリ。尙日本文ノ報告英文ノ摘要ヲ附シハ多クノ挿入寫真モ出來、目下印刷中ニテ遠カラス完成スヘシ。

一五、本邦ニ於ケル化學的研究

業績總覽ノ編纂

二ケ年ニ金六千六百圓ノ補助

(二回ニ決定)

東北帝國大學理學部化學教室

理學博士 眞島利行

〔略傳〕 眞島氏ハ明治七年十一月京都ニ生ル。第一高等學校ヲ經テ東京帝國大學ニ入り、三十二年純正化學科ヲ卒業セラル。同理科大學助手、助教ヲ歷テ、三十九年留學ヲ命セラレ、獨逸、瑞西及ヒ英國ニ於テ有機化學ヲ專攻スルコト四年、四十四年東北帝國大學教授ニ任セラレ、有

機化學講座ヲ擔任シテ今日ニ及ヘリ。四十三
年理學博士ノ學位ヲ受ケ、漆ニ關スル研究ニヨ
リ大正二年東京化學會ヨリ櫻井賞牌ヲ受ケ、六
年帝國學士院賞ヲ受ケラル。



一般斯學研究者ニ便セントスルモノナリ。化學ノ如ク廣ク醫學、藥學、衛生、生理、製造、農
藝、其他ノ産業等ニ對シ一基礎タルト共ニ、邦土地方ニ特有ノ天產品又ハ其加工品ヲモ
研究スル學問ニハ、從來ノ業績ヲ一目瞭然タラシムル集約抄録ヲ作ル事極メテ必要ナ
リ。獨、英、米、佛等ニハ此種ノ事業已ニ存シ、各國ノ研究ヲ抄録セルニ係ラス、邦語ヲ知ル
モノナキ爲メ邦文ノ報告ハ之ヲ抄録セス、又本邦化學界ニモ未タ此種ノ企圖ナシ。眞
島氏之ヲ遺憾トシ、大正十年四月來本會援助ノ下ニ本事業ニ着手セラル。其後本事業
ハ着々進捗シ、已ニ東京化學會誌、藥學會誌、工業化學會誌ヲ始メ各大學ノ紀要其他頗ル

「事業」 本事業ハ明治初年來五十餘年間ニ蓄
積セル本邦化學關係研究業績ヲ集約抄録シテ、

多數ノ關係報告等ノ抄録ヲ大正九年(一九二〇年)迄完成シタリ。之ニテ一旦打切り出
版スル豫定ノ處十二年九月ノ震災ノ爲メ延引ノ已ムナキニ至リ、依テ之ヲ機會ニ更ニ
十二年八月迄延長シ抄録ヲ完了セリ。尙此等業績ノ總索引ハ著者名、物名及分類項目
ノ三種ニ從ヒ之ヲ作製セリ。此等ノ出版ハ有力者後援ノ下ニ刊行會ヲ組織シ、之ヲ行
フコトトシ、今ヤ既ニ諸準備成リ其印刷ニ着手セリ。

一六、絲狀蟲及ヒ絲狀蟲病ノ研究竝ニ

之ト象皮病、乳糜尿症、乳糜血
尿症、草顛病トノ相互關係調査

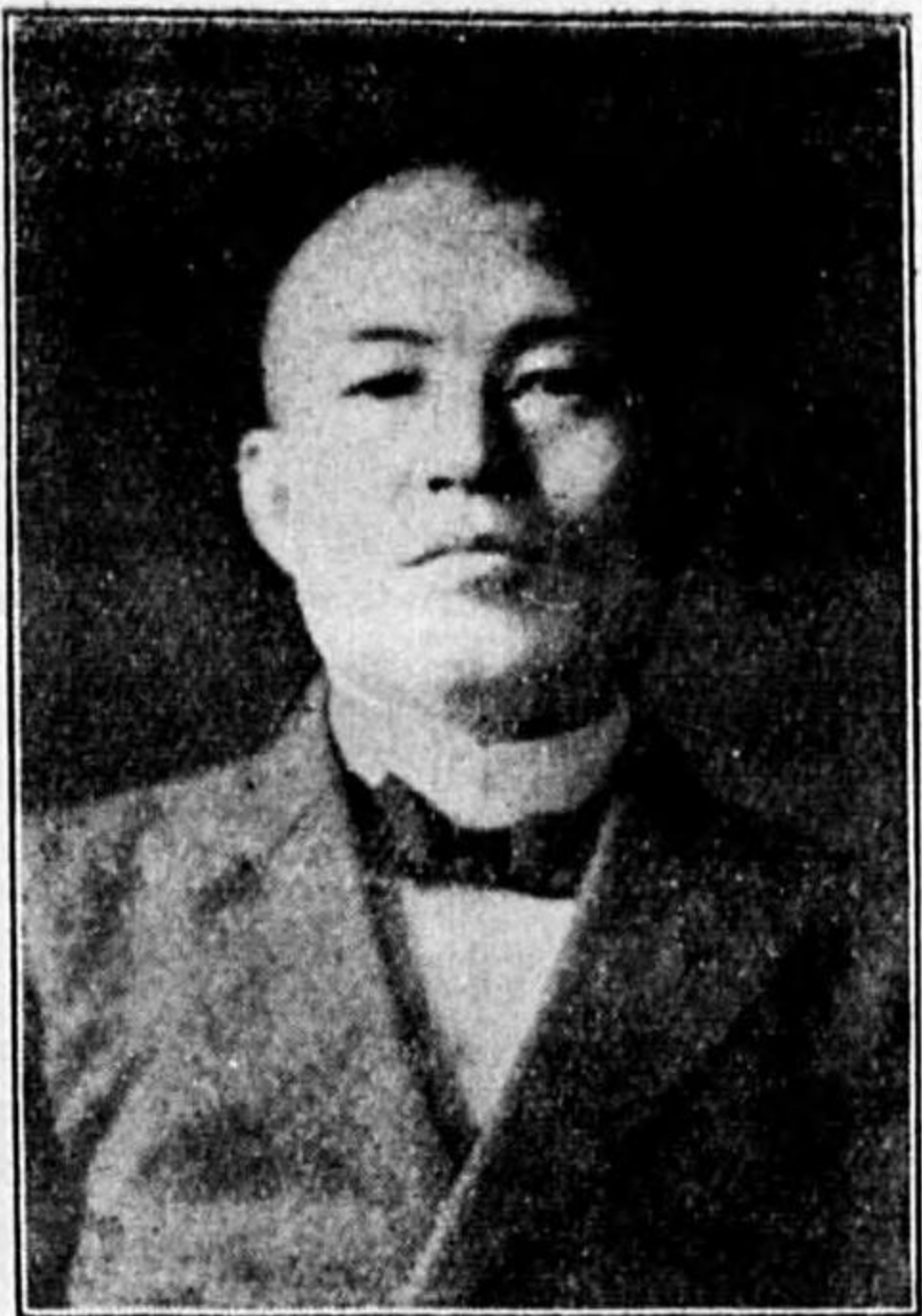
三ヶ年間ニ金三千圓ノ補助

慶應義塾大學醫學部

醫學博士 川 上 漸

「略傳」 川上氏ハ明治十六年三月新潟縣古志
郡ニ生ル。四十二年京都帝國大學醫科大學ヲ
卒業シ、爾後同大學ニテ病理學ヲ專攻シ、大正五
年熊本醫學專門學校教授ニ就任セラレ、七年醫
學博士ノ學位ヲ受ケラル。八年慶應義塾大學
醫學部教授ノ任ニ就カレ、現ニ其ノ職ニアリ。
又京都帝國大學卒業後一年志願兵トシテ兵役

ニ服務セラレ、大正三年陸軍二等軍醫ニ任セラ
ル。



「事業」 絲狀蟲病ハ廣ク我國ニ蔓延シ、其研究ハ頗ル緊要ノ事ニ屬ス。川上氏ハ從來本研究ニ從事セラシカ、大正十年七月來本會援助ノ下ニ一層深ク之ヲ研究セラルルコトナレリ。

爾來氏ハ主トシテ静岡縣富士郡地方ニ於テ本病ノ蔓延狀態ヲ調査シ、地勢及生活狀態ト本病蔓延トノ關係ニ就キテ探究ノ步武ヲ進メ、又業室ニ於テ實驗的ニ諸種ノ事實ニ就キテ檢索シツツアリ。而シテ氏カ日本病理學會ニ於テ宿題擔當者トシテ演說シ、又諸種ノ醫學雜誌ニ發表シタル所ニヨレハ、第一、象皮病、乳糜尿症、乳糜血尿症、草顛病等ハ何レモ絲狀蟲病ノ一症候ニシテ、第二、絲狀蟲病ノ傳播カ蚊族ノ襲螫ニヨルトナス從來ノ學說ハ慎重考察ノ必要アリテ、使用水カ帶フル所ノ意義カ却ツテ重要視スヘキモノノ如ク、宿主體內ニ封鎖セラレテ存スルモノニハアラシテ、自然的脫出門戸アリ、第四、從

ツテ本病ノ傳播ヲ以テ強ヒテ蚊族ノ襲螫ニヨルモノナリト爲スノ必要ナク、同一村落内ニ於ケル患家ノ聚落狀態、患家ノ聚落ト特殊狀況トノ關係等ヨリ推論スレハ、使用水ニ就キテ本病ノ傳播徑路ヲ追躡スルコトカ寧ロ合理的ナルモノノ如シ。氏ハ此ノ立證ヲ擁護センカ爲メニ、静岡縣下津田村ニ於テ、各戸全家族ノ血液檢査ヲ遂行シ、目下蒐集材料ノ整理觀察中ナリ。又自家ノ研究成績ヲ基礎トシテ、草顛病治療法ヲ考案シ、調査區域内ノ醫師ニ託シテ、效果試驗ヲ行ヒ、尙「フィラリア」病犬ノ心臟及腎臟竝ニ「フィラリア」患者ノ心臟及腎臟ノ病變ノ比較研究ニ從ヒツツアリ。

一七、「人體系統解剖學」ノ著作出版

五ヶ年ニ金一萬圓ノ補助

東京市牛込區余丁町二

醫學博士 岡 島 敬 治 (一)

「略傳」 岡島氏ハ明治十五年四月富山縣井波町ニ生ル。三十四年金澤醫學專門學校卒業、同年同校助手トナリ、三十六年講師ニ進ミ、同年京都帝國大學助手トナリ、三十九年長崎醫學專門學校教授ニ任セラレ、四十年再ヒ京大助手トナ

京都市下京區岩上通五條上ル柿本町

醫學博士 島田吉三郎 (一)

京都市上京區岡崎法勝寺町七二

醫學博士 小川睦之輔 (三)



(一)

リ、大正二年醫學博士ノ學位ヲ受ク。三年京都醫學專門學校教授トナリ、七年慶應義塾大學教授ニ轉シ、現ニ其ノ職ニアリ、解剖學ヲ擔任セラ

ル。
〔略傳〕 島田氏ハ明治九年五月群馬縣高崎町ニ生ル。二十九年第四高等學校醫學部卒業、四十年京都帝國大學醫科大學解剖學教室ニ入り解剖學ヲ修メ、四十一年同學助手トナリ、四十三年新潟醫學專門學校教授ニ任セラレ、大正二年獨逸留學ヲ命セラレ、三年戰亂ノタメ歸朝、次テ京都帝國大學醫科大學研究科ニ入り、五年歸任、六年醫學博士ノ學位ヲ受ケ、七年京都府立醫學專門學校教授ニ轉任シ、以テ今日ニ至ル。



(二)

〔略傳〕 小川氏ハ明治十八年十一月東京ニ生ル。三十五年第三高等學校入學、三十八年京都帝國大學醫科大學ニ入り、四十二年卒業引續キ大學院ニ入り一年ニシテ退學シ、同大學助手トナリ、大正二年助教ニ任セラレ、八年醫學博士ノ學位ヲ受ケ、同年歐米留學、十年歸朝、教授ニ任セラレ、現ニ其職ニアリ、解剖學ヲ擔當セラル。



(三)

〔事業〕 本件ハ故京都帝國大學教授醫學博士鈴木文太郎氏ノ遺業タル「人體系統解剖學書」ノ出版ヲ繼承シ、同博士ト共ニ本事業ノ分擔者タリシ岡島、島田、小川ノ三氏ニ於テ之ヲ繼續遂行セントスルモノニシテ、本會ハ本書ノ特殊ノ價値ト擔任者三博士ノ能力ニ信賴シテ出版費ヲ

補助スルモノナリ。元來鈴木博士ノ本解剖書ハ其資料ヲ専ラ日本人體ニ採リ、翻譯翻刻ノ弊ヲ排シ純粹ナル日本人ノ解剖學ヲ確立セントスルモノニテ、氏ハ十數年ノ計畫ヲ以テ之ニ着手シ、第一卷(骨學)第二卷(筋學)及第三卷(內臟學)ノ發刊ヲ了リシ際ニ死去セラレ爲メニ一時中絶セルモノナルカ三氏ハ甚タ之ヲ遺憾トシ、鈴木氏ノ方針ヲ繼承シテ同氏ノ遺セル多數ノ標本材料ヲ基礎トシ、第四卷血管學ハ岡島氏、第五卷神經學ハ島田氏、第六卷五官器學ハ小川氏之ヲ分著シ、五ヶ年ヲ期シテ順次之レヲ出版スルモノナリ。本書カ日本人ヲ材料トセル點ニ於テ全ク獨創的ニシテ、從來多クノ解剖書ト全然其學術的價值ヲ異ニシ、分擔者三博士モ亦其道ノ大家ニシテ充分鈴木氏ノ遺志ヲ繼承セラルヘキヲ信ス。而シテ大正十年七月本會ニ於テ本事業ヲ援助スル事トセシ以來各擔任者ハ分擔領域ノ作業殊ニ標本製作並其描寫ニ一層力ヲ注キ、一方關係文獻ヲ涉獵シ資料ノ蒐集ニ努メ、作業着々進捗シツツアリ。

一八、海産動物ノ「プロタミン」竝ニ

「ニユークレイック」酸ノ研究

〔略傳〕 山川氏ハ明治十六年二月牛込區若松

三ヶ年間ニ金五千圓ノ補助

東京市外西巢鴨町池袋一〇〇

農學博士 山川 洵



町ニ生ル。東京高等師範學校附屬小、中學校第六高等學校ヲ經、四十一年東大農科農藝化學科ヲ卒業、直ニ大學院ニ入學、同年十二月一年志願兵トシテ入營、四十三年水産講習所技師ニ、四十四年工兵少尉ニ任セララル。大正五年北米合衆國ニ留學ヲ命セラレ「エール」大學及「ロックフー」醫學研究所ニ生物化學ヲ研究シ、九年歸朝、同年水産講習所教授ニ就任、十年東大農學部講師兼任トナリ、十一年農學博士ノ學位ヲ受ラル。

〔事業〕「プロタミン」ハ蛋白質ニシテ比較的純粹ニ且ツ容易ニ取り出スコトヲ得ラル。海産動物ニ於テノミ見出サレ「ニユークレイック」酸ト結合シテ精蟲ノ主成分ヲナスモノナリ。其ノ化學性狀構造ノ研究ハ遺傳ノ研究ニモ貢獻スルモノニシテ、學術上應用上重要ナル研究ナルニ係ラス、今日ニ至ル迄未タ研究ノ見ル可キモノ尠シ。蓋シ歐米ニ於

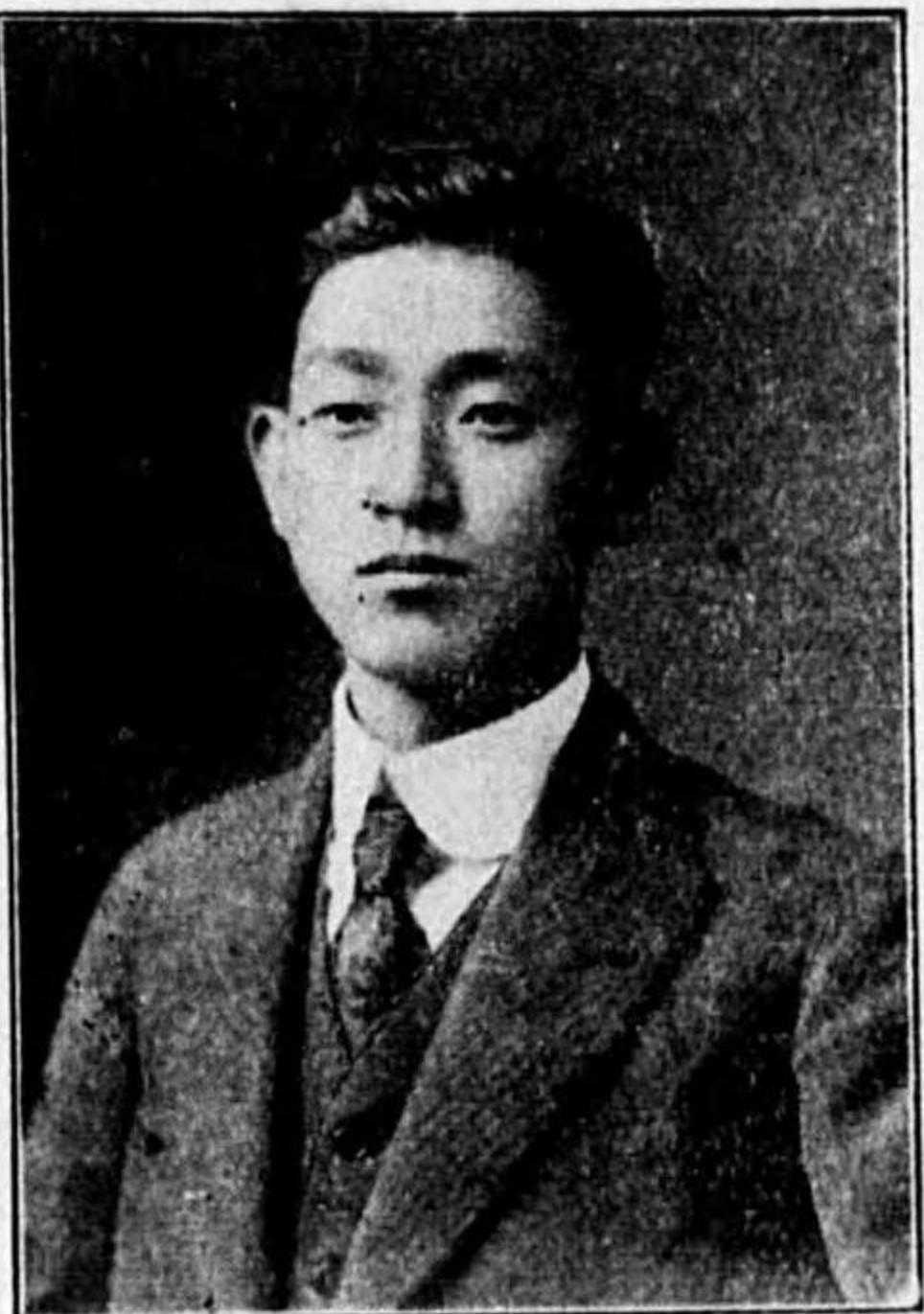
テハ研究材料ノ蒐集ニ不便ナルコトモ其ノ一因タルヘシ。然ルニ我國ニ於テハ四面海ニ臨ミ海産動物ノ種類モ亦頗ル多種ナルニモ係ラス、研究ノ見ルヘキモノ無キヲ遺憾トシ、山川氏ハ數年來本研究ニ從事シ、曩ニ米國ニ留學中モ「ロックフェーラー」醫化學研究所ニ於テ専ラ之ヲ研究シ、發表セラレシ研究成績數種ニ上ル。氏ハ一層本研究ヲ擴張繼續センコトヲ欲セラレ、本會ハ大正十一年一月以降之ヲ援助スルコトトセリ。而シテ氏カ其後ノ研究目的竝ニ事項ハ(一)海産動物ノ精蟲ノ化學的研究、(二)魚類ニ於ケル「プロタミン」ノ分布附、新種ノ分離、(三)見出サレタル新種ノ化學的性質ヲ定メ、既往ノモノトノ比較、(四)凡テノ「プロタミン」ノ構造ノ化學的竝ニ物理的研究、(五)「プロタミン」ト他ノ蛋白質トノ比較、(六)海産動物ノ該酸ノ分布、附、各種ノ内臟ニ於ケル該酸ノ分離、(七)之等ニ附隨セル「ヒストン」ノ研究等ナリ。其後同氏ハ熱心ニ材料ノ採集、資料ノ調査研究ノ進行ニ努メラレ、既ニ新しきプロタミンに就テ「第二報」乃至「第四報」及ヒ「イースト、ニュークレイツク酸」に就テ「第二報」「三三」の「プロタミン」とヒストンとに就テ「第一報」「バチ」の「精子」に就テ「第一報」「大羽鰯」の「精子」に就テ「第一報」「鯉」の「精子」に就テ「第一報」ニ發表セラレタリ。

一九、築港ト漂砂ノ關係研究

二ヶ年ニ金六百二十七圓ノ補助

東京市外王子町十條二五〇〇

工學士 關 信 雄



〔略傳〕 關氏ハ明治二十五年八月福島縣若松市ニ生ル。大正八年東京帝國大學工學部土木工學科ヲ卒業セラレ、直ニ内務省神戸土木出張所ニ奉職シ、繫船壁工場勤務ヲ命セラレ、神戸港修築工事ニ從事シ、同年二月内務技師ニ進ミ、同年五月東京帝國大學助教授ニ轉任セラレ、工學部土木學科ニ勤務シ、現ニ其職ニアリ。

〔事業〕 折角出來上リシ港カ漂砂ノ堆積スル爲メニ船ノ出入困難トナリ、又甚シキハ殆ント港ノ全部カ土砂ノ爲メ埋立テラレシ工事モ無シトセス、是全ク漂砂ノ運動状態ニ關スル調査不十分ナリシカ、又ハ現在ノ調査方法ニ缺陷アルカ爲メナリト云ハサルヘカラス。故ニ漂砂ノ研究ハ築港其他臨海工事ノ計畫上頗ル重要ナルコトニシテ、殊ニ現時

ノ我國ノ如ク神戸、横濱等ノ大築港ヲ始メ、各地ニ地方的港灣又ハ漁港ノ築造ヲ要スルモノ多數アル國ニ於テハ、本研究ハ一層緊要ナリトス。然ルニ漂砂ニ關スル研究ハ我國ニ於テモ又歐米ニ於テモ未タ甚タ不充分ニシテ今後ノ研究ニ俟ツ所頗ル多シ。關氏ハ嘗テ築港工事ニ關係セシコトモアリ、現ニ東大工學部土木工學ノ助教授トシテ新進有爲ノ研究家ナルカ、大正十年十二月ヨリ本研究ヲ開始セラレシモノニシテ、本會ハ其ノ經費ヲ援助スルコトトナセリ。而シテ本事業ハ波ノ動力利用ノ研究ヲ以テ有名ナル廣井勇博士指導ノ下ニ同博士ノ研究場タル千葉縣太東岬ニ於テ之ヲ行フモノナリシカ、更ニ静岡縣三保海岸及ヒ新潟縣新潟港ヲモ調査セラレタリ。而シテ氏ハ今日迄ノ調査ノ結果ヲ綜合シテ四、五十尺ノ深度ノ海底ニ於テ漂砂ノ現象アルヲ認メラレタリ。尙詳細ナル調査報告ハ近々發表セララルヘシ。

二〇、波斯ニ關スル研究資料ノ蒐集

五ヶ年間ニ金一萬圓ノ補助

東京市赤坂區青山北町一ノ八

〔略傳〕 荒木氏ハ明治十七年十二月福井縣足羽郡酒生村ニ生ル。三十八年東京高等師範學

マス、スター、
オブ、アーツ 荒 木 茂



校在學中語學專攻ヲ思立チ、北米合衆國ニ留學セラレ、比較言語學ノ基礎的研究ヨリ進ミ、大正三年紐育市「コロンビヤ」大學ニ入學「サンスクリット」語及ヒ其姉妹語ナル「ペルシヤ」語ヲ學習シテ「マス、スター、オブ、アーツ」ヲ受ケラル。爾來九年三月迄引續キ同大學ニ研究シ同年四月歸朝、十一年中東京帝國大學文學部講師トナリ、且女子學習院教授ニ任セラレ、今日ニ及フ。

〔事業〕 本件ハ波斯ニ關スル研究資料ヲ蒐集セントスルモノナリ。思フニ波斯ハ古代東西文明ノ分水嶺ニシテ、東亞ト西歐ノ文化カ如何ニシテ分岐シ如何ナル點ニ接觸アリヤヲ知ルニハ波斯ノ研究ヲ看過ス可カラサルナリ。又近世及現代ノ波斯ハ或ハ政治的ニ或ハ經濟的ニ歐洲諸國ノ注目スル所ニシテ本研究ハ極メテ重要ナリトス。而シテ本研究タルヤ或ハ古代ノ宗教、哲學、文學、藝術又ハ現時ノ言語、風俗、政治、經濟等頗

ル多方面ニ涉ルヲ要シ、現ニ歐米各國ニ於テハ此等ノ諸方面ヨリ盛ニ波斯ノ研究行ハレ、之ニ關スル資料ノ蒐集セラレタルモノ亦尠カラス。然ルニ我國ニ於テハ此方面ノ研究ハ殆ント顧ル者無ク、研究資料ノ看ル可キモノ極メテ尠シ。本會夙ニ之ヲ遺憾トセシニ偶々荒木氏ヨリ本件ノ申出アリ、同氏ノ頗ル適任ナル事ヲ認メ、大正十一年四月以來氏ヲ援ケテ本事業ヲ遂行スルコトトセリ。尙本件ハ高楠順次郎、藤岡勝二兩博士指導ノ下ニ行フモノニシテ蒐集品ハ到達次第之カ保管ヲ東大文學部言語學研究室ニ寄託スルモノトス。而シテ其後荒木氏ハ十一年五月渡歐セラレシ白鳥庫吉博士ニ託シテ第一回ノ蒐集ヲ爲シ、次テ十二年春渡歐セラレシ藤岡勝二博士ニモ蒐集ヲ託シ、又直接歐米ノ書店ニ注文シテ取寄セ、既ニ紀行、歴史、言語、美術等ニ關スルモノ約七百冊到着セリ。尙十二年九月ノ震災ニハ幸ニシテ本蒐集品全部研究室ヨリ持出サレ、燒失セシモノ僅ニ七冊、而モ其殆ント全部ハ再ヒ之ヲ蒐集シ得タリ。

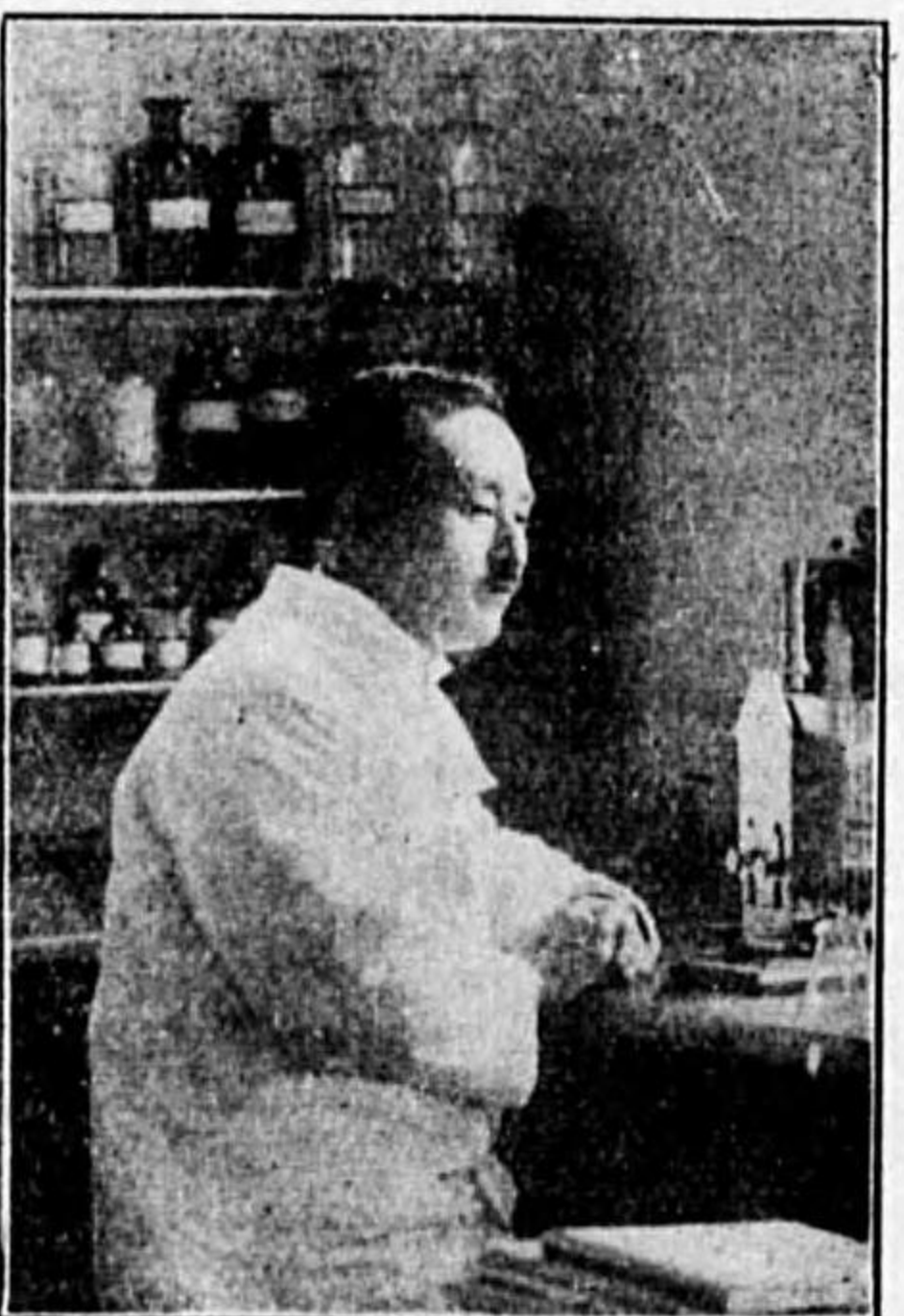
二二、妊娠妊娠腎炎ノ研究

二ヶ年間ニ金二千圓ノ補助

〔略傳〕五斗氏ハ明治十八年十月和歌山市ニ

東京市赤坂區丹後町六

醫學博士 五斗 欽 吾



十字病院臨床研究室主任トナリ、今日ニ及フ。

生ル。四十二年東大醫科大學ヲ卒業シ、直ニ大學院ニ入り、細菌學、醫化學ヲ修メ、後青山教授ニ就キ、內科學ヲ專攻セラレ、助手トシテ大學附屬醫院ニ勤務スルコト七年、大正五年米國遊學〔ベシルヴァニア大學〕〔ハーバード大學〕〔ロックフエラー〕研究所ニ於テ研究シ、七年歸朝、東大稻田內科ニ入りテ研究ヲ繼續シ、九年二月醫學博士ノ學位ヲ受ケラル。此間著書「アシドーシス」及ヒ「機能的診斷學」ヲ公ニセラレ、同年六月日本赤

〔事業〕本事業ハ妊娠時ニ於ケル蛋白尿、糖尿及腎疾患ノ本態及其療法ヲ攻究セントスルモノナリ。妊娠時ニ腎疾患及蛋白尿等ノ頻發スルハ人ノ知ル所ナリ、然レトモ其本態ニ就テハ學說一定セス、コハ疾患ノ診斷及治療上頗ル重大ナル問題ニシテ其研究

ハ人類保健上ニ密接ナル關係アリ。五斗氏ハ多年腎機能ニ關シ多大ノ興味ヲ抱キ、研究業績ノ發表サレタルモノ尠カラス、殊ニ著述「機能的診斷學」ハ其結晶ニシテ診斷學上ニ一新生面ヲ拓キタルモノトス。氏ハ此獨特ノ新見地、主トシテ機能的方面ヨリ、茲ニ本事業即妊娠腎炎ノ研究ヲ遂行セラレントスルモノニシテ、コハ在來ノ研究法ニ一新機軸ヲ出セルモノナレハ、疾患ノ本態ヲ究メ、診斷及療法上大ニ貢獻スル所アルヘク、殊ニ氏ハ赤十字社病院ニ於テ主トシテ研究方面ヲ擔任セラレ、特別ノ研究設備モアリ、且同院ニハ先年施療產院ノ開設セラレタルヲ以テ、同氏ノ病理研究ノ結果ハ直ニ同產院ニ於テ治療法トシテ應用セラレ、兩々相俟ツテ研究應用上裨益スル所多カルヘキヲ認メ、大正十一年四月來本會ニ於テ氏ノ本研究ヲ援助スル事トセリ。其後氏ハ先ツ妊娠腎ニツキ本態及床臨上腎機能ヲ研究セラレツツアリシモ、業半ハニシテ十二年九月ノ震災アリ、又本務多忙ナリシト、其後病氣ナリシト、爲メ一時研究ヲ中絶サルルノ止ムナキニ至レリ。然レトモ其動物試驗ハ既ニ豫備試驗ヲ終リ、今ヤ本研究モ略完成シ近々發表ノ豫定ナリ。尙氏ハ其研究中「理論ト實際腎臟疾患」ト題シテ特ニ妊娠腎ニツキ評論セラレタリ。

二二、「明治工業史」ノ編纂ノ完成及出版

二ヶ年間ニ金二萬五千圓ノ補助

(但内二萬圓ハ後ニ返戻)

東京市京橋區山城町一五

工學會理事長

工學博士 男爵 古市 公威 (一)

京都市上京町淨土寺眞如町

明治工業史編纂委員長

工學博士 田邊 朔郎 (二)



(一)

〔略傳〕古市氏ハ姫路藩士ニシテ安政元年閏七月日本橋蠣殻町ニ生ル。工學界ノ長老ニシテ夙ニ學位ヲ受ケ、東大名譽教授、帝國學士院會員タリ、從三位勳一等ニ叙セラレ、男爵ヲ授ケラル、現ニ樞密顧問官タリ。

〔略傳〕田邊氏ハ文久元年十一月東京ニ生ル。明治十六年工部大學校土木工學科卒業直ニ京都府ニ赴任、琵琶湖疏水工事ヲ擔任シ本邦最初ノ水力電氣ヲ完成ス。二十三年東大教授ニ任シ、二十四年學位ヲ受ケ、二十九年北海道廳ニ轉任シテ同道官設鐵道ヲ創立シ、三十三年京大教授ニ任シ、大正十二年十月退職、翌月京大名譽教

授ノ名稱ヲ授ケラル。「琵琶湖疏水誌」「ごんねる」
「水力」西伯利鐵道「公式工師必携」等ノ著アリ。



(二)

年以來田邊氏ハ獨力ヲ以テ其編纂ニ當ラレシカ、大正五年古市男爵ヲ會長トスル工學會ニ於テ之ヲ繼承シ、田邊氏推サレテ編纂委員長トナリ、百三十餘名ノ委員ヲ設ケ、爾來十年ノ歲月ヲ重ネ、二萬餘圓ノ經費ヲ投シ、編纂略完成ニ近キシト雖モ、未タ完備ニ至ラス、且ツ其出版費大ナルモノアリ、依テ大正十二年四月以來本會ハ其ノ編纂ノ完備ト出版ノ經費ヲ援助スルコトトシタリ。其後同史中ノ化學工業篇(四六倍版 千百十六頁)、造船篇(四六倍版 四五四頁)及ヒ鐵道篇(四六倍版 六百五十九頁)各壹千部宛ヲ發行スルヲ得タリ。之ニ引續キ建築篇ハ目下印刷準備中ニ屬ス。而シテ土木篇之ニ亞ク、火兵篇、鐵鋼篇、鑛業篇ハ略成ルモ印刷費ノ都

合上之等ヲ後ニシ、電氣篇ヲ土木篇ノ次位ニ置キ機械篇ノ完成ヲ急キツツアリ。以上上梓ニ關スル諸費用ハ先ツ本會援助金貳萬五千圓中ノ二萬圓ヲ以テ之ニ充テ、不足額ハ既成各篇ノ賣却代金ヲ以テ之ヲ補フ豫定ニシテ、大體五ヶ年位ニ發行ヲ完了センコトヲ期スルモノナリ。尙右出版完成ノ上ハ其賣上金中ヨリ前記二萬圓ヲ本會へ返還スルモノナリ。

二三、渦動ノ研究

三ヶ年間ニ金四千五百圓ノ補助

東京市麴町區元衛町中央氣象臺

官舎第二號

理學博士 藤原 咲平

〔略傳〕藤原氏ハ明治十七年九月長野縣諏訪郡上諏訪町藤原光藏氏ノ長男ニ生レ、小、中學校、高等學校、東京帝國大學理科大學理論物理學科及同大学院ヲ卒業シ、大正四年學位ヲ、九年學士院賞ヲ受ク。明治四十二年中央氣象臺ニ入り技師トナリ、氣象學ヲ專攻シ今日ニ至ル。



自働種子成長適應等ニ關シ新事實ヲ發見シ、生物及ヒ無生物間ノ一連鎖ナルヘキ事ニ着目シ、既ニ其研究成績ヲ發表セリ。而シテ氏ハ更ニ本研究ヲ徹底センカ爲メ經費ノ補助ヲ求メラレ、大正十二年四月來本會ハ之ヲ援助スルコトトセリ。其後着々研究ヲ進メ右諸發見ノ事實ヲ活動寫眞ニ撮影スルコトニ成功シ、尙多年疑問タリシ北尾ノ定理ト岡田ノ法則間ノ外見的矛盾ノ原因ヲ究明シ、其ノ裝置及成績ハ十二年九月ノ震火災ニ燒失シタレトモ、新裝置ヲ設ケテ復興ヲ計リ、又大體ノ報告ヲ氣象集誌ニ發表シ、地球の渦卷と相模灘大地震ヲ同志ニ掲載シ、相模灘大地震の機巧に於て及地球の表面の

「事業」渦卷ノ研究ハ氣象學上甚タ重要ナレトモ、從來多少ノ理論的研究アリタル外實驗的研究少シ。藤原氏ハ先年滯歐中本研究ニ着手シ、向對稱ノ原理造差別即チ増上の成長ノ原則向平等即チ死滅ノ原理ヲ發見シ、其適用範圍カ單ニ渦卷ニ止ラス廣汎ナル自然現象ニ共通ナルヲ示シ、又渦卷ノ吸引、排斥、分裂、癒着、攝取、世代

渦卷〔英文〕ヲ發表シ、尙大正十五年外遊中諸所ノ學會ニ於テ研究ノ大要ヲ紹介セラレタリ。

二四、定本萬葉集ノ作成

四ヶ年間ニ金九千圓ノ補助

東京市本郷區西片町一〇

文學博士 佐々木 信綱



「略傳」佐々木氏ハ明治五年六月伊勢鈴鹿郡石藥師村ニ生レ、歌人佐々木弘綱氏ノ長男ナリ。東京帝大古典科卒業後、竹柏會ヲ設ケ新派和歌ノ興隆ニ力ヲ盡サル。三十八年大東講師ヲ囑セラレ、和歌史ヲ講シテ今日ニ至ル。同四十四年文學博士ノ學位ヲ授ケラレ、翌年 明治天皇大學行幸ノ際萬葉集古寫本ニ就キ説明シ奉ラル。大正六年帝國學士院ヨリ恩賜賞ヲ受ケ、同年 明治天皇御集編輯委員ヲ命セラレ。著書ニ日本歌學史、和歌史ノ研究、近世和歌史、元曆校

本萬葉集解説、日本歌選、思草常盤木、新月等アリ。

〔事業〕本會ハ大正八年來佐々木氏等ノ校本萬葉集ノ整理及刊行ノ事業ヲ援助シ、校本萬葉集五帙二十五冊ノ出版完結シタルコトハ、完成補助事業、八、記載セル通りナリ。依テ異本ヲ集メテ文字訓點ノ異同ヲ調査スルコト、即チ校本ノ作成ハ之ニテ完結シタル譯ナレトモ、萬葉研究ノ完璧ヲ期スルニハ更ニ定本ノ作成、即チ校本ノ異同ニ就キテ是非ヲ判別シ準據スヘキ所ヲ明ニスルコトヲ要ス。佐々木氏等ハ多年右校本ノ作成ニ從事セラレシ知識經驗ヲ以テ、更ニ此ノ定本作成ヲ遂行セント欲シ、其ノ經費ノ補助ヲ求メラレ、本會ハ萬葉研究ノ完成ヲ計ル爲メ、又佐々木氏等ノ適任者アルヲ幸ニ、大正十二年七月來更ニ本事業ヲモ援助スルコトトシ、其後同氏等ハ熱心ニ其研究ヲ續ケラレ、卷十九マテ再調ヲ了ヘ、更ニ第三回ノ調書ニカ、ルヘク準備中ナリ。

二五、かつを、まぐろ類ノ研究

四ヶ年間ニ金八千九百四十七圓ノ補助

略傳 岸上氏ハ慶應三年十一月愛知縣知多

東京市麴町區一番町廿九番地ノ二

(五味坂)

理學博士 岸上 鎌吉



郡横須賀町ニ生ル。明治二十二年東京帝國大學理科大學動物學科ヲ卒業シ、大学院ニ入り、二十四年農商務技師ニ任セラレ、二十八年學位ヲ受ケ、四十一年東京帝國大學農科大學教授ニ任セラレ、今日ニ及フ。

〔事業〕同氏ハ明治四十四年來農科大學ニ於テ専心從來ノ所謂さば科魚類ヲ研究シ、此科ニ含マルルまぐろ、かつを類ハさば、さはら類トハ大ニ異ナル構造(特ニ筋肉系及ヒ循環系ニ於テ)ヲ有スル事ヲ發見シ、まぐろ、かつを類ノ爲メニ新目ヲ設クルヲ至當トスルニ至レリ(東大農學部紀要)。然ルニ此レ等學術上興味アリ、經濟上重要ナル魚族ノ發生、生長狀態等ノ未タ不明ナルハ學術上、又産業上甚タ遺憾ナリトシ、大正十三年四月來本會補助ノ下ニ此等ノ事項ヲ研究セラルルコトトナレリ。爾來北海道東岸漁場、鹿兒島縣離島附近

漁場ニ付踏査中同縣南方群島沖ニ於テかつをしびノ仔魚及稚魚ノ發育スルコトヲ確
メ、同時ニ其形狀ノ特徴等ヲモ知リ得タルヲ以テ明年ヨリ是等ノ材料ヲ多數蒐集シ、一
層研究ノ歩ヲ進メラルル豫定ナリ。尙「かつを漁業ニ於ケル觀察」及ヒ「大正十四年ニ於
ケルしび、かつを研究ノ概要」ヲ發表セラレタリ。

二六、糖尿病ノ實驗的研究

三ヶ年間ニ金四千圓ノ補助

東京市外千駄ヶ谷町字千駄ヶ谷

五六二

醫學博士 緒方知三郎

〔略傳〕 緒方氏ハ緒方惟準氏ノ三男ニシテ、明
治十六年一月神田猿樂町ニ生ル。三高ヲ經テ
東大醫科ニ入り、四十年卒業、四十三年獨佛英ニ
留學、大正二年歸朝、東大醫科大學講師トナリ、三
年助教ニ進ミ、四年學位ヲ受ケ、八年教授トナ
リ、病理學講座ヲ擔任シ今日ニ及フ。

〔事業〕「メモリーング」「ミンスウスキ」「兩氏カ犬



ノ膵臟摘出ニヨリ糖尿病ヲ惹起セシメ得ルヲ
發見シテ以來、人類糖尿病膵臟ノ病理解剖組織
學的検査ノ結果、同病ノ原因カ膵臟殊ニランゲ
ルハンス「氏島」ノ内分泌機能障礙ニ存スル事確
實トナリ、而シテ緒方氏ハ多年「ビタミン」B缺乏
症ヲ研究シ、缺陷アル食餌ヲ以テ膵臟島組織ニ
著變ヲ惹起シ得ルヲ證明セラレ尙不完全食餌

カ糖尿病ノ一因タルハ臨床的觀察ノ教フル所ナルモ未タ其理由明ナラス。依テ氏ハ
「ビタミン」B缺乏症ノ研究上ヨリ得タル知見ニ基キ、廣ク食餌方面ヨリ糖尿病ノ原因ヲ
闡明セント欲シ、大正十三年四月來本會補助ノ經費ヲ以テ實驗ヲ始メ、飼養試驗ヲ主眼
トシ、他ノ方面ヨリモ糖尿病研究ノ歩ヲ進メ、既ニ研究方針ヲ確立シ、目的達成ノ曙光ヲ
認メ得ルニ至レリ。

二七、琉球藝術調査

一ケ年間ニ金五千圓ノ補助

(二回ニ決定)

東京市本郷區西片町一〇

工學博士 伊 東 忠 太 (一)

東京市下谷區谷中坂町四二橋本方

鎌倉芳太郎 (二)

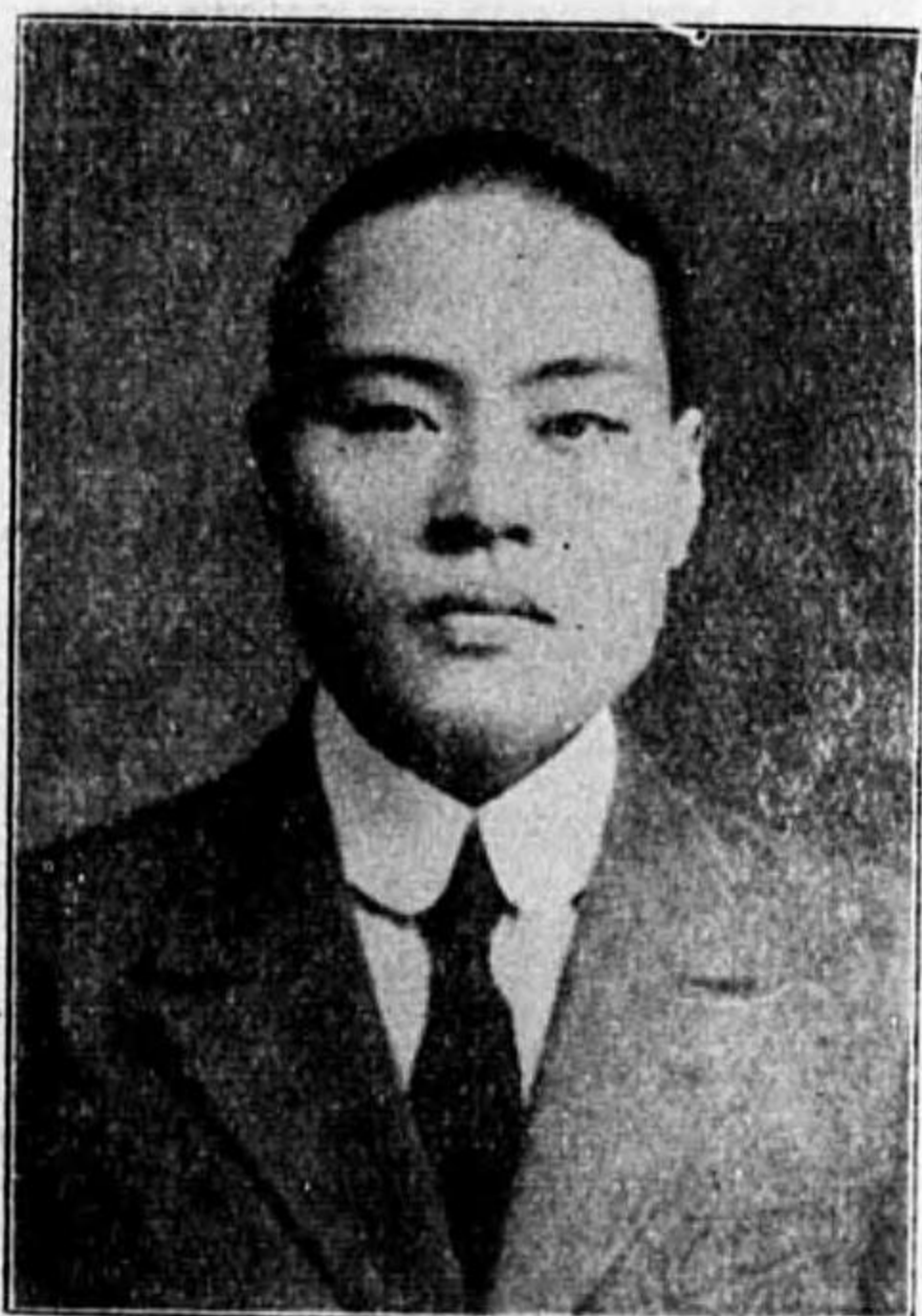


(一)

〔略傳〕 伊東氏ハ慶應三年十月山形縣米澤市ニ生ル。明治二十五年東大工科大学造家學科卒業、大学院ニ入り、三十二年工科大学講師トナリ、尋テ助教授ニ進ミ、三十四年學位ヲ受ケ、三十五年支那、印度、土耳其ニ留學、三十八年教授トナリ、建築史講座擔任今日ニ及フ。尙古社寺保存會委員、學術研究會議員等ヲ兼ネ、著書ニ「法隆寺建築論」「北京紫禁城建築調査報告」等アリ。

〔略傳〕 鎌倉氏ハ明治三十一年十月香川縣木田郡氷上村ニ生ル。同縣師範學校ヲ經、東京美術學校ニ入り、大正十年卒業、同年沖繩縣ニ赴任シ、琉球藝術ヲ研究シ、十二年母校研究科ニ入り、日本畫及東洋美術史ヲ專攻ス、十三年同校助手

トナリ、琉球藝術踏査ヲ命セラレ、今日ニ及フ。



(二)

〔事業〕 舊琉球王國ノ藝術ハ獨異ナル特色ヲ有シ、東洋藝術史上一異彩ヲ放ツ、然ルニ未タ之ヲ顧ル者ナク、其遺物ハ漸次湮滅セントス。伊東、鎌倉兩氏之ヲ遺憾トシ、大正十三年四月來本會補助ノ下ニ本調査ヲ開始セラル。調査ノ目

的ハ琉球藝術史ニ體系ヲ與ヘ、東洋藝術史上ノ位置ヲ考定スルニアリ。其手段トシテ寫真、拓本、摸寫、實物等ノ藝術資料ヲ蒐メ、他ノ東洋諸國ノ藝術ト比較シ、且ツ琉球文化ノ史料ヲ探求セントス。而シテ既ニ主要ナル琉球固有ノ祠堂、佛寺、神社、道觀、文廟、陵墓、城堡、宮殿、住家、橋梁、庭園等ノ調査ヲ了ヘ、紋樣、繪畫、彫刻、漆工、陶磁、織工、染工等多クノ資料ヲ蒐メ、又古記録等ヲ探リ、其數二千點ニ上ル。依テ本會ハ展覽會ヲ催シテ之ヲ公開シ、其際兩氏ハ調査成績ノ大要ヲ談演セラレタリ。然ルニ宮古、八重山等ニ於テ調査未了ノモノ少カラサルニ依リ、大正十四年九月更ニ金二千圓ヲ補助シ一ケ年ヲ期シテ調査ヲ

完成スルコトトセリ。其後同年末迄ニ既ニ五百餘點ヲ蒐集シ、引續キ折角調査中ナリ。

二八、紅色素ノ研究

二ヶ年間ニ金三千圓ノ補助

東京市本郷區曙町一六に六號

理學士 黒田 チカ



〔略傳〕 黒田氏ハ明治十七年三月佐賀市ニ生
ル。三十九年女子高等師範理科卒業、更ニ研究
科ニ入り、化學專修、後同校助教トナリ、大正二
年東北帝大化學科ニ入り、五年卒業、副手トナリ、
有機化學研究、後東京女高師教授拜命、十年現職
ノ儘英國ニ留學、十二月歸朝、尙理化學研究所屬
託ヲ兼ネラル。

ルニ化學的ニ未タ其本質又ハ構造明ナラス。黒田氏ハ曩ニ我歴史的染料タル紫根ノ

〔事業〕 紅花ノ色素ハ東洋ノ特産ニシテ、古來
染料、化粧又ハ食用色素トシテ賞用セラル。然

色素ノ研究ヲ完成セラレ、更ニ本研究ヲ企テラレシカ、紅ノ原料ハ極メテ高價ニシテ爲
メニ多額ノ經費ヲ要シ、依テ原料費ノ支出ヲ本會ニ求メラレ、大正十三年七月來之ニ援
助スルコトトセリ。然ルニ同氏ハ紅ノ主產地支那ニ於テハ、水害、内亂等アリ、紅ノ價額
ハ一層騰貴セシモ、幸ニ相當ノ材料ヲ得ラレ、爾來折角研究中ノトコロ、最近原料幾分低
下シ稍多量ニ買收スルヲ得益々努力中ナリ。遠カラス既成ノ研究報告ヲ發表セラル
ヘシ。

二九、佛國圖書館並ニ英國博物館所藏

支那西陲發掘古典籍ノ調査及寫照

金三千圓ノ補助

京都市上京區田中野神町二〇ノ一

文學博士 内藤 虎次郎

〔事業〕 別記ノ通り「オーレル、スタイン」ノ支那

西陲各地ニ發掘セル英國博物館所藏品中繪畫

ハ既ニ本會援助ノ下ニ瀧精一氏之ヲ摸寫將來

シ、其主トシテ佛教ニ關スルモノハ之又本會ノ

補助ニヨリ矢吹慶輝氏之ヲ寫照將來セラレタリ。然ルニ尙主トシテ佛教關係以外ノ

モノニハ未調ノモノ存スル如ク、更ニ「パウエル、ベリオ」ノ同地方ニ發掘シテ佛國圖書館ニ

藏スルモノニモ尙未調ノモノアリト思ハレ、依テ内藤氏ハ大正十三年七月歐洲出張ヲ好機トシ、右兩所ニ於ケル古典籍ヲ調査寫照セント欲シ、其ノ經費ノ援助ヲ本會ニ求メラル。本會ハ夙ニ此等發掘品ノ研究ヲ肝要ト認ムルモノニシテ、即チ同月氏ノ求ニ應スルコトトセリ。而シテ氏ハ既ニ此事業ヲ了ヘ、先年歸朝セラレ調査成績ノ整理中ナリ。

三〇、日本農民經濟書出版準備

金五千圓ノ補助

東京府荏原郡平塚村戸越一〇九五

小野武夫

〔略傳〕小野氏ハ明治十六年八月大分縣大野郡百技村ニ生ル。同縣農學校卒業、後一年志願兵トシテ奉天役ニ參加、四十四年農業科文檢合格四十五年法政大學政治科卒業、大正二年帝國農會囑託後海外興業會社調査課長等トナリ、九年來農商務省ヨリ永小作調査ヲ囑託セラレ、十二年來帝國學士院ノ補助ヲ以テ德川時代農民



土地制度ヲ研究シ今日ニ及フ。〔舊鹿兒島藩ノ門割制度〕、〔舊佐賀藩ノ農民土地制度〕、〔舊宇和島藩ノ關持制度〕、〔永小作論〕、〔農民經濟史研究〕、〔黎明期ノ農村〕其多數ノ著書アリ。

〔事業〕本事業ハ多年小野氏ノ蒐集セラレシ、主トシテ德川時代列藩ノ民制、農業經濟、農耕藝

法制等一切ノ農民生活ノ歴史ニ關スル記錄ヲ整理校正シ、且ツ解題ヲ附スルモノナリ。資料ハ數約三百種、一萬五千枚(六百字詰)、每卷約六百頁トセハ二十四、五卷ニ達ス。大正十三年七月來本會ハ其經費ヲ援助シ、爾來氏ノ格段ナル努力ト、事業全般ニ對スル石黒忠篤、福田德三兩氏ノ助言ト、原稿校正ニ關スル山下重民氏ノ熱心トニ依リ、準備成リ、出版者確定シ、目下印刷中ナリ。本書ハ農民史資料ヲ專ラトスル叢書ノ嚆矢ニシテ、農民問題研究ニ貢獻スル事頗ル大ナルヘキヲ信ス。

三一、青年男女ニ關スル調査

三ヶ年間ニ金一萬圓ノ補助

東京市麴町區代官町舊本丸

社會教育研究所

小尾晴敏



〔略傳〕小尾氏ハ明治十六年九月山梨縣北巨摩郡篠尾村ニ生ル。大正六年山梨自治會附屬松柏塾ヲ甲府ニ創立シ、十年之ヲ東京ニ移シ、社會教育研究所ト改稱ス。現ニ其主幹兼總務部長タリ。過去二十年各地ニ講演、講習ヲ爲ス事約千五百回、十三年其功ヲ賞セラレ、十四年助成金ヲ賜ハル。

〔事業〕將來國家ノ中堅タルヘキ青年男女ヲ指導スル方針ノ問題ハ額ル重要ナルコトナルガ、此ノ方針ヲ樹立スルニハ先ツ具ニ青年男女ノ實狀ヲ調査スルヲ要ス。小尾氏ハ先年來此ノ調査ニ著手シ、青年男女ノ學力、讀物、思想體力等ニ付詳細調査中ナリシガ、大正十三年十一月來本會援助ノ經費ヲ以テ一層徹

底的ニ之ヲ遂行セラルルコトナレリ。同氏ハ時々各地ニ出張講話シテ多クノ青年ニ接觸スル機會ヲ有シ、經營ノ研究所ハ毎年其ノ卒業者ヲ全國ニ送り、到ル所ニ多數ノ援助者ヲ有セラレ、洵ニ本事業ノ適任者ト云フヘシ。爾來氏ハ諸所ニ出張シテ銳意調査ヲ進メラレ、先ツ調査スヘキ町村ヲ選定シ、次ニ豫備調査ヲ爲シ、更ニ本調査ヲ行ハレツツアリ。

三二、日本産蛙ノ圖譜ノ出版

金三千圓ノ補助

東京市外大崎町字大崎五〇〇

岡田彌一郎

〔略傳〕岡田氏ハ明治二十五年六月横濱市ニ生ル。東京府立一中ヲ經、農商務省水産講習所ニ學ヒ、卒業後研究科ニ入り、傍ラ東大理科動物教室ニテ研究シ、同科助手ニ就任ス、其後農商務省農事試驗場囑託トナリ、水産講習所東京高師臨時教員養成所等ニ教鞭ヲ執リ、今日ニ及フ。



リ。依テ氏ハ右成績ヲ出版センカ爲メ經費ノ援助ヲ本會ニ求メラレ、大正十三年十二月本會ハ此出版中最モ重要ニシテ、而モ引受手ナキ圖譜ノ部分ノ印刷ニ援助スルコトトセリ。依テ同氏ハ直ニ其印刷ニ着手セラレ近々完成スヘシ。

三三、元曲選ノ研究

五ケ年間ニ金四千圓ノ補助

東京市小石川區久堅町七四

〔略傳〕鹽谷氏ハ明治十一年七月東京市下谷區ニ生ル。學習院ヨリ第一高等學校ヲ經、三十

文學博士 鹽 谷 温



五年東大文科大學漢學科ヲ卒業、直ニ大學院ニ入學、支那文學ヲ專攻ス。三十九年同大學助教ニ任シ、獨、清兩國へ留學ヲ命セラレ、大正元年八月歸朝ス。九年學位請求論文「元曲ノ研究」ヲ提出シテ、文學博士ノ學位ヲ受ケ、教授ニ陞進セラレ今日ニ至ル。

〔事業〕本事業ハ元曲百種ヲ選シ、其原文ニ句

讀訓點ヲ施シ、故事熟語ノ註釋ヲ試ミント欲スルモノナリ。抑々「元ノ曲」ハ「漢ノ文」「唐ノ詩」「宋ノ詩」ト並ヒ稱セララルル四大文學ノ一ニシテ、支那文學史上ニ燦爛タル光彩ヲ放テリ。從來詩文ハ本邦先儒ノ多ク研究スル所ナレトモ、詞曲ニ至リテハ殆ト之ヲ顧ミルモノナシ。蓋シ曲ハ當行ヲ貴ヒ、好ンテ淺言俚句ヲ用ヒ、頗ル解シ難ケレハナリ。然ルニ西洋ニ於ケル東洋學者ハ支那ノ戯曲小説ニ興味ヲ有シ、之ニ關スル著述翻譯少シトセス。是實ニ新シキ支那學者ノ手ニヨリテ開拓セララルヘキ天府ノ秘境ナラスヤ。但

シ元曲選ハ元人雜劇ノ選集ナレトモ、明代ノ編纂ニ係ルカ故ニ、流傳ノ際後人ノ修訂ヲ經タルモノアルヘシ。之カ考證ヲナスハ本研究ノ主トスル所ニ非レトモ、出來得ル限リ旁及セントスルモノニシテ、本會ハ大正十四年七月以降本事業ヲ援助スルコトトセリ。而シテ氏ハ拓殖大學宮原教授ヲ助手ニ依囑シ、分擔ヲ定メ銳意原文ノ註釋ヲ進メラレツツアリ。

三四、善見律毗婆沙ノ出版

金三千圓ノ補助

東京市小石川區關口臺町五

文學博士 高楠順次郎

〔略傳及ヒ肖像前出

〔事業〕 善見律毗婆沙ハ一切經漢譯ノ一ニシテ、序文ニハ佛教史ヲ詳述シ、本文ニハ律藏ノ註釋ヲ爲ス。善見律ハ一切經中唯一ノ南方佛教典ニシテ巴利語原本ヨリ譯出セラレタルモノナルコトハ、高楠氏ノ發見トシテ學界ニ重視セラル。同氏ハ先年來巴利語佛典協會ノ依託ヲ受ケ、右巴利語原本ノ校訂並ニ譯本トノ對照ヲ行ヒ、原本ノ儘ニ出

版セント欲シ、既ニ序文一部ヲ公ニセラレタルカ、殘部ヲ二卷若クハ三卷トナシ、引續キ出版セントスルモノニシテ、本會ハ其經費ヲ援助スルコトトセリ。

三五、支那歷代思潮ノ研究

三ヶ年間ニ金六千圓ノ補助

東京市外戸塚町大字訪諏八〇

文學博士 市村瓚次郎



〔略傳〕 市村氏ハ元治元年八月茨城縣北條町ニ生ル。明治二十年七月東大古典科ヲ卒業シ、二十一年十二月學習院教師トナリ、専ラ支那歴史及漢文ノ教授ヲ擔任ス。二十五年七月同院教授ニ任シ、支那へ出張シ史蹟ノ踏査ヲ爲ス。三十一年八月東大文科大學助教授ニ轉任、三十八年七月教授ニ昇任シ、支那哲學、史學、文學講座ヲ擔任ス。四十年八月文學博士ノ學位ヲ授ケラル。大正七年七月東洋史學講座ヲ擔任ス。大學ニ在ルヤ前後四回支那出張ヲ命セラレ史

蹟ノ踏査ヲ爲ス。十四年三月依願免官、四月學士院會員被仰付、七月東大名譽教授トナラレ、著書ニ支那史、支那史要、東洋史要、支那論集、支教論集等アリ。

〔事業〕 支那歷代ノ思潮ハ東洋思想ノ一大系ヲナスノミナラス、我日本ノ過去ニ於ケル思潮ニモ關係少カラサルヲ以テ、市村氏ハ十餘年來特ニ之カ研鑽ニ從事シ、其源流影響ヲ探究シ、帝大ノ教壇ニ於テ常ニ之ヲ講授セラレタリ。然レトモ其範圍廣汎ニシテ先秦諸子ヲ始メ、儒教、道教、佛教等ヨリ其他ノ宗教、文學、政治、風俗ニ至ルマテ、苟モ歷代思潮ト關係アルモノハ悉ク研究ノ題材タルヲ以テ、其ノ進捗容易ナラス、纔ニ上代ヨリ宋代マテハ略緒ニ就キタレトモ、元、明、清ノ時代ニ至リテハ猶未タ手ヲ着クルニ至ラス、大正十四年七月以降本會ニ於テ其ノ經費ヲ援助シ、既ニ緒ニ就ケル部分ノ補修ニ努メ、未タ着手セサル部分ノ完成ヲ圖ルコトトセリ。爾來前者ニ對シテハ兩漢時代ノ思潮、兩晉南北朝時代ノ清談、儒佛道ノ關係等ノ研究ヲ修正補訂シテ殆ト完了ニ至リ、後者ニ對シテハ金代ノ文献ヲ涉獵シテ之カ宋、元ノ思潮ト如何ナル關係ヲ有セルカヲ討究シ、更ニ元代思潮ニ及ホセル宋學ノ影響ヲ明ニセント欲シ、元代諸家ノ學說ニ就キテ檢討シ、

更ニ金元時代ノ詩歌小説詞曲ヲ通シテ、時代思潮ノ傾向ヲ探リツツアリ。

三六、「徳川制度史料」ノ出版

金二千圓ノ補助

東京市下谷區上根岸八二

小野清



〔略傳〕 小野氏ハ弘化三年九月仙臺ニ生ル。

初メ仙臺藩學養塾ニ學ビ、慶應二年江戸ニ出テ揚潁塾(林大學頭邸内)ニ入學、傍ラ徳川史料ヲ蒐集ス。明治十年内務屬トナリ大阪ニ赴任、居ルコト數年、官ヲ退キ東京根岸ニト居シテ專ラ著述ニ從事シ、其著ハス所大阪城誌、日本城郭誌、天文要覽、恒星圖、伏見城誌、天文要覽、天文彙考等アリ。明治十一年以降前後二十餘年ニ渡リ標記ノ史料ヲ編修増補シテ、十四年脱稿セララル。

〔事業〕 明治維新以後本邦上古ノ制度又ハ秦西諸國ノ文物ニ關スル調査研究ハ長足

ノ進歩ヲ見タレトモ、徳川時代ノ制度ニ關スル調査ハ二、三篇志ノ學者ノ外殆ント閑却セラレタルノ觀アリ。然ルニ年ヲ經ルニ從ヒ當時ヲ實見シタル古老ハ逝キ、文献亦漸ク散逸セントス。小野氏之ヲ慨嘆シ、記録ヲ探求シ、珍書ヲ涉獵シ、或ハ當時ノ當路者ニ實話ヲ聽取シ、具ニ同時代ノ制度ヲ調査セラルルコト茲ニ二十年ナリ。標題掲クル所ハ其ノ一部ニシテ、柳營行事、關所調等頗ル有益ナル史料ヲ收ム。大正十四年十二月本會ニ於テ其ノ出版費ヲ援助スルコトニ決シ、同氏ハ直ニ其ノ印刷ニ着手セラレ、遠カラス完成スヘシ。

三七、「東印度諸島蕃族文様ノ

人類學的研究」出版

金貳千五百圓ノ補助

東京市外杉並町字馬橋一〇三

移川子之藏

〔略傳〕大正三年四月米國シカゴ大學ニテバ
チラー、オブ、ヒロソフキーヲ得三年九月ハーバ
ード大學大學院ニ入り三ケ年間人類學專攻、六
年六月ドクトル、オブ、ヒロソフキーヲ受ケ、六年
九月ハーバード大學海外研究生トシテ東印度

諸島ヲ視察ス。八年四月慶大文科講師ニ、同年九月東京高等商業學校講師ニ、次テ十年五月東京商科大學附屬商學專門部教授兼同大學豫科教授ニ任セラレ、十一年六月臺灣督總府蕃族調查事務ヲ囑託セラレ。

〔事業〕移川氏ハ米國ハーバート大學ヨリ東印度諸島ニ派遣セラレテ文様ノ研究ニ着手シ、以來引續キ本研究ヲ續ケテ多數ノ資料ヲ蒐集シタリ、依テ之ヲ整理シ、蕃族文様ノ發達、變遷ヲ述ヘテ各蕃族間ノ人類關係ヲ究明シ、大古文字ナカリシ時代ノ文様ヲ列ネテ考古學上ノ手掛ヲ提供セシカ爲メ之ヲ出版セントスルモノニシテ、本會ハ大正十五年三月之ヲ援助スルコトニ決シタリ。

三八、山椒魚ノ研究

金壹千五百圓ノ補助

小石川區西原町二ノ四〇

田子勝彌

〔略傳〕明治十年五月廣島縣石城郡三阪村ニ
生マル。三十四年東京帝大理學部選科ニ入り
動物學ヲ專攻、三十七年全科修了、三十八年六月



農商務技師ニ任セラレ、水産動植物ニ關スル調査ニ從事ス。四十四年ヨリ大正元年ニ亘リ墨國及北米合衆國ニ出張水産業ヲ調査シ、九年ヨリ十年マテ西比利亞及北樺太ニ出張シ水産行政事務ニ從事ス。十一年四月水産講習所教授兼農商務技師ニ任セラレ、十三年十二月退職シ、爾後動物學ヲ專攻ス。

〔事業〕 山椒魚ハ東亞ニ産スル動物ニシテ、本邦領土内ニハ種族ニ富ミ、且ツ其種類ニ依リテハ特ニ地方ヲ限リテ饒産スルモノアリ、就中大山椒魚ハ本邦及ヒ支那ノ一部ノ河川ニノミ特産スル稀有ノ動物トシテ世界的ニ有名ナルモノナリ。田子氏ハ明治三十六年以來此動物ノ研究ニ發心シ、公務ノ餘暇全國各地ノ山川ヲ跋涉シテ山椒魚ノ種類及習性ヲ研究セリ。退官後専心研究ニ没頭シ、大正十五年三月以來本會ノ援助ニ依リ本邦産山椒魚類ノ標本ヲ蒐集シ、其分布、習性等ノ研究ヲ遂ケ、特ニ大山椒魚ノ産卵ニ

關スル習性ヲ明カニスルコトヲ得、發生學上智識ヲ増進スルコトヲ得タリ。目下調査報告書ヲ完成シ出版準備中ナリ。

三九、人類「ビタミン」B缺乏症ノ研究

金七千五百圓ノ補助

責任者 脚氣病研究會幹事

東京市本郷區弓町二ノ三四

醫學博士 稻田 龍吉

東京市外濫谷八〇三

出井 淳三

東京市麻布區飯倉三ノ一五

醫學博士 林 春雄

東京市外下濫谷豊分二一七

醫學博士 佐藤 恒丸

〔略傳〕 稻田氏ハ明治七年五月名古屋ニ生マ
ル。三十三年東京帝大醫學部卒業、三十五年内科研究ノ爲メ獨逸ニ留學、三十八年歸朝後、京都帝大福岡醫大ノ教授ニ任セラレ、内科學講座ヲ擔任ス。大正五年學士院ヨリ恩賜賞ヲ授與セラレ、七年東京帝大教授ニ轉任、十二年九州帝大名譽教授ノ名稱ヲ授ケラル。

〔略傳〕 島藺氏ハ明治十年三月和歌山市ニ生
ル。和歌山中學第一高等學校ヲ經テ東京帝大

東京市外西大久保四二二

醫學博士 北島多一

研究者

醫學博士 稻田龍吉^(一)

東京市本郷區彌生町三、八ノ六號

醫學博士 島蘭順次郎^(二)

東京市神田區駿河臺袋町一〇

醫學博士 吳建^(三)

仙臺市元柳町五七

醫學博士 加藤豊治郎^(四)

東京市本郷區駒込西片町一〇は一八號

醫學博士 大森憲太^(五)

醫科大學ニ入學、三十七年十二月卒業、直ニ陸軍
々醫トシテ日露戰爭ニ參加ス。四十四年歐洲
留學、大正二年十一月歸朝、岡山醫學專門學校教
授ニ任セラレ、内科擔任、五年八月京都帝大教授
ニ轉任、十五年東京帝大教授ニ轉任ス。

〔略傳〕 吳氏ハ明治十六年十月市内麴町區元
園町二ノ四ニ生ル。四十年東京帝大醫科大學
卒業、大正八年十一月東京帝大醫科大學助教
ニ任セラレ、九年一月九州帝大教授ニ轉任、十四
年五月東京帝大教授ニ轉任ス。

〔略傳〕 加藤氏ハ明治十五年七月三重縣津市
ニ生ル。四十年東京帝大醫科大學卒業、直ニ同

大學院ニ入ル。官命ニテ歐洲留學中大正四年
七月東北帝大醫科大學教授ニ任セラレ、七年五
月臨時脚氣病調査會臨時委員仰付ラル。

〔略傳〕 大森氏ハ明治二十二年熊本縣鹿本郡
山鹿町ニ生ル。四十四年第七高等學校造士館
ヨリ東京帝大醫科大學ニ入學、四年十二月卒業
九年四月慶應大學醫學部講師トナリ、傍脚氣原
因ヲ研究ス。十一年十月助教トナリ、十五年
同學附屬食養研究所主任ヲ兼任ス。

〔事業〕 脚氣病原因ノ研究ハ從來主トシテ動
物實驗ニ因リシカ、大正十年以來人類ニ就テ之
ヲ行フニ至リ、就中「ヴァイタミン」B 缺乏症ノ實驗



(一)



(二)

ハ本研究ノ進歩ヲ促シタリ。然レトモ今日迄ノ實驗ハ臨時脚氣病調査會ニ於テ三、四十人ノ人間ニ付テ行ハレシニ止リ、此ノ如キ少數ノ實驗ヲ以テ脚氣原因ヲ判定スルハ早計ニ失スルカ故ニ引續キ此ノ方法ヲ以テ實驗ヲ繼續スルコトヲ必要トス。然ルニ臨時脚氣病調査會ハ已ニ廢止セラレタルニ付東京、京都、東北、九州、各帝大醫學部及赤十字病院、慶應大學醫學部等ノ研究者ヲ以テ新ニ脚氣病研究會ヲ組織シテ之ニ從事シ、大正十五年三月以來本會援助ノ下ニ之ヲ行フコト、ナレリ。今後ノ研究目的ハ人類「ヴァイタミン」B缺乏病ヲ研究シ脚氣ヲ以テ直ニ「ヴァイタミン」B缺乏症トスヘキカ、或ハ此ノ兩者ハ共ニ營養障害ニ基キテ來ル別個ノ疾患ナ



(三)



(四)

ルカヲ確メントスルニアリ。目下前記ノ研究者ヲ始メトシテ多數ノ共同研究者ニ於テ、分擔ヲ定メ、或ハ「ヴァイタミン」B缺乏食ト脚氣患者トノ關係ヲ調べ、夏冬季節ト脚氣トノ關係ヲ見ルナト、諸方面ヨリ本研究ヲ遂行シツ、アリ。



(五)

四〇、「アイヌ」傳説研究ノ整理

金壹千圓ノ補助

東京府下杉並町大字成宗三三三二

金田一 京助

〔略傳〕 明治十五年五月盛岡市ニ生ル。三十七年東京帝大文科ニ入學言語學專攻「アイヌ」語ノ根本的研究ヲ企圖ス。三十九年渡道「アイヌ」部落歴訪、四十年樺太「アイヌ」部落ニ滞留、同年大學卒業。翌年國學院大學講師トナリ。大正二年

帝大文科講師ニ任シ、其他現ニ大正大學、早稻田大學等ノ講師タリ。



ノ完成ニ努力セラレツ、アリ。同氏著書ニハ「新言語學」北蝦夷古語遺篇「あいぬ物語」
「アイヌ聖典」「アイヌの研究」等アリ。

四一、琉球古典「おもろさうし」研究

三ヶ年間ニ金壹千五百圓ノ補助

市内小石川區指ヶ谷町四、小笠原方

文學士 伊 波 普 猷

〔略傳〕 明治九年二月琉球藩那覇ニ生ル。第三高等學校ヲ經テ、東大文科ニ入り言語學ヲ修メ、三十九年卒業、直ニ郷里ニ歸リテ郷土研究ニ

従事ス。四十三年縣立沖繩圖書館ノ新設セラ
ル、ヤ館長ニ就任、大正十二年十二月辭職、十三
年二月上京「おもろさうし」研究ニ従事ス。



土俗傳説等諸般ノ事項ヲ網羅シ、内容多種多様ニシテ、表現純真素樸、而モ頗ル難解ニシ
テ殆ント不可解ト稱セララル。氏ハ之ニ關スル文献凡ソ五千冊ヲ蒐集シ、反覆涉獵ノ間
漸次一道ノ光明ヲ認メ、日夜研鑽得ルニ從ヒ傍註訓話シ、章篇漸ク十ノ八ヲ成セリ。先
年帝國學士院贊助ノ下ニ「おもろさうし」校訂本ヲ出版セリ。而シテ大正十五年三月以
來本會援助ノ下ニ既成ノ稿本ニ對シ註釋ヲ爲スコトヲ企テ、爲メニ必要ニ應シ實地琉
球諸島ヲ遍歷シ、目下註釋本ノ完成ニ努力セラレツ、アリ。

四二、歐米ニ於ケル少年裁判ト

少年犯罪ノ現況調査

金貳千圓ノ補助

市内赤坂區青山北町五ノ四八

川村顯雄

及司法省囑託等ヲ經、大正十二年一月少年保護司ニ任シ、東京少年審判所勤務、十二年三月陸軍歩兵少尉ニ任セラル。十四年三月少年保護婦人協會ヲ創立ス。大正十四年九月陸軍叙高等官七等。

〔略傳〕 明治二十七年五月岩手縣一ノ關町ニ

生ル。大正二年四月一關中學校ヨリ駒澤大學

高等科ニ入り、七年同大學部卒業、同年九月京都

帝大文科ニ入學、文學ヲ研究ス。後岩手縣囑託

〔事業〕 川村氏ハ少年犯罪又ハ少年保護ニ對スル熱心ナル研究者ニシテ又實際家ナリ。此種ノ研究カ未タ本邦ニ於テ頗ル不十分ナルヲ遺憾トシ、大正十五年春約一ケ年ヲ期シテ歐米ニ於ケル少年裁判及少年犯罪等ノ現況ヲ視察調査センコトヲ企圖セラレ、同年三月本會ニ於テ之ヲ援助スルコトニ決シ、目下歐洲ニ滞在セラル。

四三、「アコニチン」類ノ化學的構造

ニ關スル研究

二ケ年間ニ金貳千圓ノ補助

理學博士 眞島利行

〔略傳〕及肖像〔前出

〔事業〕 眞島氏ハ先年本會援助ノ下ニ鳥頭屬植物中ノ「アルカロイド」ノ研究ニ從事シ、本邦主要産地ニ於ケル右植物中ノ「アルカロイド」ノ比較研究ヲ遂ケ、其成績ヲ發表セラレタリ。依テ更ニ其「アルカロイド」ノ中ナル「アコニチン」ノ化學的構造ヲ究明シテ本研究ヲ完結センコトヲ企圖セラレ、大正十五年七月ヨリ本會援助ノ下ニ遂行セラル、コト、ナリ、目下折角研究中ナリ。

四四、鎌倉室町時代ノ儒教研究

二ケ年間金貳千圓ノ補助

市内小石川區原町一〇

足利衍述

〔略傳〕 明治十一年八月愛媛縣東宇和郡宇和

町ニ生ル。三十二年東洋大學漢學專修科卒業、

三十五年東洋大學漢文教授ヲ擔任シ、今日ニ至

ル。大正十一年ヨリ明治大學豫科漢文教授ヲ
擔任シ、引續キ現在ニ至ル。



利氏之ヲ遺憾トシ、同時代ノ正史物語ノ類ヲ始メ、當時ノ文教支持者タリシ禪僧ノ語録、
詩文集、講抄、日記、公卿ノ日記、講抄等ヨリ零細ナル材料ヲ蒐集シテ、大正十年其第一稿ヲ
終リタリ。然レトモ同時代ノ著書ニハ寫本多ク、且ツ各府縣ノ寺院文庫等ニ散在シ、採
訪甚タ困難ナリ。大正十五年七月以來本會ノ補助ニ依リ之カ完成ヲ企圖セラレ、既ニ
京師附近埼玉、茨城、神奈川各縣下ノ寺院ヲ訪ヒテ新資料ヲ得テ舊稿ヲ補正シ、從來最モ
簡略ナリシ諸侯ノ興學即チ武家ト儒教トノ關係ヲ精シク調査シ、其七分ヲ終ヘ、又儒教
ノ社會ニ及ホセル影響ノ一トシテ物語類ニ現レタル儒教思想ヲ窺ハント欲シ、其代表

書ナル大平記及室町時代ノ古抄物等ヲ研究鈔録セラレツ、アリ。

四五、日本武士道ノ研究

二ヶ年間ニ金貳千圓ノ補助

東京市外落合町字下落合五二六

文學士 有馬 祐 政



〔略傳〕 明治六年十二月越前三國新保ニ生ル。
福井中學校ヲ經テ、第三高等學校ニ入り、三十二
年帝國大學文科大學卒業。「日本哲要論」「日本倫
理要論」「日本倫理史」「日本國道論」等ヲ著作シ、武
士道叢書「國民道德叢書」「勤王文庫」「修養文庫」ヲ
編纂セラル。哲學館、國學院、高等師範學校、學習
院長崎高等學校、同醫學專門學校等ニ教授シ、現
ニ東京商科大學專門部教授タリ。

〔事業〕 有馬氏ハ吾國固有ノ道德ヲ發揮シ、以
テ今後ノ國民思想ノ向上德風ノ宣揚ニ資スル處アラシコトヲ期シ、就中武士道ヲ以テ

其根幹ト爲シ、先ツ之レカ資料ノ蒐集ヲ必要ト認メ、明治三十七、八年役ニ際シ、「武士道叢書」三冊及「武士道家訓集」一冊ヲ公刊セラレシカ、此種ノ資料ニシテ大正十二年大震災火災ノタメ消失セシモノ多ク、又種々ノ事情ニ依テ漸次散佚スルニ至ランヲ憂慮シ、此ニ急キ力ヲ盡シテ武士道資料ヲ各方面ニ亘リ搜索探究シテ、哀輯完備スヘキコトヲ切望シ、大正十五年七月以來本會ノ補助ヲ以テ之カ遂行ニ努力セラル。而シテ其ノ第一着手トシテ東京、大阪、名古屋、東都等ノ大書林ニ就キ續々關係圖書ノ購求ヲ爲シ、既ニ四十餘種ヲ獲、尙各圖書館ヲ始メ舊藩侯、舊名家等ニ就テ調査ヲ進メ借覽寫取セラレツ、アリ。

四六、佛教大辭典編纂

三ヶ年間ニ金六千圓ノ補助

市内小石川區林町二六

文學博士 望 月 信 亨

〔略傳〕 明治二年九月福井縣今立郡國高村字村國松原新六兵衛ノ五男ニ生ル。後神戸市望月有成ノ養嗣子トナル。明治十九年京都知恩院大學校ニ入り、二十一年東京淨土宗學本校（宗教大學ノ前身）ニ入學、二十八年卒業。尋テ佛



教研究ノ爲メ比叡山等ニ遊學シ、三十二年淨土宗學本校教授トナリ、大正三年宗教大學々長ニ任セラレ、十三年文學博士ノ學位ヲ受ケ、現ニ大正大學々部長タリ。明治四十四年ヨリ大正二年マテ淨土宗執綱タリ。著書ニ「佛教大辭典」已刊三卷、佛教大年表、法然上人全集、淨土教の研究、大乘起信論等アリ。

〔事業〕 本事業ハ望月氏カ明治四十年已來經營セラレシ所ニシテ、主トシテ佛教研究者ノ便ヲ圖ラントスルニ在リ。四十二年三月已後佛教大辭典分本三冊（九百九十二頁、四六倍判、六號組）並ニ佛教大年表一冊（六百餘頁、四六倍判、六號組）ヲ編纂刊行セラレタリ。然ルニ發行者タル書肆カ多額ノ費用ト多數ノ歲月トヲ要スル該編纂ヲ支持スルニ堪ヘス、其後中止ノ已ムナキ情況ニ陥リ、加フルニ大正十二年九月ノ大震災ニ依リ、既刊分ノ紙型並ニ刷本等悉皆烏有ニ歸シ、遂ニ絶望ニ瀕ス。仍テ之ヲ繼續編纂センカ爲ニ大

正十五年七月以降本會ニ於テ其經費ヲ補助スルコトトセリ。本編纂ハ佛教經典及ヒ論釋紀傳中ノ術語、梵語ヲ始メ、佛名、神名、人名、地名、寺名、書名、圖像、器具等ニ至ルマテ、アラユル語類ヲ網羅シテ、之ニ最モ正確ナル解釋ヲ施シ、一々其出典ヲ示スノミナラス、佛名、神名等ニシテ苟クモ圖像アルモノハ、悉ク之ヲ插畫シテ專ラ學者ノ研鑽ニ資センコトヲ期セリ。目下十數名ノ助員ヲ督シ、銳意編纂中ニテ、大正十八年七月頃ニ完了ノ豫定ナリ。

四七、「日本ニ於ケル造林ノ起源及

發達」ノ編纂

ニケ年間ニ金貳千圓ノ補助

市外代々幡町幡ヶ谷八

遠藤安太郎

〔略傳〕 明治五年富山縣ニ生レ、石川縣ニ人トナリ、夙ニ北海道ニ移住ス。初メ東京同人社等ニ學ヒ、後農大本多博士指導ノ下ニ造林學、林政學ヲ修ム。二十九年職ヲ御料局ニ奉シ、次テ徳島、山梨、石川ノ諸縣ニ歷任シ、大正三年朝鮮貴族團ノ招聘ヲ享ケ、其ノ技師長トナリ、九年農林省



囑託ヲ命セラレ、林政沿革調査等ニ從事シ今日ニ及フ。著書ニ林業論纂、山蒸菜篇、石川縣山林誌等アリ。

〔事業〕 吾國ノ國情ハ歐米諸邦ニ比シ用材、燃料等ノ林產物ヲ需用スルコト多大ニシテ、割合廣汎ノ供用林ヲ常備セサルヘカラス。一面地勢其ノ他ノ關係上保安林ノ存置ヲ必要トシ、就中農業灌漑用水、工業働力用水等ノ爲メ特種林ヲモ強要スルニ至レリ。此等ノ森林ヲ造成シ更新スルニハ吾國ト氣候、風土、樹種ノ同一ナラサル歐米ノ方式ヲ直ニ適用シ難キニ拘ハラス、從來專ラ外國法ニ則リテ實施シ吾國固有ノ經驗ヲ閑却シタル傾アリ。而モ吾國ノ造林ハ宏遠ノ古ニ創メラレ、爾來幾多ノ歲月ヲ重ネ、明治時代ニ至リ、少クモ千有餘年ノ經驗ヲ積ミタルヲ以テ、吾國固有法ノ存セサルノ理ナシ。遠藤氏此點ニ着眼シ、久シキ以前ヨリ獨力之カ研鑽ニ着手セラレタルモ、不幸大正十二年ノ大震火災ニ其資料ノ大半ヲ焼失シタリ。依テ十五

年七月以來本會ノ援助ノ下ニ更ニ不足セル資料ノ蒐集ヲナシ之ニ基キテ其ノ研究成績ヲ編纂スルノ計畫ヲ立テラレ、既ニ幕領(甲府外三ヶ所)私領(德島外十六藩)ノ舊記類等ヲ抄出セラレタリ。

四八、「ボテイチエリ」ヲ中心トシタル

文藝復興期ノ研究

三ヶ年間ニ金九千七百貳拾圓ノ補助

市外入新井宿一五七〇

文學士 矢代 幸雄



〔略傳〕 明治二十三年十一月横濱市ニ生ル。

一高ヲ經テ、東京帝大ニ入り、英文學ヲ修メ、其間又洋畫ヲ研究シ、文展等ニ出陳ス。大正四年大學卒業ニ際シ恩賜品ヲ授與セラレ、七年東京美術學校教授ニ任シ、第一高等學校、東京高等師範學校ニ教授又ハ講師ヲ兼任ス。十年來歐米各國ニ留學スルコト四年、主トシテ「イタリヤ」繪畫史ヲ研究シ、同研究ノ一部ハ英文 “Sandro Boti-”
[註]ト題シテ發表ス。十四年歸朝、爾後東京美

術學校教授トシテ西洋美術史等ヲ擔當セララル。

〔專業〕 千四百年代ニ發達シタル「イタリヤ」繪畫ハ唯ニ西洋美術史上ノ一大精華タルノミナラス、又夫ニ特有ナル水繪具ノ技巧ヲ以テ日本人ノ美意識ニ親近ナル表現形式ヲ生ミ、吾人ヲ教フルトコロ尠カラス。是レ矢代氏ノ千四百年代イタリヤ繪畫研究ニ着手セラレタル主因ニシテ、同氏ハ特ニ研究ヲ當代ノ代表的畫家 Sandro Botticelli ニ集中シ、同研究ノ結果ノ一部ハ英文著書トシテ既ニ「ロンドン」ニ發刊セラレタリ。然レトモ同氏ハ從來ノ研究カ尙未完成ニシテ Botticelli ト周圍トノ關係特ニハ Botticelli ヲ Leonardo Da Vinci ニ推移シテ完成スル同時代美術發達ノ全般的研究ヲ缺クテ遺憾トシ、大正十五年七月以來本會補助ノ下ニ此等ノ研究ヲ遂行セララル、コト、ナレリ。而シテ近々再度渡歐調査セララル、カ爲メ、目下其準備的研究ニ忙殺サレツ、アリ。

四九 續日本名家四書註釋全書出版

金四千七百圓ノ補助

〔略傳〕 明治九年十月新潟縣中頸城郡和田村

東京市本郷區駒込神明町三八七

關儀一郎



字島田ニ生ル。三十一年七月私立哲學館(東洋大學前身)高等科卒業、同年又同館漢學專修科兼修、三十二年六月中等學校倫理科教員檢定試験ニ合格、其後三重縣立第四中學校教諭、新潟縣立高田師範學校教諭ヲ歷任、大正元年病氣退職ス。爾後漢學ノ研鑽ニ從事シ、殊ニ本邦儒學ノ考究ニ力ヲ注キ、十一年四月多年蒐輯セル資料ヲ整理校訂シテ、日本名家四書註釋全書全十冊ノ發行ニ着手シ、十五年十一月完成セラレタリ。

〔事業〕 關氏ハ大正十五年十月以來、本會援助ノ下ニ續日本名家四書註釋全書三冊ノ發行ニ着手シ、目下進行中ニ屬ス。該全書ハ先ニ完成セラレタル正編十冊中ニ收ムルヲ得サリシ邦儒ノ四書註釋中、考證又ハ識見ニ於テ優秀ナル價值ヲ有スルモノ五種(學庸知言、同參辨、同鄭氏義、論語註解讀孟叢鈔)ヲ選ヒ、嚴密ナル校訂ヲ施シタルモノニシテ、

是等ノ書ハ何レモ未刊本ニシテ、而モ傳寫本極メテ少ナキ珍籍ナリ。蓋シ本書ノ發行ハ本邦ノ經學ヲ紹介スル上ニ於テ、有力ナル資料タルヘキハ疑ヲ容レサルナリ。因ニ本事業ノ遂行ニ對シテハ、同氏ノ令弟其事務的方面ヲ分擔シテ、熱心ニ盡力セラレツ、アリ。

五〇、蟾蜍毒ノ化學的研究

三ヶ年間ニ金參千圓ノ補助

市内本郷區駒込神明町三九〇

理學士 小竹無二雄

〔略傳〕 明治二十七年十一月富山市總曲輪ニ生ル。第七高等學校ヲ經テ、大正九年七月東北帝大理學部化學科卒業。同時ニ財團法人理化學研究所研究生トナリ、十一年七月同所助手ニ任セラレ。十二年五月文部省在外研究員トナリ、英、米、獨國ニ留學シ、十四年十月歸朝、十四年十一月同所助手ヲ免セラレ、生化學ニ關スル研究ヲ囑託セラレ、同月東京高等商船學校化學講師

ヲ囑託セラル。



「事業」蟾蜍毒ハ古來強心劑トシテ使用セラレ或ハ切傷其他ニ用ユ然レトモ其毒素ヲ科學的ニ研究スルニ至レルハ千九百二年ヲ始メトス。千九百十四年獨逸學者ハ其化學構造ノ研究ヲ始メ今尙續行シツ、アリ。然レトモ獨逸

産ノ蟾蜍ハ毒素含有量僅少ニシテ研究ニ不便ナルニ反シ、本邦産ノモノハ毒作用強烈ニシテ最モ本研究ニ適當ス。小竹氏ハ大正十五年十月以來本會援助ノ下ニ本研究ニ從事シ、年内ニハ蟄ヲ採集スル事不可能ニツキ蟄ノ分泌物ヨリ作りタリト言ハル、醃酥ヲ得テ成分ヲ檢出中ノトコロ、融點二一五ノ結晶ヲ得タルニ依リ其性質ヲ調査中ナリ。

附表 補助事業成績一覽 (大正十五年未現在)

一、大正十五年度未迄ニ全部完成結了セルモノ
(一) 大正十四年度未迄ノ分

件名	擔任者	摘 要
燉煌古書ノ摹本作製	瀧 精 一	摹本二十點ハ大正十年展覽會講演會開催ノ上之ヲ東京帝大ハ寄附シタリ、然ルニ十二年九月ノ震災ノ爲メ焼失セリ、但シ其寫ハ東京美術學校ニ存ス
「本朝文粹註釋」ノ出版	柿 村 重 松	上下二冊二千三百九十五頁ヨリ成リ一千部ヲ出版セリ、内三十部ハ本會ヨリ各方面ヘ配布シ殘部ハ出版者ニ於テ賣捌キツツアリ、尙本件ニ付柿村氏ハ恩賜賞ヲ受ケラレタリ
第一回支那佛蹟踏査	常 盤 大 定	山東外四省ノ踏査ヲ遂行シ其成績ハ展覽會講演會ニ於テ發表シ、且ツ「支那佛敎史跡」ノ著トナル、尙蒐集拓本等ハ東大文學部漢文研究室ヘ假寄託ノ處十二年九月ノ震災ノ爲メ焼失シタリ
英國博物館所藏支那古寫本ノ研究	矢 吹 慶 輝	「スタイン」氏ノ燉煌發掘品中主トシテ東洋ノ宗教ニ關スルモノ約七百餘點六千枚ノ攝影ヲ完了シ、其研究ニ對シテ學位ヲ受ケラル、尙右寫真ハ全部整理済ナリ
日本家庭ニ於ケル電力ノ利用	鳥 潟 右 一	四ヶ年ニ完成ノ豫定ノ處約二ヶ年半經過後死去セラル、但シ學理上テ發表済ナリ 「蓄電包厨裝置ト電氣鍋並ニ電氣火鉢」ト題シテ
瓜哇史ノ翻譯	松 岡 靜 雄	蘭語ヲ以テセル「フロイン・メイス」夫人原著ノ翻譯ヲ完成シ「瓜哇史」(菊列四百三十二頁)ト題シテ出版シ、内本會ヘ提出ノ二十部ハ諸方面ヘ配布シタリ

古語拾遺ノ研究、英譯及出版	星加野藤子、四郎智	研究及英譯ヲ完成シ、「古語拾遺」ト題シテ出版シ(菊判百九頁)、内本會へ提供ノ百部ハ諸方面へ配布シタリ
校本萬葉集ノ整理及刊行	佐々木信綱	「校本萬葉集」五帙二十五冊ヲ出版ス、本會へ提出ノ五部ハ諸方面へ配布ス
更科日記錯簡考ノ出版及同註譯ノ研究	玉井幸助	「更科日記錯簡考」ト題シテ出版ス、本會へ提出ノ二十部ハ諸方面へ配布ス、同註譯モ亦完成出版ス
日支對譯漢辭典ノ編纂及出版	服部操	「日華大辭典」ト題シテ出版ス、本會へ提出ノ三十部ハ諸方面へ配布ス
鳥頭屬植物ノ猛毒成分研究	眞島利行	「アコニツム、アルカロイド」ニ就テ(獨文)ヲ發表シ更ニ「鳥頭屬植物ノアルカロイド」ノ研究成績」ヲ出版ス、本會へ提出ノ五十餘部ハ諸方面ニ配布ス
西日辭典ノ出版	清野三郎	「西日辭典」ト題シテ出版ス、本會へ千二十五部提供、内百二十餘部ハ諸方面へ配布シ、殊部ハ實費讓渡ス
グエイマルン博士「コロイド」化學研究成績ノ發刊	片山正夫	Die Allgemeinheit des Kolloidzustandes ト題シテ出版ス、本會へ提出ノ百部ハ諸方面ニ配布ス
假名調査	大矢透	假名遣及假名字體沿革資料トシテ「十論經元慶點」「成實論天長點」「顯經四分律古點」ヲ發表、一唐寫四分律古點「外四卷ヲ脱稿、外ニ韻鏡考」ヲ出版シ(本會へ提出ノ二百部ハ諸方面へ配布)更ニ結論トシテ「假名研究」二卷ノ提出アリ、其概要ハ「假名ノ研究」ト題シ、本會紀要ニ發表セリ

(二) 大正十五年度中分

件名	擔任者	摘要
「アイヌ」辭典ノ増補改版	ジョン、バチラー	「An Ainu-English-Japanese Dictionary」一千部ヲ出版シ、内三十部本會へ提出アリ、諸方面へ配布シタリ
日本住宅ニ關スル衛生學的研究	田村昌	「空氣中ノ有毒瓦斯」「空氣中ノ有形物質」「空氣ノ衛生學的研究」「日本室ノ換氣」病室ト燒房ト其空氣」等ヲ發表ス
支那財政ノ研究	木村増太郎	「支那財政論」ヲ脱稿シ印刷中ナリ、外ニ「支那財政ノ真相ト革新策」「支那ノ關稅改正」ノ二論文ヲ本會紀要ニ發表ス
爬蟲類等ノ聽覺ノ研究	黒田亮	「Experimental Researches upon the Sense of hearing in Lower Vertebrates, including Reptiles, Amphibians, and Fishes」ヲ發表ス
常磐炭田ニ於ケル炭層ノ研究	徳永重康	數百頁ニ上ル研究報告ヲ脱稿シ印刷中ナリ
「大唐西域記」ニ記セル東南印度諸國ノ研究」ノ出版	高桑駒吉	「大唐西域記」ニ記セル東南印度諸國ノ研究」一千部ヲ出版シ、内四十部本會へ提出アリ、諸方面へ配布シタリ
「經濟上ヨリ觀タル蘭領東印度」ノ完成並出版	増井貞吉	「經濟上ヨリ觀タル蘭領東印度」一千部ヲ出版シ、二百部本會へ提出アリ、内四部ヲ献上シ、殘ハ諸方面へ配布シタリ

二、大正十五年度末迄ニ略完成シテ整理中ノモノ、及一部完成シテ發表濟ノモノ

件名	擔任者	摘		要
		前年度末迄ノ分	本年度中ノ分	
古社寺所藏圖書ノ調査	高楠順次郎	近畿所在十餘名利ノ十數ヶ書庫ノ藏書ノ詳查ヲ了ル	目下成績整理中	
生體染色及細胞ノ機能の鑑別研究	清野謙次	「生體染色研究」第一卷乃至第六卷ヲ發表ス。學士院賞ヲ受ケラル	同上第七卷ヲ發表ス	
俗間藥ノ研究	八木精一	「一位ノ糖尿抑制作用ニ就テ」、 「商陸根ノ藥物的研究」、 「強心藥チキタリチ葉ニ關スル研究」、 「和文第一報第二報及英文ノモノ」、 「昆布ノ強心、利尿作用ニ就テ」、 「和、英文」芭蕉根ノ解熱作用ニ 就テ、 「俗間利尿藥、岩露ノ藥學的作用ニ就テ」等ヲ發表ス	「南天實中ノ一新アルカロイド、 ナンテニンノ化學的并ニ藥學 的研究」及「酸漿ノ解熱并ニ強 心作用ニ就テ」ヲ發表ス	
「日本産魚類圖說發刊」	田中茂穂	第三十一卷乃至第三十四卷ヲ出版ス		
東洋音樂理論ノ科學的研究	田邊尙雄	「朝鮮李王家ノ古樂舞」及「臺灣、琉球ノ音樂」ニ付研究成績ヲ講演ス		

實驗遺傳學上ノ研究	池野成一郎	「まつばたん」花色遺傳研究」 （英獨文）、「やなぎの雜種ニ就テ ノ研究」（英文）、「おほほ」遺傳 學上ノ研究」（獨文）、「さざえ」 ばこニ付テノ研究」（獨文）、「むぎ 芒ノ研究」、「大麥ノ研究」ヲ發表 ス		
「日本藻類圖說」ノ出版	岡村金太郎	第四卷第五集乃至第十集及第五 卷第一集乃至第六集ヲ出版ス	第五卷第七集ヲ出版ス	
植物色素ノ生物化學的及分光化學的研究	柴田雄桂 柴田次太	「黃荃ノ新フラボン族化合物 ニ關スル研究」（和、獨文）、「カ ルコン及其誘導體ノ吸收スペク トル」（和、獨文）、「フラヴォン類 色素ノ吸收スペクトル研究第一 報」（獨文）、「ベンゾフェン族化 合物ノ分光化學的研究」、「藻紅素 及藻青素ノ生物化學的研究」新 フラヴォン配體糖アカシインノ 研究」フラヴォン族化合物ノメ チール誘導體分光化學的研究」 及「フラヴォン配體體分光化學 的研究」ヲ發表ス	「自然的ベンゾフェン誘導體ノ 吸收スペクトル研究」ヲ發表ス	
波斯ニ關スル研究資料ノ蒐集	荒木茂	辭典、紀行、歴史、言語學ニ關 スルモノ五百七十冊到着ス	同上百餘冊到着ス	
海産動物ノ「プロタミン」並ニ「ニューロレインツク」酸ノ研究	山川洵	「新しきプロタミンに就テ」第二 報第三報、「イースト、ニューロ レインツク酸に就テ」第二報」ヲ 發表ス	「新しきプロタミンに就テ」第四 報、「二三のプロタミンとヒスト ンに就テ」第一報、「大羽鱈ノ精子 に就テ」第一報、「鯉精子のニュー レイン酸に就テ」ヲ發表ス	

日本産鑛物ノ他像ニ 關スル研究	市川新松	「日本産黄寶石ノ研究」(英文)ヲ 發表ス	
家畜ニ於ケル遺傳ノ 細胞學的研究	増井清	「マウスニ於ケル生殖腺除去ノ 副腎ニ及ボス影響並其組織細胞 學的研究」ヲ發表ス	“The Effect of Gonadectomy on the Structure of the Supra- renal Gland of Mice, with Reference to the Functional Relation between this Gland and the Sex Gland of the Fe- male.” “The Effect of Gona- dectomy on the Weight of the Kidney, Thymus, and Spleen of Mice” 等ヲ發表ス
渦動ノ研究	藤原咲平	「地形ノ渦巻ト相模灘大地震」 「相模灘大地震ノ機巧ニ就テ」及 「地球ノ表面ノ渦巻」(英文)ヲ發 表ス	
かつを、まぐろ類ノ 研究	岸上鎌吉	「カツヲ漁場ニ於ケル視察」ヲ發 表ス	「大正十四年ニ於ケルしび、かつ を研究ノ概要」ヲ發表ス
明治工業史ノ編纂完 成及出版	男爵古市公威	「化學工業篇」及「造船篇」ヲ出版 ス	「鐵道篇」ヲ出版ス
琉球藝術調査	伊東忠太郎 鎌倉芳太郎	「琉球美術ノ性質」(伊東忠太郎)、 「琉球藝術工藝」(鎌倉芳太郎)ト 題シテ調査成績ノ一部ヲ講演シ 蒐集品約二千點ヲ展覽ス	

(三) 依嘱事業

一、近世外交政治史ノ講述

約二ヶ年間ニ約百回(經費、概略
金六千圓)

京東市本郷區向ヶ岡彌生町三

文學博士 坪井九馬三



〔略傳〕坪井氏ハ安政五年十二月大阪府ニ生
ル。明治十四年東大文科(政理)卒業、更ニ理科應
化ニ入り、十八年同科卒業、二十四年學位ヲ受ク、
夙ニ東大教授ニ任シ、帝國學士院會員ヲ命セラ
レ、又文科大學長ニ任ス、大正十二年東大教授ヲ
退キ、同大名譽教授ノ名稱ヲ受ケラル。

〔事業〕坪井氏ハ西洋史殊ニ近世外交政治史
ノ權威ニシテ、多年東京帝大ニ於テ頗ル該博詳
細ナル研究ヲ發表セラレタリ。而シテ其ノ學
界ニ貢獻スルト共ニ、外交政治ノ實務ノ參考トシテモ亦頗ル有益ナルヘキハ定評ノ存
セシ所ナルカ、未タ其全部ヲ纏メテ著述セラレタル事ナシ。本會之ヲ遺憾トシ、速記ノ

上出版センカ爲メ、右講述ヲ博士ニ依頼シ快諾ヲ得タリ。而シテ先ツ資料ノ蒐集等準備整ヘラレ、大正十三年一月ヨリ講述ヲ開始セラレ、毎週二回ノ講述ヲ勵行シ、十五年末迄滿二ケ年ニシテ上、中兩卷ノ原稿ヲ完結セラレ、本會ハ直ニ富山房ト契約シテ出版ニ着手セリ。而シテ下卷ノ完成ハ昭和二年末ノ豫定ナリ。尙本事業ノ爲メ文學士淺野利三郎、溝口駒造兩氏ハ坪井博士ヲ助ケテ其進捗ニ努メラレツツアリ。

(四) 講演會及展覽會

(前年度末迄ニ開催セルモノ)

回次	演題及展覽品	會場	年月日	講演者及説明者
第一回講演會	法律上ヨリ觀タル國際聯盟 經濟方面ヨリ觀タル國際聯盟	東京高商	八、一〇、二五	法學博士 山川端夫 日銀理事 深井英五
第二回講演會	獨逸ノ近況 最近世界ノ三大思潮	私立衛生會	九、四、一七	文學博士 高楠順次郎 法學博士 岡實
第三回講演會	露國ノ最近社會變動ノ經過及 因由	保險協會	九、一〇、二三	文學士 今井時郎
第一回展覽會	燧煌發掘古書摹本 二十點	東京帝大	一〇、四、二四	文學博士 瀧精一 永田春水 井上白揚
第四回講演會	「スタイン」氏發見ノ燧煌書ニ 就キテ	東京帝大	一〇、四、二四	文學博士 瀧精一
第五回講演會	朝鮮李王家ノ古樂舞——我カ 宮中ノ舞樂トノ關係	工業俱樂部	一〇、七、九	理學士 田邊尙雄
第六回講演會	米國々民性ノ研究ト日米關係 ノ新方面	工業俱樂部	一〇、一〇、二三	法學士 鶴見祐輔

- 第七回講演會 支那佛教史蹟ノ踏查報告 東京帝大 一、四、九 文學博士 常盤 大定
- 第二回展覽會 支那佛教史蹟ノ拓本及寫真約三百點 東京帝大 一、四、九 文學博士 常盤 大定
- 第八回講演會 臺灣蕃人及琉球諸島ノ音樂ト日本音樂トノ關係 工業俱樂部 一、二、一、四 理學士 田邊 尙雄
- 第九回講演會 「往來物」(徳川時代庶民教育教科資料)ニ就キテ 商工獎勵館 一、二、一、一八 理學博士 岡村金太郎
- 第三回展覽會 「往來物」(徳川時代庶民教育教科資料)約二千部 商工獎勵館 一、二、一、一九 理學博士 岡村金太郎
- 第十回講演會 歐洲ノ近況 工業俱樂部 一、二、六、一六 法學士 石井 銀彌
- 第十一回講演會 建築ノ理想ト實際 工業工俱部 一、三、五、三 工學博士 伊東 忠太
- 第十二回講演會 波斯、メソポタミヤ、及土耳其方面視察談 工業俱樂部 一、三、七、一九 總領事 縫田榮四郎
- 第十三回講演會 ブラジル移民問題ニ就キテ 工業俱樂部 一、三、一、二、一三 法學士 富田愛次郎
- 第四回展覽會 英國博物館所藏燉煌出土古寫本佛典ロートグラフ 東洋文庫 一、四、四、一九 文學博士 矢吹 慶輝
- 第十四回講演會 同 右ニ就キテ 東洋文庫 一、四、四、一九 文學博士 矢吹 慶輝

第五回展覽會 琉球藝術品

- 琉球史概觀 東京美校 一四、九、五—七 工學博士 伊東 忠太
- 南島研究ノ現狀 東京美校 一四、九、五 法學士 柳田 國男
- 古琉球ノ歌謠ニ就キテ 東京美校 一四、九、六 文學士 伊波 普猷
- 琉球美術工藝ニ就キテ 東京美校 一四、九、六 文學士 鎌倉 芳太郎
- 琉球美術ノ性質 東京美校 一四、九、七 工學博士 伊東 忠太
- 琉球ノ音樂ニ就キテ 東京美校 一四、九、七 工學博士 山内 盛彬
- 附琉球音樂演奏舞踊 東京美校 一四、九、七 工學博士 山内 盛彬

- 第十六回講演會 新土耳其國ノ建設 工業俱樂部 一四、二〇、二〇 前特命全權大使 内田 定槌
- 土耳其ノ經濟事情 工業俱樂部 一四、二〇、二〇 土耳其代理大使 フエルシー、ペー、フエアド、ペー

(本年度中ニ開催セルモノ)

- 第十七回講演會 海外企業ニ就テ 工業俱樂部 一五、三、六 貴族院議員 藤山 雷太

- 第十八回講演會 眼前の異人種問題 東朝顧問 柳田 國男
- アイヌ研究の現狀 東大講師 金田 一京助
- アイヌの生活に就きて 北大教授 八田 三郎
- 活動寫真 同 上
- 白老コタンアイヌの生活 十勝アイヌ 伏根 弘三
- アイヌ生活の變遷 神學博士 シジョン、パチラー
- アイヌ語の本質 一二九

第十九回 邦樂會

我が國の古舞古樂に就きて
 舞 朗 吟 樂
 田 聲 明 樂

九段靖國神社能樂堂 一五、一〇、三〇

文學博士 高野 辰之
 宮内省樂部員 同
 法隆寺管長 佐伯 定胤
 法隆寺管長 佐伯 良謙
 三〇 觀山大學教授 多紀 道忍
 熊野那智神社田樂部員

右講演筆記ハ一二ヲ除キ皆之ヲ印刷ニ附シ、講演集トシテ各方面ニ配布シタリ。

(五) 紀要ノ出版

(前年度末迄ニ出版セルモノ)

- 第一號 「往來物目錄」 理學博士 岡村金太郎君編
- 第二號 「英國博物館所藏スタイン寫本寫真帖」 文學博士 矢吹慶輝君編
- 第三號 「支那財政ノ真相ト其革新策ニ就テ」 法學士 木村増太郎君報告
- 第四號 「支那ノ關稅改正問題」(特別關稅會議ト其對策) 法學士 木村増太郎君報告
- (本年度中ニ出版セルモノ)
- 第五號 「假名の研究」 文學博士 大矢透君報告

一一 會 計

貸借對照表 (大正十四年度末)

借方 (資産ノ部)		貸方 (負債ノ部)	
有價證券(額面一百十萬六千八百五十四)	1,031,355.110	寄附財產	1,000,000.000
定期預金	110,000.000	當期剩餘金	27,177.310
當座預金	19,842.010	合計	1,027,177.310
合計	1,241,197.110		
大正十四年度收支決算			
收入之部		雜收入	
前年度ヨリ繰越金	77,052.630	合計	1,150
有價證券利子	55,855.480	支出之部	1,446,553.0
其他預金利子	1,556.700	事務費	82,438.00
		會議費	3,100.00
			131

俸給及給與	六四三・〇〇〇	寄附行爲第三條依囑費	二二六・二七五 ^甲
備品費	一〇六・五〇〇	寄附行爲第三條講演會等經費	三二七・六七〇
消耗品費	一一・〇三〇	右 同出版費	五八七・五〇〇
圖書及印刷費	三三五・二〇〇	右 同發送費	五六・三四〇
通信運搬費	九五・〇〇〇	右 同圖書費	三三・二五〇
雜費	八〇・一七〇	合計	六二二・八三〇
事業費	五四,〇四五〇	差引	七二・七七・三三〇
委員手當及報酬	二〇〇・〇〇〇	剩餘金	七二・七七・三三〇
寄附行爲第三條補助費	四七・八七・〇〇〇		
大正十五年度豫算			
收入之部		有價證券額面五十五萬	二七・七七・四八〇
前年度繰越金	六七・四〇〇・〇〇〇 ^甲	五千五百五十圓ノ利子	三〇六・〇〇〇
有價證券額面五十萬圓ノ利子	二五,〇〇〇・〇〇〇	有價證券額面五萬	一,五〇〇・〇〇〇
		一千三百圓ノ利子	一,五〇〇・〇〇〇
		預金利子	一,五〇〇・〇〇〇

合計	二四七,五五八・〇	圖書及印刷費	三九六 ^甲
支出之部		通信運搬費	一〇〇・〇〇〇
事務費	六八〇・九五〇	雜費	一,四〇〇・四〇〇
會議費	四八・〇〇〇	事業費	一七,五四五・九六〇
俸給及給與	四二五・九五〇	委員手當及報酬	二五〇〇・〇〇〇
旅費	五・〇〇〇	寄附行爲第三條事業費	一一五,〇四九・九六〇
備品費	五・〇〇〇	豫備費	四〇〇・〇〇〇
消耗品費	一四〇・〇〇〇	合計	二四七,五五八・〇

三 會 議

大正十五年度中ニ理事會ヲ開催セシコト六回、評議員會ヲ開催セシコト四回ナリ。

附 錄

本會設立年月日

大正七年八月八日

本會寄附行爲

第一章 總 則

第一條 男爵牧野伸顯平山成信ハ赤星鐵馬ノ寄附ニ係ル金壹百萬圓ヲ以テ財團法人ヲ設立ス

第二條 本財團法人ハ啓明會ト稱ス

第三條 本會ハ公益ニ資スル爲メ左ノ事業ヲ行フヲ以テ目的トス

- 一 特殊ノ研究、調査、著作ヲ助成シ及發明發見ヲ獎勵スルコト
- 一 必要ニ依リ本會自カラ専門家ニ依囑シテ前項ノ事業ヲ爲スコト

一 外國ニ於ケル同種ノ事業ヲ紹介シ又ハ著作ヲ反譯スルコト
 一 本會ノ目的遂行ノ爲メ必要ナル講演ヲ開キ又ハ出版ヲ爲スコト
 第四條 本會ノ事務所ハ之ヲ東京市麴町區永樂町一丁目一番地ニ置ク
 第五條 本會ノ事業年度ハ毎年一月一日ヲ以テ始マリ十二月三十一日ヲ以テ終ル但
 初年度ハ本會設立ノ日ヲ以テ始マル
 第六條 本會附行爲ノ條款ハ評議員會ノ決議ヲ經且主務大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ變
 更スルコトヲ得

第二章 役員

第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 一 理事長 一名
 一 理事 五名
 一 評議員 十五名
 内一名ヲ常務理事トス

第八條 理事長及理事ハ評議員會ノ決議ヲ以テ評議員中ヨリ之ヲ推薦ス但本會設立
 ノ際ハ寄附者之ヲ推薦ス
 理事長ハ本會ヲ代表シ理事及評議員會ノ議長ト爲ル
 理事ハ會務ヲ掌理ス

第九條 初度ノ評議員ハ寄附者之ヲ推薦シ缺員ヲ生シタルトキハ評議員會ノ決議ヲ
 以テ其補缺ヲ爲ス
 評議員ハ重要ナル會務ヲ審議ス

第十條 理事長及理事ノ任期ハ三年トス但重任ヲ妨ケス
 第十一條 本會ニ必要ナル事務員以下ハ理事長之ヲ任免ス

第三章 顧問及委員

第十二條 本會ニ顧問若干名ヲ置ク
 顧問ハ評議員會ノ決議ヲ以テ之ヲ推薦ス但本會設立ノ際ハ寄附者之ヲ推薦ス
 第十三條 顧問ハ本會ノ諮問ニ應シ且隨時理事會及評議員會ニ出席シテ意見ヲ開陳

ス

第十四條 本會ハ必要ニ應シ各種ノ委員ヲ置ク
委員ハ理事長之ヲ囑託ス

第四章 會議

第十五條 會議ヲ分チテ理事會及評議員會トス

第十六條 理事會ハ理事長隨時之ヲ召集ス

第十七條 理事會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ議長
ノ表決ヲ以テ之ヲ決ス

第十八條 評議員會ハ通常及臨時トス

通常評議員會ハ毎年十二月及三月ヲ以テ理事長之ヲ召集シ本會ノ豫算及決算ヲ議
定ス

臨時評議員會ハ理事長必要ニ應シ之ヲ召集ス

評議員五名以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求スルトキハ臨時會ヲ召集ス

ルコトヲ要ス

第十九條 左ノ事項ハ評議員會ノ議ニ付スルヲ要ス

一 寄附行爲ノ變更

一 本會諸規則ノ制定變更

一 本會ニ於テ施行スヘキ事業ノ決定

一 理事長理事及顧問ノ推薦

一 資産管理ノ方法

一 其他理事會ニ於テ評議員會ノ決議ヲ要スト認メタル事項

第二十條 評議員會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ議
長ノ表決ヲ以テ之ヲ決ス但左ノ場合ニ於テハ評議員三分ノ二以上ノ出席アリ且出
席者三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一 寄附行爲ノ變更

一 不動産ノ買入

一 理事長及理事ノ推薦

第五章 資 産

第二十一條 本會ノ資産ハ左ニ掲クルモノヲ以テ之ヲ組成ス

- 一 寄附財産金壹百萬圓
- 一 本會ノ事業又ハ財産ヨリ生スル收益
- 一 其他本會ニ於テ取得スル財産

第二十二條 本會ノ財産ハ國債證券又ハ確實ナル有價證券ヲ買入レ若クハ郵便官署又ハ確實ナル銀行ニ預ケ入ルルモノトス但特別ノ事情アル場合ニハ評議員會ノ決議ヲ經テ不動産ヲ買入ルルコトヲ得

第六章 會 計

第二十三條 本會ノ收支ハ每事業年度ノ末日ヲ以テ之ヲ決算ス

第二十四條 本會ハ事業年度毎ニ財産目錄貸借對照表及事業報告書ヲ作り決算ト共ニ評議員會ニ提出スヘシ

本會職員名簿

(イロハ順)

顧問

伯爵 牧野 伸 顯

理事長

男爵 平山 成 信

常務理事

鶴見 左 吉 雄

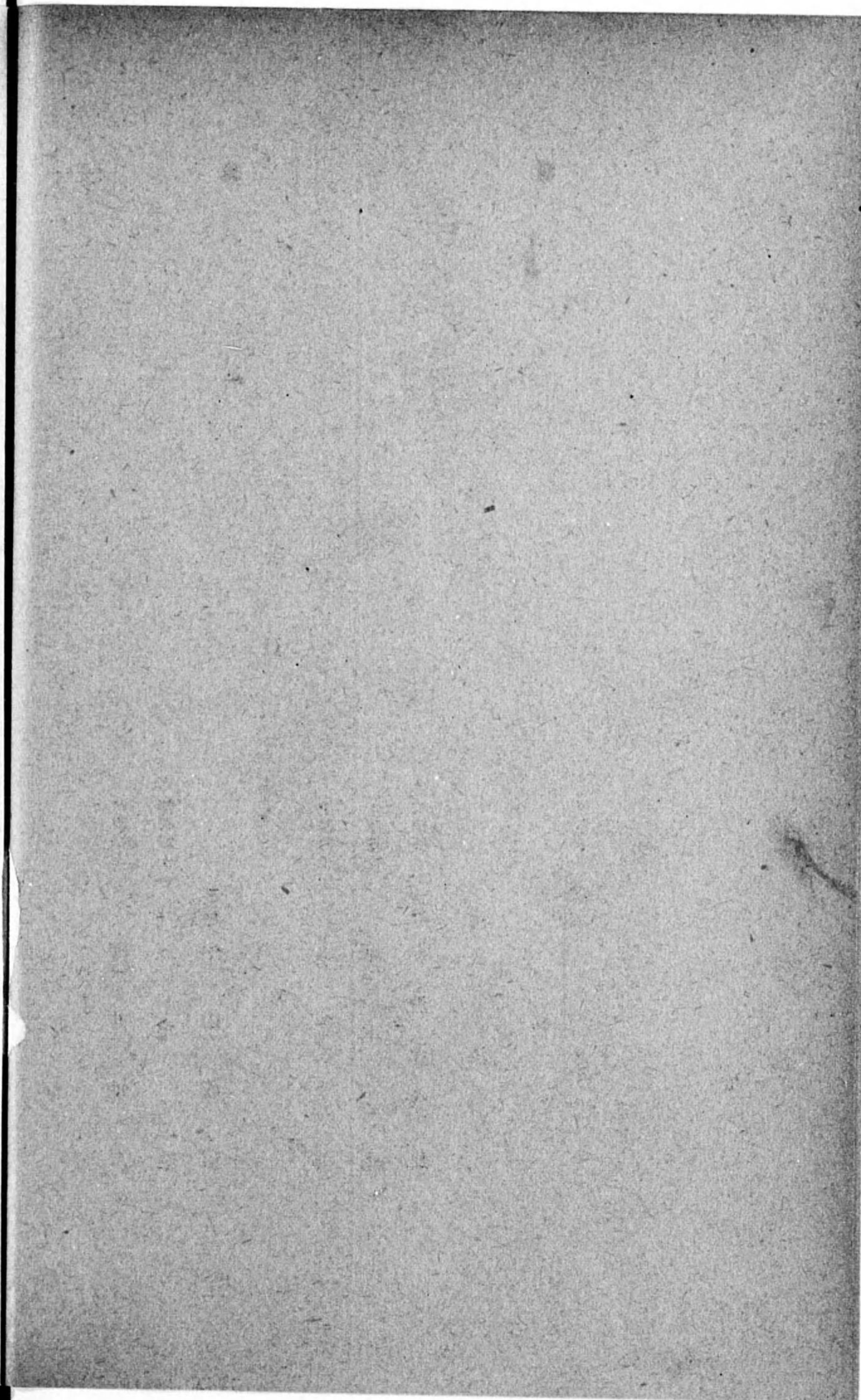
理事

申 田 萬 藏

山 之 内 一 次

松 浦 鎮 次 郎

小 松 謙 次 郎



終

